

2022（令和4）年度
事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

目次

01 法人	1
02 垂穂寮	13
03 やまばと希望寮	16
04 わかば(もくれん含む)	20
05 みぎわ	26
06 ケアセンター花もも	28
07 ケアセンター野ばら	31
08 ケアセンターかたくりの花	33
09 ワークセンターカサブランカ	36
10 ワークセンターコスモス	40
11 ワークセンターなのはな	43
12 ワークセンターあさがお	46
13 ワークセンター希望の家(ふれあい含む)	49
14 ワークセンターやまばと	55
15 ワークセンターさくら	58
16 ケアセンターマーガレット	61
17 レタスクラブ	64
18 生活支援センターやまばと	67
19 聖ルカホーム(ショートステイ含む)	70
20 グレイス	75
21 相寿園	78
22 ぎんもくせい	81
23 デイサービスセンター真菜	83
24 デイサービスセンターすずらん	87
25 ライフサポートさふらん	90
26 居宅介護支援事業所シャローム	93
27 牧之原市地域包括支援センターオリーブ	96
28 コミュニティセンターぶどうの木	98
30 付属明細書	101

2022 年度（令和4）年度 法人全体 事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

A 総括

当年度もコロナ感染への警戒が続き、施設の面会等は制限せざるを得なかった。感染が拡大した 2022 年 7 月以降、ほぼ全ての入所施設とグループホームでクラスターが発生、現場は大変な状況になったが、職員達の真摯な対応と他施設からの応援もあって死者ゼロで終結させることができたのは感謝である。通所施設でも陽性者が出てしばしば休業し、法人全体の収益は前年比・減となったが、一致協力して危機を脱した点では貴重な 1 年だったと言える。職員育成に関しては、「主任を初め現場で直接ケアに当たるスタッフ」への研修を重視し、ある程度成果を上げることができた。又、二つの入所施設と一つのグループホームにおける「改革委員会」は、専門家やベテラン職員の助けも得て有益な内容となり、改善のため自発的・積極的に取り組む流れを生み出した。その他の施設においても、今まで以上に「ご利用者中心のサービス」提供のため工夫する年となった。一方、管理者たちは中長期計画策定研修を通して管理者としての役割を再認識させられ、同性介護など困難な課題に対しても挑戦する大切さを学んだ。職員の中にはかなり高い専門性を身に着けた者も登場しており、全体として、「有資格者で、専門性のある職員像」が目指されるようになってきている。キリスト教精神に立つ法人としては、専門性に加えて、思いやりのある職員、神を愛し人を大切にしている職員が多く育つことを願っている。職員確保に関しては、次年度スタッフとして 5 人の大学新卒者を得られたのは嬉しいことであった。又、7 月から二人目の EPA 生、アニタさんが加わり、外国籍のワーカーは計 4 名になった。多様な文化背景を持つ人々が、のびのびと明るく協力しあえる職場環境をさらに整えていく必要がある。国の内外では、戦争や物価高騰、少子超高齢化社会等、懸念される話題が多いが、今後も私たちは、「互いに愛し合いなさい」とのイエスの言葉を道しるべとして、共生社会形成のため進んで行きたい。

B 2022 年度牧ノ原やまばと学園の事業概要

- 1 評議員、理事、監事の 氏名と任期 (アイウエオ順、敬称略)
 - 【評議員】 (9 名。任期は 4 年。2021 年 6 月～2025 年 6 月の定時評議員会)
池上千穂、柴田敏、杉本正、外岡潤、田島逸雄、早川ひろみ、久田則夫、山城厚生、渡辺紀久子
メンバーの変更あり：2023 年 1 月 20 日、池上千穂を選任（長谷川清太氏ご逝去）
 - 【理事】 (7 名。下線は理事長。任期は 2 年。2021 年 6 月～2023 年 6 月定時評議員会)
姉崎弘、大石幸、金子初子、佐々木炎、長澤道子、松田正幸、三浦賀世
メンバーの変更あり：2022 年 6 月 11 日、神谷美代枝退任に伴い、三浦賀世を選任
 - 【監事】 (2 名。任期は 2 年。2021 年 6 月～2023 年 6 月定時評議員会)
飯塚誉之、松浦隆雄
メンバーの変更あり：2022 年 6 月 11 日、鈴木武退任に伴い、飯塚誉之を選任
- 2 評議員会や理事会等の開催数
評議員会：計 2 回（定時評議員会と、書面による会議 1 回）
理事会：計 6 回（対面の理事会 5 回と、書面による理事会 1 回）
評議員選任解任委員会：1 回 監事監査：業務監査も会計監査も、各 2 回
開催日時や内容等は、添付資料「事業報告 B- 2」に記載したので、参照のこと。
- 3 2022 年度実施の事業、種別、責任者名、職員数等（2023 年 3 月 31 日時点）：
計画に挙げた通りの事業を実施した。各施設の責任者名等は「事業報告 B- 3」に記載。
- 4 2022 年度に実施した研修：添付資料「事業報告 B- 4」に記載したので、参照のこと。
5. 2022 年度末の職員状況：総人数は、471 名 (次ページの表の通り)

牧ノ原やまばと学園の職員状況

(2023 月年 3 月 31 日時点)

	正規職員	準 職	嘱 託	パート	パ・利用者	非正規・計	職員総数
男性 (人数)	75	8	3	36	13	60	135
女性 (人数)	108	24	5	198	1	228	336
平均年齢(才)	47.3	51.6	68.1	58.9	46.2	57.7	53.7
平均勤続年数 (年)	12.14 男 12.18 女 12.11	8.44 男 13.95 女 6.61	12.93	7.32 男 6.11 女 7.54	4.15	7.45	9.27

(注) パ・利用者とは、就労継続 A 型事業所の利用者で、法人の職員としても雇用された人。

★改正女性活躍推進法に定められた「把握すべき項目」は、下記のような内容になった。

全労働者中、女性労働者の割合は、71%、 男女の平均勤続年数は、上の表に記した通り。
管理職に占める女性労働者の割合は、56% (男性 10 名、女性 13 名)

C 重点目標と、達成状況

1 法人と事業所の連携強化、並びに、作業の簡素化

当年度からは、事業計画書と事業報告書の書式を改定。事業所の目標だけでなく、法人の理念や主要計画に連動して計画を立て、振り返ることができるようにしたので、法人と事業所の連携が明確になり、作業の簡素化にもつながったと言える。一方、あまり記載せず空白部分が多い資料もあれば、そうでない資料もあり、書式の目的をよく理解し、それに相応しい記載ができるよう周知させる必要がある。また、連携のあり方に関しても改善が必要。

2 理念の浸透と実践

- (1) 「理念に基づくサービス提供」のために計画が立てられ、その実践について振り返ることになったので、職員たちの、理念への意識、実践の姿勢が強められた。
- (2) 「理念」や「ともに生きる」について学べる書物を施設長たちに紹介する機会が前年に比べ少なかった。又、管理者たちが読後感を発表する機会もなかった。管理者会の時間内に討議すべきことが多かったためだが、次年度のため再検討したい
- (3) コロナ禍で日本基督教社会事業同盟の研修は、一度だけとなったが、職員 1 名が参加し有益な学びをした。聖隷グループの信徒交流会は、コロナ禍で中止。
- (4) 後半期に、キリスト教精神に基づいたメッセージ集 (小冊子) を発行予定だったが、あと一步のところまで具体化できなかった。

3 職員の育成

- (1) 法人が求める職員像を明確化
法人が求める職員像は、ひとことで言えば、「人間性と専門性を備えた職員」であり、この点については周知されている。一方、支援者として求められる職員像は、「当事者の意思を確認し、想いや希望、可能性に添った根拠あるサービスを、チームの一員として提供できる職員」として説明されたが、双方の関連など、十分周知・理解されていない。
- (2) キャリアパス制度の充実・周知に関しては、キャリアパス制度はできているが、分かりやすい内容にし、将来像を描けるようにする点では、不十分だった。
- (3) 「施設長－(副施設長)－主任が、情報共有し検討し合い、職員育成のため各自の役割を十分発揮できる体制を構築する。特に、現場で職員育成の任務を負っている主任たちのレベルアップを図る」という計画は、60%位の達成状況である。下記(4)とも関連し、今後もなお一層、改善が必要である。
- (4) 「主任等研修」を計画通り実施：6月～翌年1月迄、2グループに分けて隔月に開催。主任たちのレベルにかなりの違いがあることが判明した。提供した研修が全ての受講生を満足させたとは言えないが、全体としては主任のレベルアップにつながった。

- (5) 福祉職歴が3年以上の職員は、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士のいずれか一つ以上の資格を持つよう奨励した結果、資格取得の願望が強まり、受験者が増えた。
- (6) 管理者研修：「中長期計画策定」研修は、1回4時間以上、約1年続く長期の学びになった。／労務や法律の学びは実施できなかった。／経理知識がない管理者のための経理の学びも、実施できなかった。／ロボット活用の施設を見学する計画は、コロナ禍で断念。
- (7) 新人職員や一般職員：「身体拘束」といった課題ごとの学びは、「サポートカレッジ」の導入により、Zoomで短時間学習でき、パートたちも学べる有益な研修になった。
- (8) 事務員対象の研修は、ほぼ計画通り実施：県社協主催のリモート研修（予算や決算実務等の学び）、毎月杉山会計事務所による監査・指導を受け正確な会計業務を習得。

4 地域に対する公益的取組や、地域に貢献する活動計画

- (1) 低所得者に対し、利用者負担軽減制度事業を実施した。（聖ルカ、さふらん、真菜）
- (2) ひとり暮らし高齢者のための「ワイワイ話そう会」は、中断した。
- (3) 地域のサロン参加者（高齢者）のための送迎（本部、聖ルカ、真菜、Woc やまぼと）
- (4) 心を病む人たちの居場所、「レタスクラブ」の運営を継続（地域活動支援センター事業）。
- (5) 市民の買い物外出のために、施設の車両を貸し出した。（垂穂寮、野ばら、ぎんもくせい）
- (6) 小学校の資源回収や廃品回収に協力。（相寿園）
- (7) 生活困窮者への食糧支援を呼びかけ、協力した。（真菜、グレイス）
- (8) 町の清掃活動（クリーン作戦）に参加。（なのはな、野ばら）
- (9) 不審者対応のため外に設置した防犯カメラが島田警察署に活用されることに。（なのはな）
- (10) 散歩道のゴミ拾い（かたくりの花）
- (11) 糸でアクリルたわしをつくり、福祉課窓口で無料配布。（レタスクラブ）
- (12) 毎週土曜日、島田市公認「しまトレ」開催（市民の健康増進）。（あさがお）
- (13) 行政や地元の計画に協力し、職業体験したい中・高校生を受入れ（真菜）
- (14) 坂部サロンの中身充実のため協力（手芸補助、レクレーション）。（グレイス、すずらん）
- (15) 各地にサロンが開催されるよう援助し、実施のために協力。（ぶどうの木）
- (16) 地域生活支援拠点事業所（牧之原市、島田市、吉田町にある障害者施設）としての登録は2022年度は、「未実施」だったので、次年度に早急に実施する。
- (17) 「包括支援センターオリーブ」と「生活支援センターやまぼと」は、在宅高齢者や障害者のために重要な相談場所なので、人材確保の問題を抱えながらも活動を続けた。
- (18) 地域でセフティネットの役割を果たす「養護老人ホームぎんもくせい」が、当年度1,400万円の赤字に。利用者減による収入減、水道光熱費・人件費等の支出増が原因。島田市からは400万位の助成で、差額の800万円は法人が負担する結果に。

D 利用者の喜びのために工夫したこと

- 1 施設管理者会議等とおして、次のような時を持ち、啓発の機会にした。
 - (1) 施設の計画や実践について報告し、良い事例から啓発される機会をつくった。
 - (2) 新年度研修においても、事業所の取組み発表があり、学び合う機会になった。
- 2 人格尊重の姿勢の徹底：
 - 各事業所では、身体拘束や虐待防止のための定期的な学び、セルフチェックを実施し、人格尊重の意識を深めた。

E 職員の喜びや成長のために実現したこと

- 1 女性活躍推進法との関連
 - 2022年度より情報公開する項目ができ、計算した結果、数値上からは当法人は女性が働きやすい場所ということが判明した。B-5「職員状況」の表の下に、項目を記載したので参照。
- 2 懇親会の開催
 - 年度末に管理者のための歓送迎会を開催。退任の管理者に感謝し新人施設長を歓迎した。
- 3 助け合う職場、働きやすい職場、学び成長できる職場づくり

各施設での良い実践を、管理者会議等で紹介した。十分ではないが啓発の機会になった。

4 どの事業所でも、こころが養われる短い時を持つ

10月からは、毎日読める、聖書に基づいた短いメッセージ集を、全施設に配付し、朝の集いなどで使ってもらおう予定だったが、具体化できなかった。

F 苦情について

苦情解決委員会は年に2回、定期的で開催されているが、当年度も実施。第三者委員も加わって、有益な学びとなった。そこで話し合われたことは、事業所へ伝えることになっている。

G 事故、虐待、身体拘束等の防止対策

1 事故

当年度も、事故防止委員会を通して、事故の内容について検討し、防止に努めた。

2 虐待

- (1) 希望寮に虐待1件あり：内容は、食後に動かない利用者の顔を叩いた。本人は反省している。
- (2) 「垂穂寮改革委員会」に関する情報共有：改革委員会で話し合った内容や取組、成果等を発表してもらい、他事業所でも参考にした。
- (3) 全体虐待防止委員会
「全体虐待防止委員会」を通して、各事業所の取組を学び虐待防止のため活用した。

3 身体拘束

「身体拘束」ゼロを目指して取り組んだが、高齢者施設に比べて、障害者施設の取組は緩やかである。

H リスク対応

1 防災訓練

- (1) 全体防災訓練
11月25日、全体防災訓練を実施。災害発生時における対策本部の場所が明確でなかったが、2022年度からは、「法人本部所在地」に対策本部を設置することになった。
- (2) ハザードマップの確認と防災対策
全ての事業所に対し、危険個所について確認し、対策をたてるよう促した。
対策本部の所在地は、一部が特別警戒区域、他の一部は土砂災害警戒区域に当たっていて、そのリスクについて検討し対策をたてることになっていたが、未実施。
- (3) 安否コールシステムの活用
「安否確認訓練」を、毎月1回以上実施し、いざという時活用できるよう訓練した。
- (4) BCPの中身について検証
法人のBCPの中身を防災委員たちが検討し、現実的でより良い内容に改善した。

2 感染対策

- (1) 食中毒、インフルエンザなどの感染防止のため、予防対策を周知させた。そのためもあって、当年度は発生しなかった。
- (2) コロナ対応：施設関係者はほぼ全員、ワクチン注射5回目を接種した。
年度末には、国はコロナ関連の規制緩和を始めたが、私たちは、従来の三密回避、手洗い、マスク着用等に努めた。また、食事介助の時など状況に応じてフェイスガードなどを着用。

3 サイバー攻撃やシステムダウン等に対する対策

- (1) クラウドやサーバーの活用、バックアップ等により、データ消失への対策をとった。
- (2) 親しい人からの発信と思いこんでファイルを開こうとした体験は誰にでもある。コンピュターウイルス「Emotet (エモテット)」に感染しないよう職員全員に対し通知。

I 施設整備や環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

- 1 法人本部：4月 聖ルカホームの花壇整備
- 2 垂穂寮：9月 焼却炉の廃棄処分工事／12月新しい機械浴槽の設置
- 3 やまばと希望寮：5月 傾斜地樹木伐採・ガス給湯器設置工事
- 4 みぎわ：6月 施設玄関前に防災等の倉庫を設置
- 5 ケアセンターかたくりの花：5月 浄化槽ポンプ経年劣化による破損の為ポンプ2台交換修理実施、／8月 送迎車キャラバン購入、同月29日から新車にて送迎実施。
- 6 ワークセンターカサブランカ：8月 ショベルローダーの修理
- 7 ワークセンターなのはな：トイレ増設発注（工事7/26～8/29）
- 8 ワークセンターふれあい：6月 清掃業者の清掃（廊下・作業室・事務所）、浄化槽ブロワ交換
2月 事務室静養室食堂のエアコン洗浄、3月 リサイクルボックス修繕
- 9 聖ルカホーム：10月 ロスナイ清掃、業務上のエアコンの修理と清掃
- 10 ぎんもくせい：7月 ナースコール機器交換 911万円（税込）。市によって更新交換

J 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の決算（詳細は、決算書を参照のこと）
コロナ禍等もあり、全体としては前年度よりも収益減に。原因等をより詳しく調査したい。
- 2 借入金償還計画
聖ルカホーム（ショート、さふらん含む）、並びに、ワークセンターなのはなでは、当年度も償還計画に従って順調に返済を行った。詳しくは事業所の事業計画・借入金の項目参照。

K 主務官庁との関連（実地指導や指導監査等、主なもののみ）

- 1 本部：7月定款変更届（花ももと、真菜の建物と土地に関する基本財産の変更）
11月法人への指導監査が予定されていたが、延期となった。
- 2 さくら：4月 吉田町総合支援施設管理に関する年度協議締結
- 3 レタスクラブ：4月 吉田町地域活動支援センターに係る業務委託契約締結
- 4 グレイス：6月 県指導課にショーステイ事業の廃止届、受理された。
- 5 ぎんもくせい：9月 指定管理者評価事業実施。6人の委員からヒアリング。
- 6 その他：クラスター発生による県や市、保健所への連絡。（7月グレイス、9月希望寮、11月相寿園、12月聖ルカホーム、12月みぎわ、わかばなど）

L 寄付金に関して

創立以来多くの方に支えられてきたが、毎年クリスマスの時期に「チャリティコンサート」を開催し50年間支援し続けて下さった「すみっこの石グループ」の活動が、当年度をもって終結した。そのご奉仕に対し、心から感謝したい（代表者は飯靖子さん）。

寄付者の大半は、機関紙の読者であり、教会関係者も多い。読者数は一時減少し今は横ばいの状況だが、当年度も1000万円余の寄付金（事業所への寄付金は除く）が寄せられ感謝である。

M 実習生やボランティアの受け入れ

- 1 恵泉女学園中・高校生の夏季実習受入：当年度もコロナ感染拡大のため、実習は中止した。
- 2 静岡福祉大学からの実習生の受入れ：当年度より静岡福祉大学と協定を結び、受入れ開始。

N 機関紙、並びに、ホームページ

- 1 機関紙：隔月発行に変更して2年目。一度減少した読者数は、その後大きな変化はない。
- 2 ホームページ：簡素で分かりやすい内容に改善する予定だったが、十分実現できなかった。

○ その他

1 職員確保対策

- (1) 「若い人材」確保の取組み：実習生に丁寧に対応した結果、次年度の大学新卒生5名に。
- (2) 奨学金制度：静岡福祉大学と奨学金制度を提携したが、応募者はいなかった。
- (3) 二人目のEPA生受入：インドネシア人女性・アニタさんが12月から聖ルカで研修。

2 一般事業主行動計画

- (1) 有給休暇の消化／育児休暇取得の奨励／ノー残業デイを掲げ、育休の変更内容を職員たちに周知させた。有休休暇の取得率はアップしたが、男性の育休取得者はまだいない。

3 働きやすい職場づくり：福祉・労務関連法令の遵守

- (1) 福祉・労務関連法令遵守のため必要な対応をしたが、現状は下記のとおりだった。
 - ・静岡県最低賃金が913円から944円に改定されたのに伴い、当法人でも時給を改定
 - ・女性活躍推進法改正に伴う、情報公開の項目を計算し公表。
 - ・職員より「副業・兼業など就業状況報告書」を提出してもらった。(前年度より実施中)。
 - ・短時間労働者のうち、社保加入要件を満たした者に対しては、社会保険に加入した。
- (2) シニアワーカーの実態を把握したが、有益な環境整備にまで至っていない。

4 「ワークセンターコスモス(就労継続B型支援事業所)」の今後のこと

2022年度初めに、島田市に「耐用年数」に関して問い合わせたところ、「解体・新築の可能性はない」ことが明らかになった。「無理の場合は活動を終え、新しい場へご利用者が安心して移れるよう努める」予定だったが、当年度は何もしなかったため、今後の懸案事項。

5 オリーブ園の今後のことについて、関係者間で話し合い

デイサービスセンター真菜が移転したが、オリーブ園の管理は引き続き加藤夫妻に委託した。

6 会議や委員会開催予定

開催日・回数	名称	参加者	内容
毎月 2回	経営会議	理事長、6名の部長	施設運営に関する審議・決定
毎月 1回	管理者会議	理事長、事務局長、施設長、事務長	施設間の情報共有、意見交換
隔月 1回	研修委員会	理事長、管理者、研修委員	新年度研修企画
隔月 1回	編集委員会	理事長、管理者、編集委員	機関紙の企画
年2回	全体防災委員会	理事長、管理者、防災委員	防災対策、訓練計画、情報共有
年2回	苦情解決委員会	理事長、管理者、苦情解決委員	第三者委員も出席／苦情の学び
年2回	事故防止委員会	理事長、管理者、事故防止委員	事故の検証と予防対策
年2回	全体虐待防止委員会	理事長、管理者	2月、7月、施設管理者会にて。
年2回	事務合同検討会	理事長、事務局長、事務長、事務主任	2部門合同、年間予定や、業務の確認
年1～2回	全体事務連絡会	事務局長、2部門の事務長、事務員	事務に関する情報共有、連絡
隔月	栄養士会	部長、栄養士	各施設の給食状況、目標設定
年に1～2回	看護師会	理事長、部長、看護師	感染防止、健康管理など情報共有

以上

1 理事会

開催日	出席者		議事決定事項
	理事 (内 ZOOM 参加者数)	監事 (内 ZOOM 参加者数)	
2022年 5/21	7名 (2名)	2名	監事監査報告について/2021(令和3)年度第4次補正予算(案)/2021(令和3)年度事業報告(案)並びに決算(案)/理事及び監事候補の推薦について/管理者人事について/ケアセンターさざんかとデイサービスセンター真菜の新築移転に伴う基本財産(土地と建物)の処分について/ケアセンター花ももとデイサービスセンター真菜に関する基本財産の増加に伴う定款の変更について/定時評議員会の招集について
2022年 6/11	計7名 (1名)	2名	評議員選任・解任委員会の委員の選任について/グレイスショートステイ事業の廃止に関する静岡県及び牧之原市からの指導について/2022年度第1次補正予算案について/給与規程第23条自転車通勤手当の変更、第26条賞与に関する変更、およびパートタイマー等の就業規則、自転車通勤手当の変更について/静岡福祉大学介護福祉士志望者を対象にした介護福祉士奨学金貸与規則の制定について/やまばと希望寮、わかば・もくれん、ケアセンター花ももの給食業務委託契約者との契約変更について
2022年 9/17	計7名 (2名)	2名 (1名)	監事監査報告に対する回答について/経理規程、「グレイス拠点区分」の「グレイスショートステイサービス区分」を削除することについて/第2次補正予算案について/給与規程(第35条処遇改善手当、別表3初任給決定表、別表13処遇改善手当Ⅰ、別表14処遇改善手当Ⅱ、別表15処遇改善手当Ⅲ)の変更について/就業規則(第20条服務心得、第37条特別有給休暇)の変更について/パートタイマー等の就業規則の変更について/育児介護休業等に関する規程の変更について/入札に係る資格(指名)委員会の設置について/聖ルカホーム・聖ルカショートステイ・グレイス・デイサービスセンターすずらん・デイサービスセンター真菜の2023年度からの給食業務委託について/島田市立養護老人ホームぎんもくせいの2023年度からの給食業務委託について
2022年 12/17	計6名 (1名)	2名	定期監事監査報告について/欠員による評議員候補者1名の推薦について/評議員選任・解任委員会の招集について/事業の追加(奨学金貸与事業)について/定款の変更(事業の追加と別表の地目等の変更)について/第2回評議員会の開催、並びに、決議の省略について/第3次補正予算案について/部長手当の創設や手当や、ベースアップ加算手当の変更など、給与規程の変更について(別表10管理職手当支給表に部長手当をを入れる件/別表15ベースアップ加算手当額変更の件)/就業規則の変更について(第6条採用、第20条服務心得、第23条セクシャルハラスメント等の禁止、第37条特別有給休暇の変更)/パートタイマー等の就業規則の変更について(第7条提出書類、第10条服務心得、第14条セクシャルハラスメント等の禁止、第17条勤務時間及び休憩時間、第27条その他の休憩、休暇等、第31条賃金の変更)/育児介護休業等に関する規程の変更について(第2条育児休業の対象者、第3条育児休業の申出の手続等、第4条育児休業の申出の撤回等、第5条育児休業の期間等の変更。第11条介護休業の対象者対象の変更)/聖ルカホーム・聖ルカショートステイ・グレイス・デイサービスセンターすずらん・デイサービスセンター真菜の2023年度からの給食業務委託契約について/島田市立養護老人ホームぎんもくせいの2023年度からの給食業務委託契約について
2023年 1/25	計7名 (0名)	2名	管理者人事について ※書面
2023年 3/18	計6名 (1名)	2名	2023年度に関する役員賠償責任保険の契約について/定期監事監査報告に対する回答について/相寿園拠点区分前期末支払資金残高の取崩しについて/ぎんもくせい拠点区分前期末支払資金残高の取崩しについて/やまばと希望寮拠点わかばの修繕積立金の目的外使用について/2022年度第4次(最終)補正予算案について/介護員養成研修事業の廃止について/2023年度事業計画案、予算案について/就業規則の変更について/給与規程の変更について/パートタイマー等の就業規則の変更について/やまばと希望寮、わかば・もくれん、ケアセンター花ももの給食業務委託業者との契約変更について/養護老人ホーム相寿園の給食業務委託業者との契約変更について/管理者人事について

(つづく)

II 評議員会

開催日	出席者		議事決定事項
	評議員 (内 Zoom 参加者数)	説明のため の役員	
2022年 6/11	計8名 (4名)	理事1 監事2	理事及び監事の選任について/2021(令和3)年度事業報告について、並びに、2021(令和3)年度計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録承認の件/基本財産処分について/定款の変更について
2023年 3/1	計9名 (0名)	理事1 監事2	事業の追加(奨学金貸与事業)について/定款の変更(事業の追加と別表の地目等の変更)について ※書面

III 評議員選任解任委員会

開催日	出席者		議事決定事項
	委員 ZOOM参加なし	説明のため の理事	
2023年 1/20	4名	1名	評議員の選任について

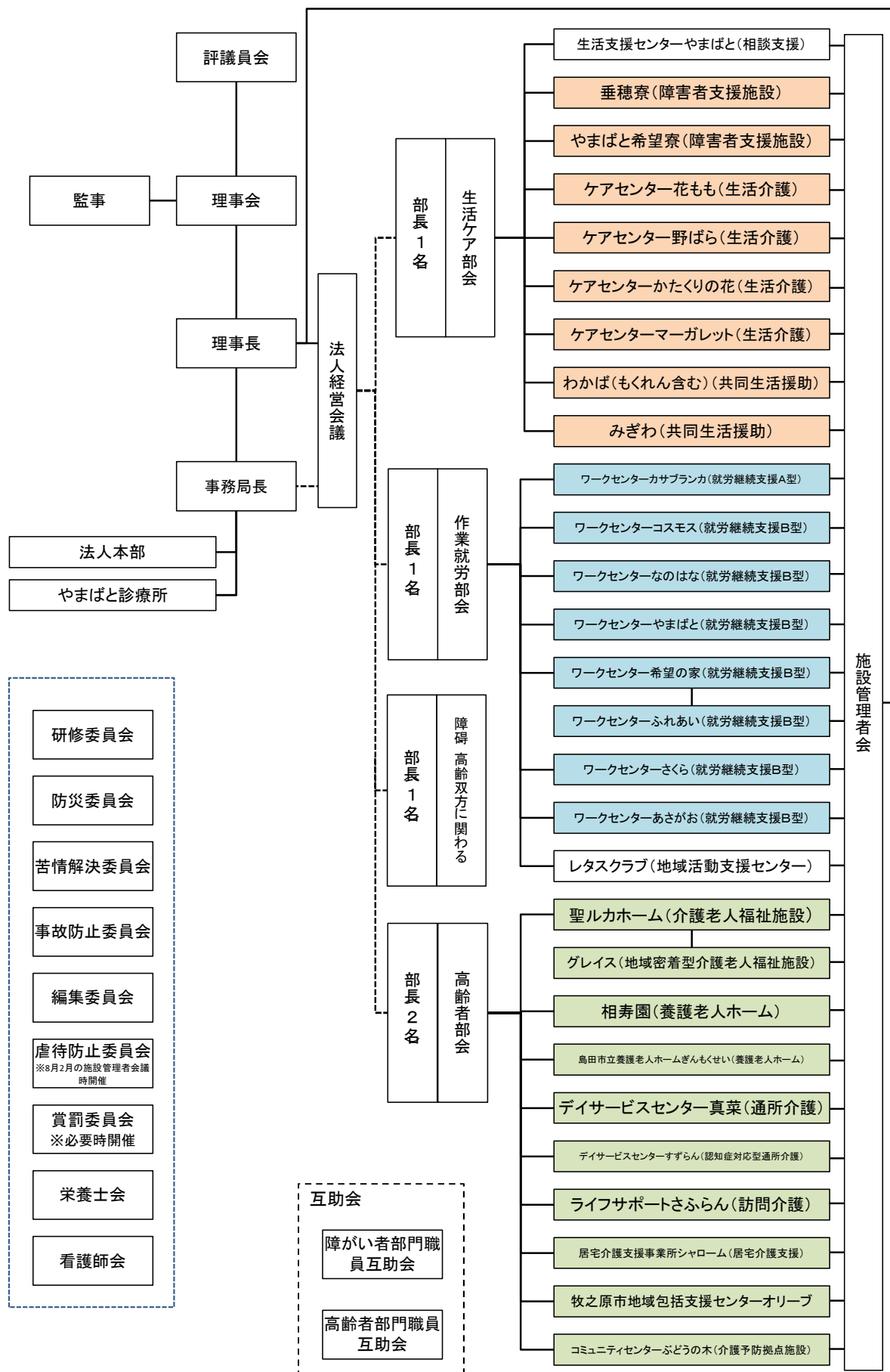
(完)

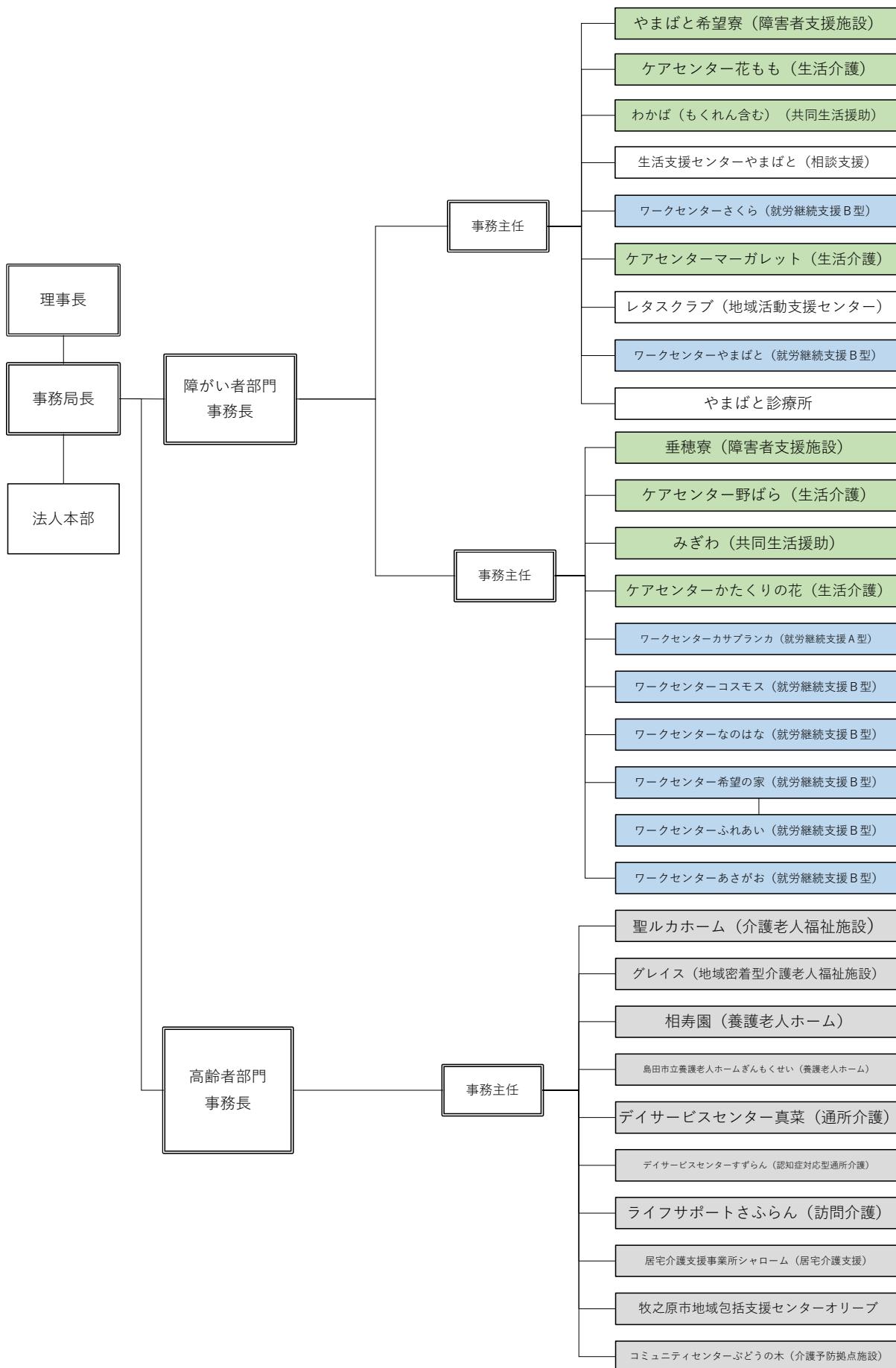
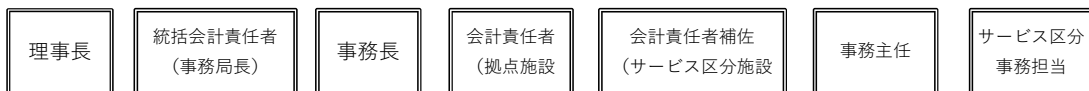
2022 年度牧ノ原やまばと学園／活動内容や在籍者数、責任者名等

(2023 年 3 月末時点)

事業所名	責任者名	内容や種別	定員	在籍	職員
本部事務局	板倉 仁	事務・財務の統括			4
やまばと希望寮	田澤 岳大	障害者支援施設	30	30	29
垂穂寮	大畑 彰弘	〃	50	44	42
ケアセンター野ばら	大畑 彰弘	生活介護	20	19	13
ケアセンター花もも	桑原 裕子	〃	20	19	13
ケアセンターかたくりの花	渡邊 千恵子	〃	20	20	12
ケアセンターマーガレット	河本 敦子	〃	20	20	11
レタスクラブ	河本 敦子	地域活動支援事業		不特定	3
ワークセンターカサブランカ	澤渡 繁	就労継続支援 A 型	15	14	★14+5
ワークセンターやまばと	田澤 岳大	就労継続支援 B 型	20	19	8
ワークセンターコスモス	石神 知之	〃	20	17	9
ワークセンターなのはな	西村 美恵子	〃	30	28	12
ワークセンターあさがお	榛地 裕子	〃	20	20	14
ワークセンターさくら	河本 敦子	〃	20	20	7
ワークセンター希望の家	高松 祐輔	〃 (主たる事業所)	20	17	9
ワークセンターふれあい	高松 祐輔	〃 (従たる事業所)	20	14	6
みぎわ	大畑 彰弘	共同生活援助	15	15	11
わかば	高杉 和成	〃	10	10	9
もくれん	高杉 和成	〃	10	10	15
生活支援センターやまばと	田村 貴子	相談支援事業			8
聖ルカホーム	大石 幸	特別養護老人ホーム	70	70	79
グレイス	山脇 世津子	地域密着型特養ホーム	29	29	27
相寿園	松田 正幸	養護老人ホーム	50	33	23
ぎんもくせい	片山 喜之	〃	50	38	24
デイサービスセンター真菜	吉田 陽子	通所介護	35	日替り	23
すずらん	山脇 世津子	認知症対応通所介護	12	日替り	10
地域包括支援センターオリーブ	鈴木 ひろみ	調査、相談、権利擁護等			10
コミュニティセンターぶどうの木	神谷 美代枝	介護予防拠点施設		日替り	5
ライフサポート さふらん	大石 幸	訪問介護事業			12
居宅介護支援事業所シャローム	山脇 世津子	ケアプラン作成所			2
やまばと診療所	赤堀 由砂	保険医療機関			2
合 計 ⇨				506	471

★1 カサブランカご利用者 (14名)は、本部と雇用契約を結んでおり、職員としても計上。





職員育成のための研修 (対象は法人職員)

日時	研修名	講師	内容	参加者数
4月 1日	第1回新入オリエンテーション	理事長 長澤道子他	礼拝・理念と歴史 等	10
4月 2日	新年度 全体職員研修	ルーテル学院大学 教授 市川一宏 氏	『福祉に生きるきみたちへ』 Zoom	153
6月 10日	主任等研修 ①	理事 佐々木炎 氏	「主任に期待されている役割」	31
6月 17日	新入&3年未満 職員研修	人材サポート(有) 長崎一朗 氏	新入職員・3年未満研修	33
6月 28日	管理者研修 ①	YWCA ヒューマンサポートサ ービスセンター 田嶋誠一氏	「経営に対する基本姿勢①」	24
7月 8日	主任等研修 ②	東洋大学 教授 吉浦 輪 氏	「利用者に係る事例検討会」	36
7月 26日	管理者研修 ②	YWCA ヒューマンSSC 理事長 田嶋誠一氏	「経営に対する基本姿勢①経営者とし ての役割・組織統治(ガバナンス)の強化」	24
8月 23日	管理者研修 ③	YWCA ヒューマンSSC 理事長 田嶋誠一氏	「経営に対する基本姿勢②健全で安定 的な財務基盤の確立・法令遵守の徹底」	24
9月 2日	主任等研修 ③	東洋大学 教授 吉浦 輪 氏	「利用者に係る事例検討会」	27
9月 27日	管理者研修 ④	YWCA ヒューマンSSC 理事長 田嶋誠一氏	「支援に対する基本姿勢①」	24
9月 30日	第2回新入職員 オリエンテーション	理事長 長澤道子他	礼拝・理念と歴史 等	12
10月 14日	防災研修	県立短大 准教授 鈴木俊文氏	「災害時に巻込まれる5つの変化」	38
10月 25日	管理者研修 ⑤	YWCA ヒューマンSSC 理事長 田嶋誠一氏	「支援に対する基本姿勢②」	24
11月 11日	主任等研修 ④	東洋大学 教授 吉浦 輪 氏	「利用者に係る事例検討会」	29
11月 26日	管理者研修 ⑥	YWCA ヒューマンSSC 理事長 田嶋誠一氏	「地域社会における基本姿勢」 E	24
12月 9日	主任等研修 ⑤	東洋大学 教授 吉浦 輪 氏	「利用者に係る事例検討会」	27
12月 21日	管理者研修 ⑦	YWCA ヒューマンSSC 理事長 田嶋誠一氏	「福祉人材に対する基本姿勢」	24
1月 13日	主任等研修 ⑥	理事 佐々木炎 氏	「主任の役割」	29
1月 24日	管理者研修 ⑧	YWCA ヒューマンSSC 理事長 田嶋誠一氏	「自己を知り、キャリアデザイン を作る」	24
2月 28日	管理者研修 ⑨	YWCA ヒューマンSSC 理事長 田嶋誠一氏	「計画策定の中間報告」	24
3月 17日	新人施設長& 次期リーダー研修	YWCA ヒューマンSSC 理事長 田嶋誠一氏	「施設長の求められている目標と 行動指針 ほか」	12

2022（令和4）年度事業報告

障害者支援施設
垂穂寮

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2022年度事業計画に関する報告（総括）

職員の働く意欲が出る職場作りは、3月より法人主導による「垂穂寮改革委員会」を進めていき、職員全体にアンケートを取り問題解決に向けた話し合いが進められた。それにより、職員の意見が実現される事で自信に繋がり、自ら考えて行動する前向きな職員が増えてきた。

3事業所の連携に関しては、連絡会を3回実施した。各事業所の近況報告、悩み等を共有する事で協力体制づくりに努めた。3施設間（特に野ばら⇔みぎわ）の職員交流を積極的に行った。

新型コロナウイルス感染症予防では、ゾーニングの確認や検温・消毒等の日常の対策を行っていたが、1月下旬にクラスターとなった。感染のスピードが速く、対応が追い付かなく、職員の疲弊が大きかったため、今後の対策も強化する必要があると思われた。

垂穂寮改革委員会は「人材育成」「業務改善」「職員関係促進」「環境改善」の4グループに分かれ、佐々木炎先生を中心に取り組んだ。人材育成では静岡福祉大学の木下先生の協力得て年4回の研修を行った。業務改善では生産性の向上での「ムリ、ムダ、ムラ」を省くべく、オムツの見直し、掃除業者への委託等に取り組んだ。職員関係の促進では動画撮影やユニフォームの検討等を行った。環境改善では塚本設計士様とトイレの改修等に向けて取り組んだ。来年度からは「垂穂寮改革委員会」ではなく、「運営委員会」と名称を変えて継続していく予定となっている。

2 理念に基づいたサービス提供

私たちの願い、サービス提供指針を口に出して読む機会は、会議等で唱和した。毎回ではないが、継続している。

3 法人の当年度重点計画との関連

地域社会への貢献として、短期入所の受け入れに関しては、計画の50%を上回り75.5%の受け入れを実施した。ニーズの充足とまでは行かなかったが、出来るだけ福祉ニーズに応えられる様な体制作りを今後も継続していく必要があると思われた。また、生活困窮者自立支援制度の一環として大津地区社協買い物支援での車両提供を行った。

垂穂寮改革委員会に副主任格職員以上11名が参画し、運営プロセス等について佐々木炎委員長から学ぶ機会を得た。「研修」「業務」「環境」「人間関係」の4グループに分かれ、垂穂寮の改革に努めた。研修は全員が学べる機会を増やし、業務は食事場所を変更したり、利用者様に合わせたオムツを検討し実施したりした。環境ではトイレの改修に取り組み、人間関係ではユニフォーム作り等に取り組んだ。施設全体で関わることを分野ごと職員が試行錯誤しながら取り組み、月に1回の報告会を開くことで、全体で共有することが出来た。

職場環境の整備については、福利厚生を利用した職員が利用できるWi-Fiの設置を行った。ICT化に関しては、「carekarute」を導入し、ヒヤリ・事故報告の総数等のとりまとめを簡略化することが出来た。インカムの導入による情報共有はまだ行っていない。

B 利用者と職員の状況

1 利用実績（2023年3月31日現在）

	定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率
施設入所支援	50	44	-6	365	15,655	42.9	85.8%
生活介護	50	44	-6	269	10,841	40.3	80.6%
ショートステイ	4	7	+3	365	1,102	3	75.5%
日中一時支援		0			0	0%	

2 施設入所支援利用者障害程度区分（2023年3月31日現在）

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	1	4	39	44

3 職員状況 (2023年3月31日現在)

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	(1)	2	29	2	2
常勤換算人数	0.8	(0.1)	1.1	25.83	1.5	2
増減	0	(0)	0	-0.3	-0.5	0
	調理員	事務員	業務員			合計
実人数	3	1	(1)			43
常勤換算人数	2.4	1	(0.65)			35.9
増減	-1	0				+0.2

4 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間は 3829.6 時間。月平均で 319.1 時間であった。1 人当たりの月平均は 67.8 時間程度。最も多く残業を行った職員は、年間 430 時間、1 か月平均 35.8 時間であった。

有給休暇取得状況は、全体で 55.4% の取得率、100% (2 名)、最低は 25% (3 名)。

5 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

各ケース会、チーフ会、ケース検討会、寮全体会を毎月又は毎月近くに開催した。また、定期開催として運営会議、事務所会議、を開催した。

内部委員会として、虐待防止委員会、給食委員会、研修委員会、感染症対策委員会、身体拘束委員会、垂穂寮改革委員会を開催した。

外部委員会として、法人関連の虐待防止、防災、苦情、研修に関する委員会に出席した。その他として、法人内として経営会議、法人外として行政（県、市）の自立支援協議会や強度行動障害関連、地域のケース会議、社会福祉協議会評議員会、県知的障害者協議会、志太榛原施設連絡会等に出席した。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

権利擁護の観点からのみでなく、利用者の QOL を損なう危険があるため、現在では日中の仕切り戸の開放や居室に鍵を掛けないでの見守り等を増やした。それでも棟内を自由に行き来できる機会を増やしたが、非代替性や緊急性が高い場合においては現在も錠錠等を行っている。(同意書有)

コロナ自体が緩和されてきたため、年度後半はクリスマス会等の行事を取り入れる事ができ、楽しまれている様子が見られた。ご家族とは外泊とまでは行かないが、徐々に面会自体も緩和され保護者との交流も増えてきた。

日中活動の充実で、スヌーズレンルームを作ったり、各エリアにある大型テレビにネット環境を整備する事で、利用者の嗜好に合わせたチャンネルを見る事ができた。

D 職員の喜びや成長のための実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムについて

職員会議の冒頭、理念の継承を目的として「わたしたちの願い」の読み合わせを行った。また、毎月の月間目標を設定し、全職員の多くが達成できるまで続けた。加えて、虐待防止セルフチェックを年 2 回実施した。

施設長面談をリーダー職員は計 4 回、その他の職員は計 2 回実施した。

2 楽しい職場づくり、チームワークの形成について

改革委員会で課題の共有、討論することによりチームワーク形成につながった。自身の意見等が施設運営に反映される事で、色々なことに対して前向きに取り組む姿勢が見られた。

行事については、各ケースチームでそれぞれの行事（秋祭り、クリスマス会、新年会）の準備や進行を任せることで、各ケースチームのより良い協力関係が築けるように実践した。改革委員会でユニフォームの作成は職員のモチベーションを高める効果が得られた。

3 研修報告

外部研修として、強度行動障害基礎研修 5 名、実践研修 1 名、強度行動障害に関わる研修 2 名、防災関係で BCP 策定にあたる研修に 1 名参加した。法人内研修では主任等研修に 2 名、次期リーダ研修に 2 名参加した。施設内研修では静岡福祉大学と木下寿恵先生と垂穂寮にとって必要な研修を一緒に考えて頂き、同大学の鶴先生やぎんもくせいの阿部施設長に研修を依頼し実施して頂いた。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

島田市社会福祉協議会等を通じて、大草団地の買い物支援への協力について関係機関と協議している。また、第3地区民生児童委員による花植え、草取りが行われた。コロナ緩和に伴い、「大津ふれあいまつり」が開催され、法人の自主製品を販売し、地域との交流を図った。

F 家族との連携、交流、連絡など

家族だより「みのり」を毎月発行して、情報提供に努めた。内容は担当から利用者の最近の様子、ケースチームごとに写真、各部門からの連絡事項、苦情、虐待の恐れのある事例に関する報告も掲載した。また、相談部門から事故については状況により家族報告を行った。

保護者会奉仕作業や総会が行われ、事業所から連絡事項を伝えた。

相談部門から個別支援計画に関する説明を行い、支援内容伝えた。また、家族アンケートを実施し要望等の把握に努めた。

G 苦情とその対応に関する報告

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

年間を通じて、事故162件、ヒヤリハット141件、虐待0件、身体拘束2877件であった。

内訳は、事故は噛みつきや叩くなどの他害行為、薬の落下・忘薬・飲ませ間違い事故、転倒事故等、ヒヤリハットは他害未遂行為、転倒、無断外出等、身体拘束は居室施錠、車いすベルト、ベッド4点柵、つなぎ服となっている。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

毎月1回、日中または夜間を想定した火災避難訓練を実施した。また、3施設合同の防災委員会の開催し、防災倉庫の備蓄について点検を行った。

J 環境整備（100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況（事業活動）

科目	2022年度	2021年度	増減
サービス活動収益計	363,569,822	371,567,905	△7,998,083
サービス活動費用計	314,444,668	311,843,925	2,600,743
経常増減差額	49,637,937	59,983,355	△10,345,418
特別増減差額	△17,929,160	△21,992,584	4,063,424
当期活動増減差額	31,708,777	37,990,771	△6,281,994

※サービス活動収益の内、寄付金収益（1,680,000）

2 借入金償還状況

なし

L 主務官庁に関連した報告

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生については、相談援助実習3名、清流館高校2名、保育士実習6名を受入れた。

ボランティアについては、調理に毎月15日間、支援（ハウスキーパーを含む）に毎月4日間の2名を受入れた。

N その他

新型コロナウイルスによるクラスターになり、法人内の他事業所から応援を依頼した。2類から5類に変わる中でもインフルエンザの様な季節性の感染症ではないため、今後も十分な対策が必要と思われた。その様な中でも、面会等は少しずつ緩和するように努めた。垂穂寮改革委員会は今後名称を変え「運営委員会」として継続していく。

A 2022 年度の目標と実践に関する振り返り

1 2022 年度事業計画に関する報告

(1) 人権擁護と虐待意識の徹底

生活支援員を対象に「虐待の芽 チェックシート」を活用して支援の振り返りを定期的（毎月）行ってきた。結果を集計し統計をとってきた。また、職員会議で、身体拘束の指針の読み合わせを行った。

1月に不適切な支援（虐待案件）が発生し、関係機関への連絡、職員周知等を行った。

(2) 感染予防対策の強化

感染症対策委員会を中心として、特に新型コロナウイルス感染症の予防に努めた。また、感染症対策の動画視聴やマニュアルの作成を行い、感染症発生時のゾーニングや勤務体制の検討や週2回など定期的な抗原検査を進めた。

クラスターが9月に発生し、他事業所の協力を得ながら約2週間で収束に至った。

(3) ワークライフバランスとメンタルヘルス

業務の棚卸を行い業務内容と役割分担の把握に努めることができた。内容を精査し、業務分担に反映することができた。また、業務改善アンケートを行い、生産性の向上に努めることができた。

(4) やまばと希望寮明るい未来検討会

よりすばらしい事業所となるために、法人の佐々木炎理事が委員長、8名の職員が委員となり11月から委員会が始まる。4つのグループ（人材育成、業務改善、職員関係の向上、環境整備）に分かれて課題解決に取り組む。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

(1) サービス提供指針

サービス提供指針の理解を進めるために、毎月の寮全体会（職員会議）等で読み合わせを行った。

(2) 働く仲間と力を合わせて前進していく

利用者様の支援内容について情報共有を進めるために、寮全体会やチーフ会等でこれまで以上に話し合いの時間を取るなどに努めた。

(3) 地域の福祉ニーズ

地域自立支援協議会に参画して地域ニーズの把握に努めることができた。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

(1) 職員育成

法人内のリーダー研修に新しいケースリーダーを受講させることができた。また、サーポーターズカレッジを活用し、「記録の取り方」など支援の基礎についての共有を図ることができた。11月からは、明るい未来検討会の人材育成グループの活動を通して、職員の研修ニーズを把握することができた。

(2) 地域貢献

関連事業所と連携の上で、定期的に坂部ふれあいサロンの送迎支援を行った。年間で延べ10回。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

	定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率
施設入所支援	30	30	0	365	10899	29.9	99.5%
生活介護	30	31	+1	269	7945	29.5	97.4%
ショートステイ	5	5	0	365	526	1.4	28.8%
日中一時支援	5	2	+1	365	20	0.1	1.2%

退所者：3/10 女性1名 特別養護老人ホームへ移行

2 職員状況

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	(1)	1	22	1	1
常勤換算人数	0.5	(0.1)	1.0	19.6	1.0	1.0
増減	0	(0)	0	-0.5	0	0
	事務員	その他				合計
実人数	2	1				29
常勤換算人数	1.7	0.6				25.4
増減	0	0				-0.5

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	1781.3時間	最高残業時間	351.5時間	有給休暇取得率	78%
-------	----------	--------	---------	---------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況（省略あり）

(1) 外部会議

新型コロナウイルス感染症予防に努めながら以下の会議に出席した。牧之原市自立支援協議会、県知協愛護ギャラリー展実行委員会、志太榛原施設連絡会

(2) 法人内会議

担当者を選任し以下の会議に出席した。やまばと希望寮明るい未来検討会、施設管理者会、苦情会計次委員会、生活ケア会議、防災委員会、事故防止委員会

(3) 事業所内会議

定期開催、適宜開催等を決めた上で、以下の会議を開催した。また、会議を通しての情報共有に努めた。寮全体会、主任者会、感染症委員会、チーフ会、給食委員会、給食検討会、納涼祭会議、虐待防止委員会

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

1 日課について

散歩、外気浴、スノーズレンやドライブなど日々の日課の中で取り組みを行いました。

2 行事

4月：ケース外出、5月：希望寮開寮記念行事、ケース外出、6月：運動会、8月：かき氷、9月：キッチンカー、11月：勝利さん音楽、クリスマスツリーづくり、12月：クリスマス会、1月：凧あげ、新年会、2月：節分豆まき、3月：勝利さん音楽 他

3 その他

水遊びを楽しめるようにプール玩具を増やす。また、魚釣りゲームを行ったり、セラピーボールを提供。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして

4月：寮全体会で「よりよい支援・業務をしていくために」グループワークによる検討と身体拘束の防止についても議論する

5月：寮全体会で支援ケース検討（支援困難な事例）と統一した支援を検討する。

6月：寮全体会で「よりよい支援・業務をしていくために」グループワークによる検討。

10月：静岡県による感染症対策訪問指導を受け、感染対策に関する意識の統一を行う。

11月：やまばと希望寮明るい未来検討会が始動、より良い事業所づくりを始める。

12月：寮全体会で明るい未来検討会に関する連絡とグループワークを行う。

1月：寮全体会で明るい未来検討会に関連した「人間関係の向上」、どの様にすれば関係性が良くなるかを検討した。

- 2月：明るい未来検討会に関連した「業務改善（食事・排泄・入浴・日課）」でムリ・ムダ・ムラ、負担とを感じる業務について話し合った。 他
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して
新型コロナクラスターへの対応を通して、チームによる支え合いが強固となった。また、年末にはケースグループ毎に職員少人数の会食を実施した。
- 3 職員研修
- (1) 外部（法人外）
リーダー職員研修、ライフデザイン、実習指導者研修、自閉症支援者実習研修
- (2) 法人内部（事業所外）
法人全体研修、新人オリエンテーション、主任等研修、施設長研修、防災研修、次期リーダー研修
- (3) 事業所内部
毎月虐待の芽チェックリストを実施、ブラッシング研修、アサーティブについて、虐待防止に関する自己チェック、サポーターズカレッジ（記録の書き方、衝動性への支援 他）

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

- 1 地域に対する公益的取組
関連事業所と連携の上で、定期的に坂部ふれあいサロンの送迎支援を行った。年間で延べ10回。
- 2 地域との交流
地域の町内会（坂2班長会）定例会に出席し地域住民の方との関わりに努めた。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

- コロナ禍ではあるが、保護者総会を5月と3月に実施した。面会は状況をみて可としたものの、感染拡大を理由に中止とした時期もある。
利用者様の近況報告は電話連絡があった場合を中心に行った。
希望寮だよりを年2回発行し、写真で近況報告を行った。

G 苦情とその対応に関する報告

- 1件あり。8月：職員間の情報共有が出来ていないことについて

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

- 1 事故
合計で67件、月平均で約5.5件発生した。他害（他の利用者様を叩いてしまう）が最も多い。
- 2 ヒヤリハット
合計で25件、月平均で約2件発生した。他害（他の利用者様を叩こうとする）が最も多い。
- 3 虐待
1月に1件発生した。夕食後に利用者様の居室への行動を促そうと左ほほを叩く。
- 4 身体拘束
合計で7517件、対象者は21名である。21名のうち12名が時間帯や状況により「拘束なし」とすることができた。数内訳は夜間ベッドからの転落予防のための4点柵、一時的施設他。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 1 防災訓練
安否コール返信訓練は実施した。避難訓練については3回実施、その他として備蓄の確認2回行っている。
- 2 被害状況
9月の台風15号では、床上浸水、土砂災害があり、1階で生活しているご利用者が2階に避難した。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕等）

- 4月 厨房改修工事にかかる追加工事 2,024千円
 5月 非常用ガスタンク設備の設置 2,910千円

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況（事業活動）

科目	2021年度	当年度	増減
サービス活動収益計	192,197,561	201,235,365	9,037,804
サービス活動費用計	165,976,817	177,366,663	11,389,846
サービス活動増減差額	26,220,744	23,868,702	△2,352,042
経常増減差額	26,466,476	25,299,277	△1,167,199
当期活動増減差額	26,457,803	2,558,633	△23,899,170

※サービス活動収益の内、寄付金収益（185,188円）

2 借入金償還報告 なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

- 9月 新型コロナ発生届けの提出、行政にコロナ発生状況の報告を随時報告。
 9月 台風15号被害の報告（県・市）

M 実習生やボランティアに関する報告

1 実習生

実人数で15名の実習生を受け入れる。

常葉大学生4名、浜松学院大学短期大学部4名、浜松未来総合専門学校2名

2 ボランティア

クラスター応援（法人内事業所）、音楽教室講師（鈴木勝利様）、清掃（日赤奉仕団）

N その他

9月に新型コロナのクラスターが発生し、利用者30名、職員11名の合計41名が感染した。

2022（令和4）年度事業報告

共同生活援助
わかば

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について
虐待防止の意識向上とグループホームの活動を理解する事を目標に掲げたが、年度途中にサービス管理責任者交代となり現場職員の業務継続に対する不安が募り、支援体制の形成に努めた。12月23日にコロナウイルス陽性者が確認され、その後利用者10名、職員5名が陽性者となるクラスターとなった。11月から佐々木炎先生を委員長とした「明るい未来検討会」で職員の不安・希望を調査。職員からの意見を基に体制・環境の改革が進められ、事業改革の一步を踏み出すことが出来た。
- 2 事業報告
 - (1) 人権擁護と虐待意識の徹底
毎月虐待に関する自己チェックを毎月継続して行い、4月12日にDVD視聴による「虐待防止研修」を行い、7月と1月にはチェックシートを基に支援の振り返りを実施。利用者の身体の変化が見られた場合に防犯カメラの記録を振り返り、原因の追究を行ってきました。
 - (2) グループホームの役割の理解
リモート研修や全体会議において、利用者の意思を尊重した支援や地域で共同生活を営むことの理解に努めました。感染症予防の観点で制限をしながらも、出来る限り家族との触れ合いも実施し、つながりのある体制作りを意識してきました。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
毎月行われる全体会議で「サービス提供指針」の読み合わせを行いました。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) 職員の育成
障害特性についての学びについてはリモート研修を活用しました。11月から開催している「明るい未来検討会」で職員としての意見を発表する事で、仕事に対する責任感の向上につながっています。
 - (2) 地域への取り組み
今年度もコロナウイルス感染症対策により、社会参加については控えた1年となりましたが、地域の毎月行われる「坂部2町内班長会議」にはできる限り参加し、施設の現状や防災面での課題・協力について伝えてきました。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
10	10	0	365	3650	10	100.0
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	1	0	6	3

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	その他	合計
実人数	1	1	5	6	1	0	12
常勤換算	0.25(兼務)	0.25(兼務)	2.95(兼務)	2.65	0.2	0	6.3
計画との差	0	0 (△0.25)	0 (△0.05)	0 (0.65)	0	0	0 (0.35)

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	328	最高残業時間	94.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	57.0
-------	-----	--------	------	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	12	隔月 2回/年	給食検討会	1
	給食委員会	1		法人苦情解決委員会	1
	生活ケア部会	1		法人事故防止委員会	1
	施設管理者会	1		法人虐待防止委員会	1
	明るい未来検討会	4			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・春の遠足、バーベキューパーティー、花火鑑賞等の季節の行事を実施した。
- ・土曜日・日曜日にも生活のリズムを崩さないよう、また身体能力の維持を目的とした散歩等の運動を継続してきた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎朝	理念の継承	全員	サービス提供指針の読み合わせをした。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ・11月11日から月1回、佐々木炎先生を委員長とした「明るい未来検討会」を開催。
「不適切ケア」廃止を徹底させるために事業所としてあるべき姿に変容していける組織を目指す。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内 研修	4/12	虐待防止	10	10/11	サポカレ	9
	8/16	サポカレ(支援の基礎)	11			
	9/13	サポカレ(支援の基礎)	10			
法人研修	4/2	新年度研修	6	毎月	管理者研修	1
施設外 研修	12/3	県 サビ管更新研修	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
7/21	相良サンビーチ	職員2名、利用者1名
毎月 22日	坂部2町内班長常会	職1名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
3回/年	保護者会	職員、保護者

- ・保護者会で成年後見制度の活用について説明を繰り返した。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	15	ヒヤリ	17	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

事故：転倒、転落、服薬ミス、衝突等。

ヒヤリ：ふらつき、転倒未遂。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・防災訓練（地震、水害想定）実施。
- ・11/25 法人全体防災訓練実施。
- ・原子力災害避難計画作成
- ・9/23 の台風 15 号では施設内の浸水被害はなかったが、施設脇を通る水路、隣接する斜面が崩れる。施設正面の道路に水路からの濁流があふれ出て一時的に身動きが出来なくなる。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022 年度決算	2021 年度決算	増減
サービス活動収益計	34,200,783	33,022,504	1,218,279
サービス活動費用計	33,739,273	30,740,625	2,998,648
経常増減差額	473,328	2,282,547	△1,809,219
特別増減差額	△1,500,000	0	△1,500,000
当期活動増減差額	△1,026,672	2,282,547	△3,309,219

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

なし

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- ・創立 12 年

2022（令和4）年度事業報告

共同生活援助
もくれん

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について
虐待防止の意識向上とグループホームの活動を理解する事を目標に掲げたが、年度途中にサービス管理責任者交代となり現場職員の業務継続に対する不安が募り、支援体制の形成に努めた。12月24日にコロナウイルス陽性者が確認されるが、利用者1名のみで感染は広がらなかった。11月から佐々木炎先生を委員長とした「明るい未来検討会」で職員の不安・希望を調査。職員からの意見を基に体制・環境の改革が進められ、事業改革の一步を踏み出すことが出来た。
- 2 事業報告
 - (1) 人権擁護と虐待意識の徹底
毎月虐待に関する自己チェックを毎月継続して行い、4月13日にDVD視聴による「虐待防止研修」を行い、7月と1月にはチェックシートを基に支援の振り返りを実施。利用者の身体の変化が見られた場合に防犯カメラの記録を振り返り、原因の追究を行ってきました。
 - (2) グループホームの役割の理解
リモート研修や全体会議において、利用者の意思を尊重した支援や地域で共同生活を営むことの理解に努めました。感染症予防の観点で制限をしながらも、出来る限り家族との触れ合いも実施し、つながりのある体制作りを意識してきました。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
毎月行われる全体会議で「サービス提供指針」の読み合わせを行いました。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) 職員の育成
障害特性についての学びについてはリモート研修を活用しました。11月から開催している「明るい未来検討会」で職員としての意見を発表する事で、仕事に対する責任感の向上につながっています。
 - (2) 地域への取り組み
今年度もコロナウイルス感染症対策により、社会参加については控えた1年となりました。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
10	10	0	365	3416	9.36	93.6
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	1	4	4	1

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	その他	合計
実人数	1	1	5	11	1	0	12
常勤換算	0.25(兼務)	0.25(兼務)	2.0(兼務)	3.33	0.2	0	6.03
計画との差	0	0 (△0.25)	△1 (△1.0)	1 (0.33)	0	0	0 (△0.92)

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	375.5	最高残業時間	194.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	47.0
-------	-------	--------	-------	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	10	隔月 2回/年	給食検討会	1
	給食委員会	1		法人苦情解決委員会	1
	生活ケア部会	1		法人事故防止委員会	1
	施設管理者会	1		法人虐待防止委員会	1
	明るい未来検討会	3			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・季節ごとの小外出、バーベキューパーティー、ご利用者様の希望をとった昼食作り等の行事を行った
- ・土曜日・日曜日にも生活のリズムを崩さないよう、また身体能力の維持を目的とした散歩等の運動を継続してきた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎朝	理念の継承	全員	サービス提供指針の読み合わせをした。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ・11月11日から月1回、佐々木炎先生を委員長とした「明るい未来検討会」を開催。「不適切ケア」廃止を徹底させるために事業所としてあるべき姿に変容していける組織を目指す。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	4/11	虐待防止	10	10月	サポカレ(支援の基礎)	10
	8月	サポカレ(支援の基礎)	10			
	9月	サポカレ(支援の基礎)	10			
法人研修	4/2	新年度研修	6	毎月	管理者研修	1
施設外研修	12/3	県 サビ管更新研修	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
7/14, 28	相良サンビーチ	職員2名、利用者1名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
3回/年	保護者会	職員、保護者

- ・保護者会で成年後見制度の活用について説明を繰り返し行った。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	43	ヒヤリ	74	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

事故：転倒、転落、服薬ミス、自由外出等。

ヒヤリ：ふらつき、転倒未遂等。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・防災訓練（地震、火災想定）実施。
- ・11/25 法人全体防災訓練実施。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）
なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	33,987,298	34,229,077	△241,779
サービス活動費用計	33,203,717	35,004,574	△1,800,857
経常増減差額	805,178	△774,974	1,580,152
特別増減差額	△1,500,000	0	△1,500,000
当期活動増減差額	△694,522	△774,974	80,152

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

なし

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

・創立12年

2022（令和4）年度事業報告

共同生活援助事業所
みぎわ

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2022年度事業計画に関する報告（総括）

職員の専門性の向上については、法人内の研修や外部研修に正職中心に参加。全職員には、短時間でも可能なリモート研修を提供した。
記録システムについて、10月より請求を切り替え、Wi-Fi設備を11月整えた。
3施設合同の防災会議等を行なった。隣接する施設へ、職員派遣を行い理解を深めた。
外部機関との連携については、小まめな連絡を取れた。感染症予防については、無症状の方からクラスターに繋がり、感染症マニュアルの見直しが必要となった。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
理念の浸透と実践については、ともに生きる、私たちの願いを職員会議の参加者で唱和し、確認の場とした。
個別で短時間の買い物等を、感染予防に注意して行った。
利用者ミーティングで個人の意見や要望を傾聴する時間を設けた。
- 3 「法人の当年度重点計画」関連した活動報告
職員育成を目的とした施設長面談をリーダー職員は年4回、その他職員は年3回実施した。面談前に動画視聴等の課題を設けて行なった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率	
15	14	-1	365	5,316	14.5	96.8%	
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
2	0	1	4	4	3	0	14

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	合計
実人数	1	1	4	12	1	18
常勤換算人数	0.1	0.1	3.0	4.0	0.5	7.4

3 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間は2,275時間。月平均で31時間であった。1人当たりの月平均は2.6時間程度。最も多く残業を行った職員は、年間135.5時間、1か月平均11.3時間であった。
有給休暇取得状況については、全体では63.1%の取得率、最高は100%（3名）、最低は26.3%（1名）であった。

4 職員会議、委員会、外部委員会

職員会議を感染予防に配慮しながら計4回開催し、重要事項の連絡等を行った。
外部委員会は法人関連の虐待防止、防災、苦情に関する委員会に出席した。また、隣接事業所との連携を目的として防災、給食委員会に参加した。
その他として、隣接事業所との連携を深めるために、防災、主任の会議を行い、必要事項の情報交換を行った。また、行政の自立支援協議会や地域のケース検討会に参加した。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

隣接する施設の余暇設備（通信カラオケ）を利用して、余暇時間の充実を図った。
季節の行事（クリスマス会、誕生会）では、テイクアウトメニューの利用等を活用した。
毎月のミーティングや個別での意向や希望を聴く時間を設けて、支援や行事等に活かしている。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムについて
職員会議の冒頭、理念の継承を目的として「わたしたちの願い」の読み合わせを行った。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して
施設長面談をリーダー職員は計4回、その他の職員は計3回実施した。

3 研修報告

外部研修として、強度行動障害、初任者研修に延 3 名が参加した。法人内研修として、新年度研修、3 年未満職員研修、主任研修、防災研修。事業所内研修として、職員会議の際に法人理念、感染症と虐待に関する学び等を行った。動画視聴では支援者のマナー、意思決定支援について学んだ。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

11 月より毎月第三水曜に拠点で、公用車を地域の方への貸し出しを行なった。
11 月に地域のお祭りの模擬店に、利用者・職員が参加した。
12 月に自立支援協議会の部会が主催する、地域の清掃活動に職員が参加した。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

家族便りを毎月発行し、情報提供に努めた。また、情報共有、意見交換会を 1 度実施した。

G 苦情とその対応に関する報告

1 件の苦情を頂いた。利用者家族への連絡不足で、利用者が必要な金額の高い物を購入して苦情となった。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

年間を通じて、事故 8 件、ヒヤリハット 32 件、身体拘束 11 件、虐待 0 件であった。事故については転倒が最も多かった。身体拘束は昨年 28 件から半分以下にすることが出来た。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

コロナ感染対応による中止を除いて、計 11 回の防災訓練を実施した。また、3 施設合同の防災委員会の開催し、防災倉庫の備蓄について点検を行った。

9 月大雨による施設前道路に土砂流入があったが、施設への被害は無かった。

J 環境整備に関する報告

防災等倉庫の設置 935,000 円（税込）、食堂のエアコン交換、建具の修理等も行なった。

K 収支状況、並びに、借入金返済状況

1 収支状況（事業活動）

科目	2022 年度	2021 年度	増減
サービス活動収益計	42,735,433	41,664,261	-1,071,172
サービス活動費用計	43,250,080	41,672,036	-1,578,044
経常増減差額	-514,547	106,744	621,291
特別増減差額	-1	-2,000,000	-1,999,999
当期活動増減差額	-514,548	-1,893,256	-1,378,708

※サービス活動収益の内、寄付金収益（10,000 円）

2 借入金償還状況 なし

L 主務官庁との関連した報告

12 月コロナ感染報告を県に行なった。

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生の受入れ実績はなし。就職前の現場体験 1 名。

N その他

10 月から請求業務システムを支援記録システムの「ケアカルテ」に移行した。

3 月に利用者の普通預金通帳を後見人に返却を行なった。

2022（令和4）年度事業報告

生活介護
ケアセンター 花もも

A 2022 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

新築移転をし防災上からの環境面、衛生面について不安なく快適に過ごすことが出来た。移転により生活環境が変化した但日々のスケジュールは大きく変えずできるだけ以前と同じ日課を維持することでご利用者に不安感を与えず安心して過ごしていただけるように努めた。また、些細な事柄でも職員間で検討し情報共有するように心がけた。

2 事業報告

(1) 新施設に慣れ、安心安全に過ごすために必要に応じて業務改善の検討実施
ケース会、支援業務後また、気づきを発見した際、こまめにその都度検討し業務日誌での情報共有や支援者会議内で全職員の支援・業務方法の確認、統一を実施した。早い時期から新施設にも慣れご利用者、職員においては大きな事故やケガなどもなく過ごすことが出来た。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

(2) 地域との結びつき、地域住民との協力
毎月の坂部サロンの送迎、坂口谷川のかかし祭りへの参加、『喫茶ほとり』への作品展示など地域貢献、地域行事への参加に努めた。

(3) 個々の職員が得意分野を發揮し生き生きと働ける職場環境
園芸、書道、創作などアイデアと実行で素晴らしい作品やきれいな花壇が出来上がった。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) 法人内外の研修に参加し専門性向上と精神的成長
外部研修への参加が少なかった分サポカレを用いての研修を計画的に実施した。また、真菜と合同で安全運転講習を受講し送迎車への車いすの安全な設置方法を学ぶことが出来た。

(2) 緊急時体験受け入れの実施
緊急時及び体験の受け入れを行った。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	19	-1	254	3773	14.8	74.6
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	0	3	9	7

※新規利用者 契約利用日数が2日/月及びコロナ感染により利用率が回復しなかった

2 職員状況

	施設長	サビ管	看護師	生活支援員	事務員	合計
実人数	1	1	1	10	1	13
常勤換算	0.3 (兼務)	0.7 (兼務)	0.46	5.69	0.3 (兼務)	7.45
計画との差	±0	±0	-0.04	-0.41	±0	-0.45

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	241.5	最高残業時間	29.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	70.6
-------	-------	--------	------	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	全員	毎月	ケース	全員
	生活ケア部会	1		管理者会	1
	給食委員会	1	隔月	給食検討委員会	1
隔月	法人編集委員会	1	年2回	法人防災委員会	1
	自立支援ネットワーク	1			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・クラブ活動を年4回実施した。小Gr活動の為1人ひとりとじっくりと向き合える時間が持てた
- ・納涼祭、運動会、ハロウィン、クリスマス会などの季節行事を実施した。
- ・古希、還暦祝いを皆で祝った。
- ・日常リハビリを積極的に取り入れご利用者が持っている力の維持向上に努めた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎朝	理念の継承	全員	朝礼で私たちの願いを読み合わせた
支援者会議			サービス提供し指針を読み合わせた

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ・当事者感を持って会議に参加するために職員会では1発言する機会を設けた。
- ・「おはようございます」「お先に失礼します」「おかえりなさい」の言葉かけを心がけた

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	6.2	虐待防止（サボカレ視聴）	12	7.1	車いす点検&操作法	10
	8.5	リラクゼーション方法	10	9.2	感染症対策について	11
	7、8月	安全運転講習会	4	11.4	リフレーミング	8
	10.7	ノロウイルス対応について	11	2.3	虐待防止について	8
	12.2	KYT 危険予知訓練	8			
法人研修		主任等研修	1		管理者研修	1
施設外研修	6.17	パワーハラスメント対策	1		苦情解決	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
毎月	サロン送迎	1
	坂口谷川かかし祭り	全員
3月	利用者作品展示	

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
4回年	保護者会	職員、保護者
毎月	花もも便り&号外号発行	

G 苦情について対策

日付	誰から	内容	対応者
10月	町内会の方	送迎車が敷地内を走行した	施設長

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	25	ヒヤリ	113	虐待	0	身体拘束	942
----	----	-----	-----	----	---	------	-----

事故：他利用者を叩く 転倒等

ヒヤリ：ふらつき

身体拘束：車いすベルト・テーブル装着（同意書有）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

防災訓練（地震、火災想定）隔月実施 県総合防災訓練に参加（9月）

安否コール 平均返信率91%

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

9/7・2/27、消防用設備点検

2月 缶置き場倉庫を設置

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	50,150,580	23,002,410	27,148,170
サービス活動費用計	51,228,314	26,641,862	24,586,452
経常増減差額	△968,289	△3,634,748	2,666,459
特別増減差額	15,107,606	105,355,532	△90,247,926
当期活動増減差額	14,139,317	101,720,784	△87,581,467

（花ももは移転に伴い、昨年度10月より会計が始まっている。）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

・9/13 藤枝財務所職員現地確認の為来所

M 実習生やボランティアに関する報告

1 実習生の受け入れ

吉田特別支援学校 2名 延べ7日

藤枝特別支援学校 1名 3日間

静岡中央特別支援学校 1名 5日間

清流館高校実習生の受け入れ 2名 2日間

2 ボランティアの受け入れ

ボランティア（隔月）読み聞かせ（おはなしぽっぽ）

外部講師（5回） 笑いヨガ

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

・創立26年（移転名称変更後1年目）

・2022年5月1日坂部地区から、坂口地区に移転新築した。『ケアセンターさざんか』から『ケアセンター花もも』に名称変更をした。

・赤い羽根共同募金にてテーブル、椅子、テレビ等を購入した。

2022（令和4）年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンター野ばら

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）

利用者の安心・安全な生活が提供できるように、個別支援計画を中心に各ケースに分かれて職員同士で情報提供や共有、課題等に関する検討と実施に取り組んだ。またPDCAサイクルで個別支援計画をより良いものにするべく職員で話し合いを行った。年度前半はコロナ過であるため、外出する行事は少なかったが、その分施設内で行事を楽しめるように企画し実施した。後半はコロナの緩和により、お出かけ（エンジョイ）を行う事ができた。

今年度はケアカルテ（記録情報システム）を運用することができなかった。そのため、来年度に実施し3施設（垂穂寮、野ばら、みぎわ）での情報共有が出来るように努める。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

意思決定を個別支援計画に反映するように個別のアセスメントし、サービス提供を行った。研修はコロナ過で外部研修は極力避けたが、施設内研修の一環としてサポカレでの研修を行った。利用者、職員の『キラリハット』は2カ月間、朝の会で職員が交代で良い事、出来た事（利用者や自身の事）を発表した。それにより、認められる事の喜び、出来た事に対するモチベーションの向上に繋げる事ができた。

3 法人の当年度重点計画との関連

施設長面談をリーダーは年4回、その他職員は年2回実施した。職員研修は「Dの3研修計画」を参照とする。

B 利用者と職員の状況

1 利用実績（2023年3月31日現在）

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率
20名	20名	±0	249	3,741	15	75.1%
区分3	区分4	区分5	区分6	合計		
1	2	8	9	20		

2 職員状況（2023年3月31日現在）

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	調理員	事務員	合計
実人数	1	1	11	1	1	1	16
常勤換算人数	0.1	1.0	8.1	0.1	1.0	1.0	11.3
増減	0	0	0(+1-1)	0	0	0	0

3 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間は279.3時間。月平均で23.3時間であった。1人当たりの月平均は1.5時間程度。最も多く残業を行った職員は、年間115.8時間、1か月平均9.65時間であった。

有給休暇取得状況は、全体で92%の取得率、100%以上（8名）、最低は45%（1名）。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

通所（職員）会議、各ケース会議、ソフト（常勤）職員会議を毎月実施し、重要事項の検討や情報共有、利用者の関する支援方法の検討等を行った。

外部委員会は法人関連の虐待防止、防災、苦情に関する委員会に出席した。また、隣接事業所との連携を目的として防災、給食委員会に参加した。

垂穂寮、みぎわ、野ばらの連携を図るために、3ヶ月に1回3施設連絡会を実施した。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

健康作りの一環として、晴天時は散歩に行く機会を設けた。また、リラクゼーションの時間としてスヌーズレンを全体で取り組むように努めた。

お楽しみ企画として、クッキング、七夕の会、秋祭り、美化活動、クリスマス会、節分の会、ミニエンジョイを実施。加えて、通常の活動としては、散歩、作業、リハビリ、ドライブ、カラオケ、DVD・ユーチューブ鑑賞等を行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムについて

朝礼や職員会議の冒頭、理念の継承を目的として「わたしたちの願い」の読み合わせを行った。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して

施設長面談をリーダー職員は計4回、その他の職員は計2回実施した。また、比較的年配の職員にも伝わりやすいように、情報共有を目的として情報掲示板を設置した。

3 研修報告

施設外研修としてスノーブレン研修、褥瘡予防、利用者の想いに気づく、強度行動障害研修、口腔ケア、虐待に関する研修に参加した。施設内研修として自閉症の基本的理解を実施した。法人研修として主任等研修、次期リーダー研修に参加した。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

島田市社会福祉協議会等を通じて、大草団地の買い物支援への協力について関係機関と協議して実施した。また、第3地区民生児童委員による花植え、草取りが行われた。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

家族だよりを毎月発行して、情報提供に努めた。事故やヒヤリハット、苦情に関する報告も掲載した。また、緊急の連絡はメールで実施した。

毎月実施の家族会に職員が参加、家族アンケートを実施し要望等の把握に努めた。

G 苦情とその対応に関する報告

1件の苦情を頂いた。内容としては、抗原検査時に看護師ではなく、職員が行った事に対して、医師からの指摘（苦情として捉えた）があった。保護者に謝罪をし、今後は垂穂寮と協力して検査に取り組むようにした。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

年間を通じて、事故49件、ヒヤリハット40件、身体拘束207件、虐待0件であった。事故については転倒が最も多かった。ヒヤリハットについては職員の配置が不十分であり、職員数の不足による事が多かった。身体拘束については、一時性が1件（他害等防止）、代替性206件（転落防止のためのベルト：同意書あり）だった。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

火災や地震想定避難訓練を毎月1回実施した。また、3施設合同の防災委員会の開催し、防災倉庫の備蓄について点検を行った。

J 環境整備に関する報告 なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況（事業活動）

科目	2022年度	2021年度	増減
サービス活動収益計	50,028,477	53,524,416	△3,495,939
サービス活動費用計	44,785,991	43,327,065	1,458,926
経常増減差額	5,243,744	10,250,002	△5,006,258
特別増減差額	0	△3,000,000	3,000,000
当期活動増減差額	5,243,744	7,250,002	△2,006,258

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ ）

2 借入金償還状況

なし

L 主務官庁との関連した報告 なし

M 実習生やボランティアに関する報告 なし

N その他

新型コロナウイルスのクラスターにより、施設休業する事があった。

2022（令和4）年度事業報告

生活介護
ケアセンターかたくりの花

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について
かたくりの花支援計画の3本柱（自立の促進・健康維持・生活の質向上）に沿って意思決定を目指した支援提供を実施した。
- 2 事業報告
 - (1) ご利用者さんの小さなサインに気づき受けとめる
言葉で伝えることが出来ないご利用者の思いを受け止めるためには、手足の動きや表情から気持ちをくみ取っている。本当に小さな目の動きを見逃さず、言葉に表すとまたその言葉にサインを出し何度も繰り返しの作業になるが、伝わった時のご利用者の顔は最高の表情へと変わる。
 - (2) ご利用者が自分で決めることで満足度がアップする日中活動へと繋げる
散歩の中で「私は歩行の練習をしたい、今日は皆と一緒に車椅子で出かけたかった」などどうしたいのかを時間はかかるが確認し対応している。自分で決めたことが出来た時の満足度はとても大きく自信になり、他の活動への意欲へ繋がっている。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
ご利用者の気持ちを引き出す意思決定、ご家族には引き渡し時に「気になる事はありますか？」とさり気なく伺う声掛け、そして支援に関わる職員には一日の中で困ったこと等の話を聴き気持ちを切り替える時間を設けることで「分かち合い」、ご利用者とご家族そして職員を大切な人としての対応を実施した。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) 新人職員の育成のため施設内研修
全体職員会議の中研修を計画したが、一番参加して欲しい職員の欠席が多かった為会議や研修時間を検討する。会議報告については欠席者に後日説明実施した。サポカレ研修は分かりやすく短時間で気軽に受講できると職員から好評。
 - (2) 支援の方法やなぜこの支援が必要なのかを理解する
支援方法の統一について話し合い実施。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	20	0	253	4459	17.6	88.1
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	0	4	10	6

※特記事項を記入 コロナ感染により利用率が減少した

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1	11 (内2兼務)	1	1	0	13
常勤換算	0.25	1.0	7	0.75	0.35	0	9.3
計画との差	0	0	-0.9	0	0	0	-1

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	358.5	最高残業	81	有休義務	100	有給取得	76.2
-------	-------	------	----	------	-----	------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	ケース会議	13	毎月	全体職員会議	約10名
3/28	法人防災委員会	1	5/25. 11/24	ヒヤリ・事故防止委員会	1
6/23. 9/22. 2/7	くらし部会	1	7/7. 11/4	圏域重心部会	1
8/29. 11/24.	島田市重心部会	1	10/14	島田市運営部会	1
4/27. 10/28	苦情解決委員会	1			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 8回/年のクッキングではどんな材料を使うのか利用者会議を提供し、おしゃれなネーミングまで決めて自分達で作った「さつまいも特製最中」や「サマーマスクット～梅雨明けゼリー」などを美味しく食した。
- 夏祭りにボランティアでピエロや新年会に獅子舞、七福神そして節分の会では島田市のゆるキャラ‘おしまちゃん’に訪問依頼し職員のアイデア満載の行事を提供。
- 8年前に植えたレモンの木に初めて4個実り大切に育て収穫した、ご利用者さんのリクエストで「レモンティー」にしてホッと一息ゆっくりした時間も提供した。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
朝 全体会議	理念の継承	全員	朝の打ち合わせ時にサービス提供指針を唱和。 会議時には服務心得の読み合わせ。

- 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
 - 職員親睦の為にランチ弁当を4回/年提供。食後職員の趣味や休日の過ごし方などを聞く時間を作った。今年購入した流しそうめん機のお試し試食で盛り上がり、行事へのアイデアを出し合うことでチームワークが深まり一致団結できた。
 - 勤務終了時には管理者から「お疲れさま」の声掛けと、気持ちを切り替えての帰宅や出勤が出来るように声掛けを実施した。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内 研修	5/10	コミュニケーション&信頼関係のコツ	12	6/8	接遇&記録の書き方	11
	7/8	感染症予防と熱中症	11	8/8	サポカレ「身体拘束」	10
	9/9	サポカレ「重心とは」	10	12/7	送迎車降り忘れ事故防止対策	10
	1/19	同性介助の確認	9	2/8	サポカレ「職員の接遇」	6
法人研 修	6回	主任者等研修(1)	1	7回	管理者研修	1
	4/2	2022年度新年度研修	13	6/17	新人職員研修	1
	6/23	高齢者施設のノウハウ	1	9/30	新人オリエンテーション	1
施設外 研修	5/12	接遇・マナー・講座	1	5/9	障害者施設のための感染症	1
	6/20	虐待防止「脳が誤作動」	1	5/9	研修前後の動機付け	1
	7/18	障がいのとらえ方講座	1	10/28	医療・看護講座	1
	10/9	セラピューティックケア	1	8/25～	医療的ケア児者コーディネーター	1
	11/24	サビ管更新研修	1	2/28	障害者虐待防止講演会	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
2回/月	散歩コースのゴミ拾い	職員、利用者全員対象
2回/月	地域のアルミ缶回収と収集所整理整頓	職員4～5名、利用者5～7名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
3回/年	保護者会	保護者、職員

毎月	かたくりの花お便り「風さゆる」を配布	利用者、保護者、職員
12/2	大掃除	保護者 16 名、職員 7 名

G 苦情について対策

苦情なし（毎日の引き渡し時に苦情になる前何か気になる事や困っている事をお伺いする声掛けを実施している。）

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	5	ヒヤリ	51	虐待	0	身体拘束	1483
----	---	-----	----	----	---	------	------

事故：車椅子転倒 1 件

ヒヤリ：段差につまずく 職員を掴みに行く等

身体拘束：車いすベルト装着（同意書有）1483 件、個室対応（同意書有）12 件

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

防災（BCP・災害・感染症）、マニュアル等改訂中

施設防災訓練（火災・地震）毎月実施により、ご利用者の避難訓練の意識が高まった。

11/25 法人防災訓練保護者への引き渡し訓練を実施。法人防災訓練も含め総合防災訓練を 2 回実施。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

5/18 浄化槽原水ポンプ取替工事

2/23 浄化槽担体槽の補修工事

2/4 空調設備（エアコンクリーニング）

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022 年度決算	2021 年度決算	増減
サービス活動収益計	57,299,320	59,936,713	△2,637,393
サービス活動費用計	51,065,106	50,053,920	1,011,186
経常増減差額	6,236,432	9,803,880	△3,567,448
特別増減差額	△2,929,621	△4,378,800	1,449,179
当期活動増減差額	3,306,811	5,425,080	△2,118,269

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

3 回/年：岩本造園さん（2 名）庭木の手入れと草刈

1 回/年：金谷手打ちそばの会さん（3 名）手打ちそばの実演

2 回/年：ピエロ・獅子舞の訪問（1 名）

2 回/年：喫茶アルムさんより行事（夏祭り・クリスマス会）時コーヒー提供

3/24. 27：個別外出にてボランティア 4 名参加

N その他

2006 年 4 月 1 日開所 創立 17 年

2022（令和4）年度事業報告

就労継続支援A型事業所
ワークセンターカサブランカ

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

職員の事業所での経験年数がまだ浅く事業が円滑に運営できるよう、業務の見直しやマニュアル作り、作業場の環境整理を中心に職員の一致団結し事業所を利用者も職員も働きやすい事業所にと進めてきたが、今年度、市民から職員の接遇、利用者への関わり方等で苦情の投書があった。1名の職員の言動と思われるが、原因として事業所としてコミュニケーションを取りながらチームワークが取れていなかったことが大きな要因と思われ悔やまれる。

2 事業報告

- (1) 職員体制が新しい顔ぶれとなり、事業が円滑に運営できるよう、業務の見直しやマニュアル作り、作業場の環境整理をできるところから実施した。
- (2) 利用者の利用率も低く、日々の作業を行うことで、一般就労に必要な知識の習得や社会経験を増やすことを目的とした勉強会や講習会を実施することはできなかった。今年度は、コロナ禍の状況も少し落ち着き合同面接会が開催されたが、カサブランカとしては一般就労の実績はなかった。来年度は1～2名の一般就労者を出せるようにしたい。
- (3) 当事業は島田市からの委託事業であるため、委託者である島田市環境課との情報の共有を密にし、連携を取って事業を行うように努めた。
- (4) 今年度より送迎サポート（サービス）の試行運用を実施する。当事業所の利用者を中心に法人内の他の事業所関係の送迎サポート（サービス）を必要とする利用者も対象し実施した。今年度は試行運用でもあり、実費費用、加算等は取らないで行った。送迎サービスを利用する方の利用率は昨年度よりも良くなり、一定の効果はあったと思われる。コスモスの利用者は引き続き送迎は必要であり来年度も継続しサービスとして定着、拡大させていきたい。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

牧ノ原やまばと学園の「サービス提供指針」に基づいた、利用者ひとりひとりをかけがえのない存在として重んじ、常に利用者の立場に立ったサービスを提供するよう努める。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) 職員育成

年間で数回の研修等を実施。サポートカレッジも活用して職員の育成を進めてきたが、しかし、年度後半に市民から職員の接遇、利用者への関わり方等で苦情の投書があった。原因として事業所としてコミュニケーションを取りながらチームワークが取れていなかったことが要因と思われ、改めて、職員育成の難しさを感じた。

(2) 地域貢献

カサブランカの仕事自体が資源類中間処理業務（リサイクル事業）であり地域に貢献している事業ではあるが、地域住民が、福祉の事業所で障害のある利用者が仕事に取り組んでいるは周知できていない。今年度2回ほどクリーン大作戦、近隣の草取りを実施したが今後も自分達から地域に出ていき地域貢献、周知していきたい。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
15	14	1	246	2486	10.1	67.4
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
11	1	2	0	0	0	0

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	2	1	1	7
常勤換算	0.1	0.9	0.8	1.8	0.2	0.2	4
計画との差	0	0	0	1.2	0	0.2	5.2

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	97.5	最高残業時間	46.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	68.0
-------	------	--------	------	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	全員	5・11月	虐待防止会議	全員
毎月	作業就労部会	澤渡	随時	事務連絡会	曾根
毎月	施設管理者会	澤渡	随時	市しごと部会	澤渡
5・3月	防災委員会	木野			
4・10月	苦情解決委員会	澤渡			
5・11月	事故防止委員会	澤渡			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 就労継続支援A型事業所として、雇用契約に基づく就労の機会を提供し、一般就労に必要な知識・能力の向上のために必要な訓練を実施した。
- 2 作業のやり方、作業テントハウス内（利用者の休憩場所も含む）を一部整理整頓し、使いやすきようにした。
- 3 健康で仕事が続けていけるように島田市健康づくり課による 11/2 ブラッシング指導 3/7 腰痛予防講座 9月 12月を実施。コロナワクチン 4、5回目を実施。夏季の時期は繁忙期でもあり熱中症対策も考え、PMの休憩時にはアイス等冷たいものなどを提供した。
- 4 感染症対策を考えながら業務遂行に支障のない範囲で利用者の励みとなるような季節の小行事を提供した。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	支援の定着	全員	サービス提供指針を読み合わせた
随時	支援の学習	全員	サポートカレッジの活用

4/2 法人新年度研修に全職員が参加。事業所の今後などについて職員で意見を出し合い実りある研修ができた。職員全体でできる範囲から具体化を計った。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
市民より職員の利用者及び市民に対する不適切な関わり方についての苦情の投書があった。再度職員一人一人と施設長が面談。一人一人各自の行動について振り返り、今後について意見を聞く。今後についての改善案を検討。改めて職員がチームワーク、コミュニケーションをとり日常的に『報告、連絡、相談』を行い、職員全員が働きやすく、風通しの良い

チームを形成するようにこころがけた。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
法人 研修	4/2	新年度研修	1	随時	主任者 S V 研修	1
	6/17	新人職員コミュニケーション	1	随時	管理者 SV 研修	1
	9/30	新人職員オリエンテーション	1			
施設内 研修	随時	サポートカレッジ	全員			
施設外 研修		初任者研修	1	10/14.15	基礎研修	1
	随時	経理・決算等研修	1	随時	しごと部会研修	2
	随時	ジョブミーティング研修	2			
	2/20	虐待事故防止研修	1	2/22	原子力避難計画作成の研修	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
12/5	ニコニコクリーン大作戦	利用者・職員全員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	カサブランカ便りを発行	

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

日付	誰から	内 容	対応者
7/4	市民から	職員の接遇がなっていない	施設長
12/28	市民から	職員の対応が荒く、気分を害した	施設長
1/20	市民から	職員の対応が荒く、気分を害した	施設長

年間で数回の研修、サポートカレッジも活用して職員の育成を進めてきたが、市民から職員の接遇、利用者への関わり方等で苦情の投書があった。1名の職員の言動と思われるが、原因として事業所としてコミュニケーションを取りながらチームワークが取れていなかったことが要因と思われる。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	3	ヒヤリ	2	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：作業用カッター紛失、利用者出勤時に転倒骨折、長靴にガラスの破片が入る。

ヒヤリ：回収物に注射器あり、利用者同士の言い争い

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 1 「地震・風水害対応マニュアル」「災害時事業継続計画」「消防防災計画」に基づき対応し、毎月の防災訓練年1回の総合防災訓練及び備蓄品、食品及び保存水の点検を実施した。
- 2 通勤手段として自転車、自動車通勤の方がいるため、日頃から道路交通法を守り、安全に通勤する意識付けを行った。
- 3 感染症防止対策は、マスク着用の徹底、密を避けるよう時差出勤、昼休憩（食事時間）を2班に分かれて取るなど対策を行った。また、入り口に検温機を設置し、利用者、職員とも出勤時の検温、消毒、来所者に対しても立ち入り時に検温、消毒を実施した。環境整備として食事場所にアクリル板を設置、日々、施設内の消毒、換気、手洗いうがいの徹底等の対策を継続的に実施した。事業所内で感染者を出すことはなかった。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

島田市から借用している設備であるが、利用者がその能力を発揮し作業が円滑にできるよう、出来る範囲で職場環境の改善を行った。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022 年度決算	2021 年度決算	増減
サービス活動収益計	43,294,525	43,055,749	238,776
（内、就労支援事業収益）	(22,935,000)	(22,935,000)	0
サービス活動費用計	38,055,208	39,013,594	-958,386
（内、就労支援事業費用）	(22,935,000)	(22,935,000)	0
経常増減差額	5,320,740	4,144,812	1,175,928
特別増減差額	-1,079,999	-2,500,000	1,420,001
当期活動増減差額	4,240,741	1,644,812	2,595,929

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特に無し

M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 吉田特別支援学校生徒 1 名の実習を受け入れた。また、利用希望者 5 名の方の実習を随時実施した。
- 2 一般の福祉に興味がある方のボランティアを 1 名の方を受け入れた。今後もボランティアの希望があれば積極的に受け入れていきたい。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

今年度、16 年目

2022（令和4）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターコスモス

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

利用者の体の負担を軽減し作業を工夫した対象者の利用率は昨年度より微増したが健康問題により利用日が減少した方がおり、また新たな利用者もいなかった事が、利用率に影響した。工賃は向上した。

2 事業報告

作業効率を改善し工賃の向上と健康面等生活面のサポートをし、利用率の向上を目指す。工賃については受託収入が昨年度より多いのに対し、利用者が減じている為、向上した。利用率については新たな利用者は無く、人工透析の為、利用日が週3日になった方もおり減少した。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

利用者の障がい特性に合った対応を心掛け、意志及び人格を尊重したサービスの提供に努めた。具体的には特性にあった声掛け、コミュニケーション、情報の提供、作業を代わる時の意思確認等を行った。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) 職員育成（レベルアップのための研修）

サポカレの活用、外部研修への参加。

(2) 実習生の就職勧誘

福祉業界に就職希望の実習生を法人内施設に案内し入職に繋がった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	17	0	250	3801	15.2	76

※昨年度3月末に1名逝去されたため契約者数が18名から17名に。

※12、1月にGH等のコロナ感染の影響あり利用率70%を下回った。

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	4	4	1	0	11
常勤換算	0.2	1.0	2.4	1.8	0.2	0	5.6
計画との差			△0.2	△0.4			△0.6

※6/1付で職業指導員1名（3Hパート）がWCあさがおに異動。

※10/1から生活支援員1名（パート）週25Hから20Hに変更。

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	91	最高残業時間	27.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	100
-------	----	--------	------	---------	-----	---------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	全員	隔月	島田市しごと部会	1
毎月	作業就労部会	1	年2回	事故防止委員会	1
毎月	施設管理者会	1	年2回	苦情解決委員会	1
隔月	法人防災委員会	1			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

4月:勤続表彰 5月:花壇の植え替え 6月:園芸教室 7月:感染症講座
 8月:「かき氷を食べよう！」 9月:「中秋の名月を知ろう」
 10月:動物訪問ふれあい活動・ハロウィンイベント（キッチンカー体験）
 11月:花壇植え替え（民児協交流会） 12月:島田高校交流会 1月:20歳のお祝い
 2月:「食事マナーを学ぼう！宮美殿会食」 3月:交通安全教室
 毎月:誕生日カードの掲示

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。
朝礼の際、理念の継承とし記念誌「それでも一緒に歩いていく」を拾い読みの予定であったがほとんどできなかった。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
職員会議の際、業務と関係ないテーマで話す時間を設け、スタッフ間のコミュニケーション向上を図った。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	7月	感染症講座	全員	8月	サポカレ障害者虐待とは	全員
	12月	サポカレ知的・発達障がい者の高齢化	全員	年2回	虐待セルフチェック	全員
法人研修	4/2	新年度研修	4	年9回	管理者研修	1
	7/8	主任等研修	1	10/14	防災研修会	2
施設外研修	3回	精神保健福祉業務基礎研修	1	12/6	サビ管更新研修	1
	12/13.14	サビ管実践研修	1	2/2	しごと部会スキルアップ研修	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
年3回	島田第2地区民児協交流会	委員4名 利用者全員
12/5	にこにこしまだクリーン大作戦	利用者2名 職員1名
12/22	島田高校との交流会	島高関係者44名 利用者・職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
4月	家族会	職員、保護者
毎月	「コスモスだより」の配布	保護者、グループホーム

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

0件

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	6	ヒヤリ	3	虐待	0	身体拘束	36
----	---	-----	---	----	---	------	----

事故：転倒、他者のスマホを投げる、バスから降車出来ない等

ヒヤリ：対人トラブル、転倒

身体拘束：突発的行動の際、複数職員で両腕を抑えた。（同意書有）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・消防計画に基づき、毎月火災と地震避難訓練を交互に実施（総合防災訓練2回を含む）。法人全体防災訓練に参加。法人防災研修と法人防災委員会（2回）に参加。

- ・マニュアルについては感染症と原子力災害について整備した。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）
なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	33,520,225	36,203,621	△2,683,396
（内、就労支援事業収益）	2,281,855	2,113,847	168,008
サービス活動費用計	28,161,099	27,801,668	359,431
（内、就労支援事業費用）	2,284,423	2,114,101	170,322
経常増減差額	5,418,644	8,417,041	△2,998,397
特別増減差額	△2,500,000	△3,500,000	1,000,000
当期活動増減差額	2,918,644	4,917,041	△1,998,397

2 借入金償還報告
なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

1 コスモス2階返還について

垂穂寮が建物の2階を借りていたがR4年度末で市に返却となる。修繕については雨漏り箇所の応急修繕のみで垂穂寮が手配・負担し修繕後、借受財産返還届出書を提出する予定。契約については一部変更契約の破棄となる。

コスモスの維持管理費用については、機械設備費用は1階分のみ、消防設備保守点検費用は1、2階の機器の個数で按分し率に応じて（コスモスから2回/年按分請求）、光熱水費は使用分負担の予定。

M 実習生やボランティアに関する報告

- ・島田市立看護専門学校 18名
- ・清流館高校 4名
- ・藤枝特別支援学校 3名
- ・島田第一中学校 2名
- ・毎週木曜日午前 作業ボランティア1名

※8、9月はコロナ感染拡大の為、受け入れを中止した。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

(1) 創立42年（1980年創立）

(2) 監事監査指摘事項への対応

- ・事故・ヒヤリ記録のまとめ方について、分かりやすく整理をと指摘有り、見直した。
- ・送迎バスの確認ミスによる事故が続いている為、送迎は無くても出欠確認表や健康チェック表等、確認マニュアルもあつたら良いのではとの指摘があつたが整備できていない。

2022（令和4）年度事業報告

就労継続支援B型
ワークセンターなのはな

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について
コロナ感染症の影響も受け上手く進まないこともあったが、落ち着いた環境整備を行い利用者関係の構築に努められた。
- 2 事業報告
 - (1) 落ち着いた環境整備と円滑な利用者関係の構築
トイレ増設・可動式間仕切り設置等の環境を整備したことで、落ち着いた環境を提供することができ、利用者関係も円滑に活動ができた。
 - (2) 特性に合わせた作業方法の検討、経験を重ね、能力向上工賃アップに繋げる
作業提供方法の改善を行い能力向上には繋がられたが、コロナ感染症の影響を受け工賃アップに繋げることは難しかった。
 - (3) ボランティア受入れ体制は整備したが、コロナ感染症防止のため受け入れはできなかった。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
職員会議時にサービス提供指針の読み合わせをし、理念に基づいたサービス提供が行えた。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) 主任者等研修、管理者研修、サポカレ受講により意識向上を図ることができた。
又、サービス管理責任者基礎研修受講し人材育成を図った。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
30	28	-1	247	6679	27.0	90.1
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
9	1	3	7	8	0	0

※コロナ感染により利用率が減少した。 3/2付けで野ばらへ1名移行した

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3	7	1	1	11
常勤換算	0.5	0.5	2.1	4.0	0.5		8.1
計画との差				-0.9			

* 6月 生活支援員1名ワークセンターやまばとへ異動

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	53	最高残業時間	43	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	51.4
-------	----	--------	----	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	20	隔月	編集委員会	1
3/28	法人防災委員会	1	5/25	事故防止委員会	1
隔月	しごと部会	1	10/28	苦情解決委員会	1
隔月	事務連絡会	1			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

コロナ感染症の影響で、公共交通機関を利用した行事などはできなかったが、感染対策を講じ工夫をして行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
隔月	理念の継承	全員	職員会議でサービス提供指針の読み合わせを行った
毎月	ケース会議	全員	職員会議にて、利用者支援についての検討・共有を行った

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
職員会議が始まる前にコミュニケーションゲームを行った。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内 研修	10/21	サポカレ	9	11/23	サポカレ障害者の高齢化	4
	2/17	身体拘束・虐待				
	11/28	サポカレ障害特性 てんかん	1	5/20 1/20	感染症研修	11
法人研 修		SV 研修 (1)	1		管理者研修	
				10/14	防災研修	1
施設外 研修	7 月	相談支援従事者	1	5/16	感染症講座	1
	10/6.7	サビ菅基礎研修				
	5/30	人材育成研修	1	5/27	コンプライアンス研修	1
	2/13	障害者就労	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
4 月	市内一斉川ざらい協力	職員 5 名
年 6 回	横井町クリーン作戦	職員 2 名、利用者 5 名
	社協・包括・地域との会合に参加	職員 1 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
7/15	保護者連絡会	職員、保護者

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	10	ヒヤリ	1	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	---	----	---	------	---

事故：転倒、他害

ヒヤリ：通所時の車との接触

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

防災訓練（災害・感染症）、マニュアル等の整備済み、地域防災訓練は感染症の影響により実施されなかった。

毎月の施設防災訓練実施。内総合訓練 2 回実施。 12/1 消防立入り検査実施。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

7/26～1 か月 トイレ増設工事

3/25 可動式間仕切り工事

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	52,042,523	51,772,836	269,687
（内、就労支援事業収益）	5,517,475	5,803,137	△285,662
サービス活動費用計	36,286,450	38,002,737	△1,716,287
（内、就労支援事業費用）	5,517,475	5,803,137	△285,662
経常増減差額	15,492,897	13,437,244	2,055,653
特別増減差額	0	0	0
当期活動増減差額	12,992,897	10,437,244	2,555,653

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2017/5/1	0.5	25年	静岡銀行	78,000,000	18,460,000	59,540,000

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

藤枝特別支援学校生 2名（3年生3回・2年生1回）
 静岡北特別支援学校生 1名（3年生2回）
 島田看護専門学校生 9名
 清流館高校性 2名
 島田第一中学校福祉体験 4名

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

創立23年 法人傘下（2009年より）13年

2022（令和4）年度 事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターあさがお

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2021年度事業計画に関する報告（総括）
事業所内のチームワーク作りに力を注いだ。誰もが話易く、聞きやすい職場環境作りに努めた。子育て中でも病気治療中でも働ける職場として職員同士助け合い業務を進めた。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
新年度研修には全職員が参加し、意見交換の機会を持った。法人の50周年誌の感想や意見交換をすることができた。新人オリエンテーションへの参加もできた。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
4月より採用した新人の育成に力を注いだ。1名の職員が他のサービス事業所で働きたいと退職を希望したため、貴重な人材を残すため法人内の生活介護事業所への異動を勧め退職ではなく異動で残留できた。（9月）

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	20	0	243	4860	18.2	91%

※2月に新型コロナウイルス感染者発生により臨時休業5日間（土日除く）

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	5	1	1	11
常勤換算	1	1	1.5	2.5	1	0.45	7.45
前年度増減	0	0	0	-0.75	0	-0.15	-0.9

※6月生活支援員（正規職員）退職、10月生活支援員補充（準職員）

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	95	最高残業時間	61	有給休暇取得率	88.2%
-------	----	--------	----	---------	-------

※6月退職者、8、9、10、1、2月病欠者有のため残業となった。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
5・11月	法人防災委員会	安松	法人BCP、法人全体防災訓練について等
4・10月	苦情解決委員会	榛地	法人内苦情の確認と共有 他
8月	虐待防止委員会	榛地	管理者会にて同時開催
毎月	施設管理者会	榛地	各種報告・検討事項・記念誌感想等
毎月	作業就労部会	榛地	各種報告・検討事項・情報共有等
毎月	杉山会計月次監査	杉山	会計監査（月次）
隔月	しごと部会	榛地	地域課題の抽出、検討、共有、スキルアップ研修等

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・昼休みの見守りと余暇の提供に努めた。（YouTube・ぬりえ・ボードゲーム等）
- ・毎月テーマを決めて行事を実施した。（創作活動・体験学習・体操、等）
- ・コロナ禍で外出の機会が減ったため、土曜日の午前中を利用し体操等の自主活動の実施。
- ・感染状況の確認をしながら、日帰りバス旅行を実施し社会参加の機会を設けた。
- ・多種多様な作業の提供に努め、コロナ禍にあっても受注売り上げを申し工賃アップをすることができた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	就業規則・理念	全員	サービス提供指針の輪読、管理者会報告等
随時	業務連絡ノート	全員	利用者状況やケア会議の報告等の情報共有

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
- ・毎月1回「カレーの日」を設けて施設長の手作りカレーを職員全員が食べた。
 - ・毎月の職員会議の後、15分程度の茶話会を開き自由に雑談をした。
 - ・毎日シフト表を作成し、必要な連絡や情報を記入し業務以外のことも共有した。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
法人内研修	4/1	新人オリエンテーション	2	5/22	新年度研修	12
	4回	S V研修 (主任)	1	3回	S V研修 (管理者)	1
	11/2	新人オリエンテーション	1	3/24	管理者研修	1
外部研修	7/12	ファシリテーション	1	10/5	虐待防止研修	1
	11/5	教え方講座	1	12/15	ヤングキャリアスタッフミーティング	1
	1/17	サビ管更新研修	1			
施設内研修	8/18	虐待研修	7	10/5	虐待防止研修 (共有)	10
	10/27	障害福祉サービスを知る	11	11/17	教え方講座 (共有)	10

※コロナ禍のため Zoom による研修が中心であった。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
11/29	民生委員交流会 (作業体験・紙芝居・ゲーム等)	職員 10 名・利用者 17 名
9月～	あさがおしまトレ (土曜日開催 2 回/月・自主活動)	職員 2 名、利用者、保護者
1/8	島田市公認しまトレ試行 (対象：井口地区)	職員 2 名、初倉包括、地域役員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
随時	モニタリング・必要に応じた個別連絡と相談	各家族・保護者 年 1～2 回

※コロナ禍のため対面での連絡会は中止し、個別対応と書面での連絡とした。

G 苦情とその対応に関する報告

- ・なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	1	ヒヤリ	7	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

※事故＝行事のボランティアに来てくださった父兄の怪我 (通院なし・謝罪に訪問)

※ヒヤリハットに関しては今後、職員の記録に対する意識を高めていくことが課題。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況、感染症などの報告

- ・毎月防災訓練を実施した (2月、3月は担当者病欠のため未実施となった)
- ・天候等による自然災害による被害はけが人はなし
- ・感染症対策として、「感染症マニュアル」を備え、主に新型コロナウイルス対応については全職員のワクチン 3 回目接種終了、事業所内のゾーニング及び、発生時の対応フローを備えた。
- ・2月に5名の利用者が新型コロナウイルスに感染、臨時休業 (2/18～27) をした。職員の感染者は発生しなかった。

J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

・なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告(事業活動)

科目	2021年度決算	2020年度決算	増減
サービス活動収益計	41,301,827	42,220,390	△918,563
サービス活動費用計	38,829,433	36,852,450	1,976,983
経常増減差額	2,526,314	5,461,169	△2,934,855
特別増減差額	△2,985,000	3,095,796	△6,080,796
当期活動増減差額	△458,686	8,556,965	△9,015,651

※サービス活動収益の内、寄付金収益 なし

※新型コロナウイルス感染による臨時休業、感染による自宅待機者等により減収

2 借入金償還報告

・なし

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

・なし

M 実習生やボランティアに関する報告

- ・高校生と特別支援学校の実習生は感染状況を確認しながら受け入れた。
県立清流館高校2名 藤枝特別支援学校1名 吉田特別支援学校3名
一般1名(吉田特別支援学校2名と一般1名は4月からの利用につながった)
- ・緊急事態宣言期間中以外の期間は地域の個人ボランティア2名の方の受け入れを継続。

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

・なし

2022（令和4）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンター希望の家

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について
年4回のポッチャ大会を通してチームワークの形成を行い仲間意識を促すことで、日々の作業面でも「健康で、楽しく、仲良く」を実現する活動を行った。
- 2 事業報告
(1) 定員割れをしている現状を踏まえ、新規利用者の利用に向けて、実習生の受け入れを促進していく。
4月より、2名のご利用者と契約し、契約者数18名となった。11月ご家族からネグレクトにより不衛生な生活を強いられていた方がグループホームへ移行することができ、1名減り、17名となった。長期休み期間に特別支援学生や在宅障害者の見学や体験の受け入れを行ったが、利用にまでは繋がることはなかった
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
牧ノ原やまばと学園「サービス提供指針」に基づいてサービスの提供を行った。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
(1) 職員の育成
計画的に研修を受講し、受講した内容を職員会議で全職員へアウトプットすることで、受講者はもちろんのこと全職員が知識や情報を学び、全体的な職員育成の機会となった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	17	-1	251	4064	16.2	81.4

※コロナウイルス罹患や濃厚接触者により、利用率が低下した。

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	4	3	1		10
常勤換算	0.125	0.5	3.0	2.15	0.125		5.925
計画との差	0	0	0	0	0		0

3 残業、有給休暇取得に関する計画

総残業時間	29	最高残業時間	25.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	82
-------	----	--------	------	---------	-----	---------	----

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	7	年2回	苦情解決委員会	1
年2回	法人防災委員会	1	年2回	事故防止委員会	1
隔月	自立支援協議会	1			

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

生産活動については、企業からの下請け作業に取り組む機会を提供し、任された仕事に対して責任を持って果たせるよう、指導訓練を行い、必要に応じて個別指導した
就労支援については、希望者がいなかった為、就職活動の支援をしなかった。
相談及び援助については、年2回モニタリングを行い、また必要に応じて個々に面談を行い、サービス管理責任者が作成した個別支援計画に基づき、計画相談員や市福祉課等と協力して支援を行った。

健康管理については、年2回の健康診断、歯磨き教室（歯科医、歯科衛生士を招く）、予防接種、毎月の体重血圧測定、日常生活衛生面の支援を行った。
 利用者の社会性の向上やチームワーク形成、所属意識の形成に必要な行事を行った。
 4月6月9月11月：ボッチャ大会 5月：家族に感謝の日 8月：夏祭り
 10月：ハロウィン 12月：クリスマス会 2月：バレンタイン 3月：買い物訓練 花見

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った

日付	プログラム名	人数	内容
職員会議時	理念の継承	全員	理念と6つの願いを唱和
2月	サービスの質の向上	全員	サービス提供指針熟読

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った

『報告、連絡、相談』を日常的に行い、風通しの良いチームを形成する事で、職員全員が働きやすい環境作りに努めた。お互いの意見を否定的態度で聞くのではなく、受容し、お互いの合意形成のもと、決定していくよう、日常や会議時において伝えた。

3 研修計画

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	毎月	会議での研修報告	全員	10月	サポカレ高齢知的③	7
	6月	サポカレ虐待防止	7	11月	サポカレ身体拘束	7
	8月	サポカレ高齢知的①	7	12月	サポカレ障害者虐待	7
	9月	サポカレ高齢知的②	7	1月	サポカレ記録書き方	7
法人研修	4/2	法人全体研修	3	6/17	新入職員研修	1
		管理者研修	1	10/14	防災研修	1
施設外研修	4/21	感染症（初級）	1	12月	発達障害支援講座	1
	9/6	薬の基礎知識	1	2/6	年金基礎講座	1
	10/13	感染症（中級）	1	2/21	家族との関係づくり	1
	11月	中央福祉学院（中級）	1	3月	救急講座	2

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
9/17	金谷地区社協絆フェスタ maru	職員1名
12/5	ここにこしまだクリーン大作戦（清掃）	職員1名、利用者3名
毎月	地域清掃（草取り）	職員、利用者

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
毎月	希望の家お便り配布	
3/28	保護者会	職員2名、保護者13名

G 苦情について対策

苦情なし。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

事故	8	ヒヤリ	6	虐待	0	身体拘束	5
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：トラブル3件 服薬関係3件 車両事故2件

ヒヤリ：服薬関係1回 接触3回 転倒2件

身体拘束：ご利用者Aさん3件パニック（6/24 2件. 9/5）（同意書有）

ご利用者Bさん2件注射時（同意書有）

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

毎月火災・地震避難訓練を実施した。年2回消防署へ事前申請し、全体総合訓練を行った。
今年度は希望の家初めてとなる引き渡し訓練を実施できた。

J 環境整備に関する計画

4/13 事務所引き戸修理。5/20 事務所パソコン2台更新。12/24 作業室事務室相談室エアコン清掃。2/1 玄関扉修理。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 収支報告（事業活動）

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	33,357,590	28,113,204	5,244,386
（内、就労支援事業収益計）	2,966,763	2,622,913	343,850
サービス活動費用計	30,629,923	30,343,916	286,107
（内、就労支援事業費用計）	2,968,547	2,623,384	345,163
経常増減差額	2,728,649	△2,187,446	4,916,095
特別増減差額	△2,506,822	△1	△2,506,821
当期活動増減差額	221,827	△2,187,447	2,409,274

2 借入金償還計画

なし

L 主務官庁との関連

4月：変更届・体制届提出 5月：体制届提出

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生：特別支援学校生徒の体験実習3名 小学校特別支援学級教諭実習1名
ボランティア：年間を通して3名の方がボランティア参加して下さいました。

N その他

創立41年（県単独事業27年、牧ノ原やまばと学園運営14年）

令和4年度赤い羽根共同募金福祉施設機器整備事業送迎用車両整備事業（買替）申請決定
助成金額 1,275,000円

2022（令和4）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターふれあい

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について
台風15号の被害を踏まえ、地域に根付く重要性を再確認した。地域防災の日に参加したり、地域に感謝の日では近隣住民のご家庭37軒に挨拶に伺い、事業所とご利用者の存在を知っていただく活動を行った。
- 2 事業報告
(1) 快適な環境整備を行い、ご利用者職員が過ごしやすい事業所作りを行う。
1年をかけて、全館の整理整頓を行った。不要品を処分し、棚を準備し、今後は必要な物品や資料などを入れるようにした。整理を行った事で、掃除がしやすくなり、ご利用者職員が過ごしやすい空間となった。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
牧ノ原やまばと学園「サービス提供指針」に基づいてサービスの提供を行った。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
(1) 職員の育成
計画的に研修を受講し、受講した内容を職員会議で全職員へアウトプットすることで、受講者はもちろんのこと全職員が知識や情報を学び、全体的な職員育成の機会となった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	14	0	252	3132	12.5	65.5

※コロナウイルス罹患や濃厚接触者により、利用率が低下した。

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	2	1		7
常勤換算	0.1	0.5	1.8	1.0	0.1		3.5
計画との差	0	0	0	△0.2	0		△0.2

3 残業、有給休暇取得に関する計画

総残業時間	12.5	最高残業時間	8	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	67

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	6	年2回	法人防災委員会	1

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 生産活動については、企業からの下請け作業に取り組む機会を提供し、任された仕事に対して責任を持って果たせるよう、指導訓練を行い、必要に応じて個別指導した
- 2 就労支援については、希望者がいなかった為、就職活動の支援をしなかった。
- 3 相談及び援助については、年2回モニタリングを行い、また必要に応じて個々に面談を行い、サービス管理責任者が作成した個別支援計画に基づき、計画相談員や市福祉課等と協力して支援を行った。
- 4 健康管理については、年2回の健康診断、歯磨き教室（歯科医、歯科衛生士を招く）、予防接種、毎月の体重血圧測定、日常生活衛生面の支援を行った。
- 5 利用者の社会性の向上やチームワーク形成、所属意識の形成に必要な行事を行った。

5月：家族に感謝の日 6月2月：交通安全教室 7月：歯科検診 8月：七夕
 9月2月：歯磨き指導 10月：ハロウィンイベント 12月：クリスマス会
 1月：新年会 2月：バレンタイン 3月：地域に感謝の日

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った

日付	プログラム名	人数	内容
職員会議時	理念の継承	全員	理念と6つの願いを唱和
2月	サービスの質の向上	全員	サービス提供指針熟読

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った

『報告、連絡、相談』を日常的に行い、風通しの良いチームを形成する事で、職員全員が働きやすい環境作りに努めた。お互いの意見を否定的態度で聞くのではなく、受容し、お互いの合意形成のもと、決定していくよう、日常や会議時において伝えた。

3 研修計画

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	毎月	会議での研修報告	全員	10月	サポカレ高齢知的③	7
	6月	サポカレ虐待防止	7	11月	サポカレ身体拘束	7
	8月	サポカレ高齢知的①	7	12月	サポカレ障害者虐待	7
	9月	サポカレ高齢知的②	7	1月	サポカレ記録書き方	7
法人研修	4/2	法人全体研修	2	10/14	防災研修	1
		主任等研修	1			1
施設外研修	4/21	感染症（初級）	1	2月	虐待防止マネージャー	1
	10/13	感染症（中級）	1	3月	救急講座	2

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
3/15	地域に感謝の日	職員1名、利用者14名
毎月	地域清掃（草取り）	職員、利用者

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
毎月	ふれあいお便り配布	
年4回	保護者会	職員2名、保護者10名

G 苦情について対策

苦情なし。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

事故	2	ヒヤリ	2	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：服薬関係1件 車両事故1件

ヒヤリ：切り傷1件 はさむ1件

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

毎月火災・地震避難訓練を実施した。年2回消防署へ事前申請し、全体総合訓練を行った。

また、地域の防災の日にワークセンターふれあいとして初めて参加した。

J 環境整備に関する計画

4/18 作業室外装四隅塗装工事 5/27 館内清掃工事 11/30, 1/27 館内エアコン清掃

3/10 リサイクルボックス修繕

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 収支報告（事業活動）

科目	2022 年度決算	2021 年度決算	増減
サービス活動収益計	25,315,957	23,598,539	1,717,418
（内、就労支援事業収益計）	2,337,310	2,472,975	△87,161
サービス活動費用計	24,112,137	23,553,038	559,099
（内、就労支援事業費用計）	2,338,112	2,474,374	△136,262
経常増減差額	1,204,429	60,914	1,143,515
特別増減差額	△1,000,000	△6,601	△993,399
当期活動増減差額	204,429	54,313	150,116

2 借入金償還計画

なし

L 主務官庁との関連

4月：変更届・体制届提出 5月：体制届提出

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア：年間を通して3名の方がボランティア参加して下さった。

N その他

創立29年（県単独事業17年、牧ノ原やまばと学園運営12年）

2022（令和4）年度事業報告

就労継続支援 B 型事業所
ワークセンターやまぼと

A 2022 年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の 2022 年度事業計画に関する報告

自主製品の販路拡大に関しては、当初移動販売を計画していたが、コロナの状況や施設職員の異動等があり、実現する事ができなかった。販路を拡大するのではなく、イベントでの注文を増やす計画に切り替え、バレンタインデーでの新商品販売やジャム作製によるパンの新商品販売に努めた。売れ行きは好調であり、今後も新作の開発等を進めていく。自主製品のマニュアル作成は大まかな部分は作成したが、業務の標準化を最終到着点としているため、個別支援計画との統合は出来ていない。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

会議の際に、サービス提供指針、服務心得を唱和した。理念の浸透、理解を深め権利擁護の視点から支援方針について全体で話し合い情報の共有を図った。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

職員の研修に関しては、D-3 を参照のこと、外部研修はあまり参加する事ができなかった。そのため、施設内研修としてサポカレを活用した研修を組んだり、職員が講師となって研修を行ったりした。

地域との交流に関しては、サロンの実施、地域イベントへの参加を積極的に行った。また「里山の会」の方を招いて餅つきを実施した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績（2023 年 3 月 31 日現在）

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20 人	19 人	-1	250 日	4479 人	17.9 人	89.6%

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3	4	1	0	10
常勤換算	0.5	1	2.25	3.6	0.4	0	7.75
前月増減	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間は 80.8 時間で最長残業時間は 12.5 時間となっている。年末のお歳暮、クリスマス用のお菓子の準備等で多くの時間を要した。有給取得率は 30%となっていて、100%取得とはいかなかった。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

毎月の職員会議にて、利用者に関する情報提供や施設環境整備等に関する意見交換を行った。

法人の委員会としては編集委員会（1名）、研修委員会（1名）、苦情解決委員会（1名）、防災委員会（1名）、事故報告委員会（1名）参加した。

外部委員会としては牧之原市の自立支援 NW への参加と圏域就労部会に参加した。

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

通常の仕事内容としては、受託（解体作業、組み立て作業、シュレッター）を全体で取り組み、自主製品（パン・焼き菓子）は成型等に利用者 8 名、職員 2 名で行っているが、箱折り、袋詰め、シーラー等は全体で取り組んでいる。

行事はコロナ過という事もあり、少なくなってきたが感染症対策を行う事で日帰り旅行に行く事ができた。他に地域との交流でみかん狩り（地元のミカン農家の方に依頼）、餅つき（地元の方に依頼）等を行った。その他としてはクラブ活動、ハイキング、カラオケ、お楽しみ給食を行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

毎月の会議にて「サービス提供指針」「服務心得」を読み合わせ、全体で共有した。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
職員会議の際にサポカレで自閉症や記録の書き方、チームワーク形成の仕方等の勉強会を行った。また、12月より「生産性の向上」を目指すために、自主製品、環境整備の2グループに分かれてワークセンターやまばとの3M（ムリ・ムラ・ムダ）を洗い出し、環境を変えたり自主製品のコストを削減するための話し合いをしたりと職員が積極的に話し合う場を作り、改革を行った。

3 研修報告

法人研修としては、施設長研修（年6回）、主任等研修（年6回）、新人職員研修（1回）、財務管理研修（2回）に参加した。外部研修としては、サビ管初任者研修や県知協の研修に参加した。（業務定着、コンプライアンス、接遇・マナー）また、志太榛原圏域の就労部門でヤングキャリアミーティング、オールスタッフミーティング、サビ管研修に参加した。施設内の研修では、サポカレを活用した生産性の向上、障害特性、記録の書き方、コミュニケーションについて勉強した。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

近くにある「坂部区民センター」のゴミ拾い、ミカン狩り、地域のイベントに参加した。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

毎月1回発行している「やまばとだより」にて、毎月の予定等の情報提供を行った。
年に2回の保護者会の実施や保護者同志の交流を考慮し、ワークセンターやまばと内での行事として納涼会を実施した。

通常の連絡は連絡ノートを利用し、情報の提供・交換を図った。

G 苦情とその対応に関する報告

1件：サブレの注文とお渡し時の数の相違。

お客様は2枚1セット15組を所望したが、受け手（やまばと）は15枚と勘違いしていた。すぐに用意ができ、謝罪する事で了承して頂いた。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故報告としては、2022年度は14件あった。内訳として転倒、怪我、他害等が見られた。ヒヤリハットは3件あり、接触、誤食未遂、送迎時のドア閉めの際の不注意があった。身体拘束はなかった。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

11/25に法人全体の防災訓練を実施する。施設防災訓練はコロナが流行していることも考慮し、中止する事が多かった。実施の際は坂部区民センターに移動し待機する形をとっていた。静岡県のも未曾有の大雨の際は、その後に点検をしたが大きな損傷はなかった。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022年度	2021年度	増減
サービス活動収益計	45,894,462	48,463,153	△2,568,691
（内、就労支援事業収益計）	7,539,278	8,558,363	△1,019,085
サービス活動費用計	41,543,624	39,122,504	2,421,120
（内、就労支援事業費用計）	7,540,931	8,573,684	△1,032,753
経常増減差額	4,357,681	9,384,058	△5,026,377
特別増減差額	△3,500,001	△3,000,003	△499,998
当期活動増減差額	857,680	6,384,055	△5,526,375

※サービス活動収益の内、寄付金収益（0）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

4/6：体制届提出 6/6：変更届の提出（サビ管の名義変更・運営規程の職員人数の変更）

M 実習生やボランティアに関する報告

特別支援学校生徒の見学が1名、実習が計5名、特別支援学校教員施設見学4名、清流館高校実習4名、利用希望者の見学1名・実習1名、元職員のボランティア1名

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- ・ 月次監査にて受託の収入が減っていることを指摘される。
- ・ コロナ感染者に対してのゾーニングをどのようにしていくかを話し合った。

2022（令和4）年度事業報告

就労継続支援B型
ワークセンターさくら

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について

一人一人のご利用者について丁寧なアセスメントを実施し、その結果に基づいた支援が行われた。ご利用者の作業能力向上と共に職員間においても互いに意見を出し合い、協力して目標に向かって邁進した一年であった。
- 2 事業報告
 - (1) 一人一人の作業の幅を広げ、能力の向上を図る。
作業工程の細分化と作業能力評価表に基づいた作業の提供を行った。11月より作業工程マニュアルの見直しを図り、未経験者は新しい作業への挑戦を行うことができた。ご利用者の能力向上へとつながり、工賃が昨年度比4,000円アップした。
 - (2) サービスの質の向上を目指す。
毎月のケース会議にて、個別支援計画の実施状況の確認と見直しを図った。主任等研修では二名の主任が事例検討会に参加し、様々な視点からの考察を学び支援の幅を広げた。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
 - (1) ご利用者が自信や喜びを持ち、自分らしい生活を送る。
サービス提供指針に基づく支援の実践について、ケース会等で振り返りを行った。
 - (2) 働くことを通じて能力を引出し、自立した日常生活を営むことができるよう支援。
ご利用者一人一人の強みに着目し、それに応じた作業の提供を図った。
作業能力が向上し、日常生活での自信につながっている。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) 職員育成について
職員一人一人の目標に向けて、法人が主催した様々な研修や外部研修へ参加した。短時間パート職員には計画的にサポーターズカレッジ視聴の機会を与え、スキルアップを図った。
 - (2) 地域とのつながりを大切にする。
コロナ感染状況を見ながら、夏まつり・クリスマス会に保護者を招待した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	20	-2	248	4184	16.8	84.4

※あつまリーナ館内利用者コロナ感染により12/26・27・28（3日間）閉館

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	3	1		8
常勤換算	0.2	1.0	1.7	2.3	0.5		5.7
計画との差	0	0	0	0	0		0

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	9	最高残業時間	4	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	75.0
-------	---	--------	---	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	施設管理者会	1	月2回	事故報告委員会	1
〃	作業就労部会	1	〃	防災委員会	1
〃	(あ) 全体会議	4	6/22	吉田町事業所連絡会	1
〃	(あ) 防災会議	1	7/14	吉田特別支援学校説明会	1
〃	(あ) 感染症委員会	1	11/4	吉田特支保護者学習会	1
月2回	経営会議	1	2/22	吉田町福祉推進委員会	1
	苦情解決委員会	1			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

4/22 焼津漁港見学（社会見学） 6/24 染色体験（創作活動）
 7/7 七夕飾り（季節行事） 8/5 あつまリーナ夏まつり（館内施設・保護者交流行事）
 11/30 退所者送別会 12/19 あつまリーナクリスマス会（館内施設・保護者交流行事）
 1/4 仕事始め、新年会（年中行事） 3/15 ボーリング大会（仲間づくり）

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	ケース会	6	利用者個別支援計画の検討、情報共有
毎月	職員会議	6	管理者会報告、利用者及び作業状況確認他

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

「あつまリーナ館内職員の誕生日を共に祝った」
 メッセージボードにお祝いの言葉を掲示し、ちよっぴりプレゼントを贈呈した。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	10～2月、各6回	サポーターズカレッジ 初任者向け基本講座 (パート職員)	3			
法人研修	4/2	新年度研修	4	6/17	新入職員研修	1
	11/2	セルフリーダーシップ研修	1	6～1	主任等研修（6回）	2
	10/14	防災研修	1	6～2	管理者研修（9回）	1
施設外研修	7/6	感染症（初級）研修	1	11/11	感染症（中級）講座	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

なし

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
毎月	次月の行事予定配布	各家庭
5月	保護者会	職員3、保護者12
12月	あつまリーナクリスマス会招待	近隣住民、保護者、利用者、職員

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	8	ヒヤリ	7	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：利用者間のトラブル（他利用者の会話に反応し蹴る）

ヒヤリ：作業室に隠してあったカッターを持ち出す

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

「あつまりーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。洪水・津波を想定した訓練では、第一避難所である「はあとふる」2階への避難訓練に加え、広域避難施設「吉田町体育館」への避難訓練も実施した。
各種災害の最新ハザードマップ及び避難確保計画を備え、避難経路の確認を行った。法人訓練では、月1回の携帯電話への安否コールの実施、年1回の法人全体訓練を行った。感染症対策として、感染症委員会を設置、委員は研修を受講し、それに基づいた館内設備や備蓄について検証を行った。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検（年4回）、植木剪定（随時）、害虫駆除（毎月）、消防設備点検（年2回）
館内清掃（年2回）、冷暖房装置点検（年2回）、自動ドア点検（年2回）

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	38,384,490	39,384,375	△999,885
（内、就労支援事業収益）	3,462,960	3,030,365	432,595
サービス活動費用計	35,113,209	31,364,907	3,748,302
（内、就労支援事業費用）	3,462,960	3,030,614	432,346
経常増減差額	3,305,696	8,123,833	△4,818,137
特別増減差額	△2,000,000	△3,000,000	1,000,000
当期活動増減差額	1,305,695	5,123,831	△3,818,136

※サービス活動収益の内、寄付金収益（347,795）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

・吉田町関係

4/1、2022年度 管理に関する年度協定を締結。
5/25、2021年度事業報告書及び決算報告書を提出。
7/25、運営委員会にて2021年度事業報告及び2022年度事業計画・予算を説明した。
12/26～28日、館内コロナ感染クラスター発生により臨時休館を報告。
3/9、備品調査

M 実習生やボランティアに関する報告

5/6 常葉大学保育学科4年生1名、オリエンテーション
5/23～6/3 同学生、実習（6/24、同学生創作活動ボランティア）
7/11～15 清流館高校1年生4名、介護実習
12/6 吉田特別支援学校中学部1年生徒7名・先生4名 見学
1/23～27 吉田特別支援学校高等部1年生2名実習
1/30 吉田特別支援学校中学部2年生徒7名・先生4名 見学

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

5/4 会計監査、5/6 業務監査 指摘事項なし

創立32年（県単独事業28年、牧ノ原やまばと学園14年）

2022（令和4）年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンターマーガレット

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について（総括）
「本当の気持ち」に着目し、地域の中で安心して暮らせるサービスの提供に努めた。
- 2 事業報告
 - (1) プログラムの内容を再検討し、達成感や喜びを感じられるような活動の充実を図る。
4月よりケース会議以外にプログラム検討会議を実施。職員は生産活動班・生活活動班に分かれ、プログラム内容の検討を行った。
 - (2) 活動環境と所有品の整理、所有物の仕分けや整理を行い、環境整備を図る。
活動環境と所有品の整理にては年間スケジュールに沿って実施し環境整備に努めた。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
毎月ケース会議を実施し、ご利用者の気持ちに寄り添った発言の視点到心がけた。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
職員育成について
個々とチームとしての育成 職員が学びたい意識と、組織として学んでほしい課題を個々に提供する。サポーターズカレッジ研修（職員共通3講習）（個人2講習）
チームとしての育成：職員会議にてサービス提供指針の読み合わせ。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	20	-1	247	4940	17.9	89.2
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	4	8	4	4

※コロナ感染により利用率減少。

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	事務員	看護師	その他	合計
実人数	1	1	9	1	1	0	13
常勤換算	0.5	0.5	6.45	0.5	0.1	0	8.05
計画との差	0.4	△0.5	△2 (0.25)				△1(0.25)

※施設長：サビ管兼務 ※生活支援員：兼職員1名異動、パ2名退職、パ1名入職

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	0	最高残業時間	0	有給義務取得率	100	有給休暇取得率	76.8
-------	---	--------	---	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月	あつまりーナ全体会議	正職	事故・ヒヤリ・虐待・苦情、利用者状況
毎月	あつまりーナ防災委員会	委員	防災訓練の振り返り、次回訓練の計画等
毎月	あつまりーナ感染症委員会	委員	感染対策の動向・対応・対策 研修報告
毎月	職員会議	全員	行事計画、ケース会報告・ヒヤリ事故報告等
毎月	ケース会議	全員	利用者ケース確認事項・検討事項
毎月	事務連絡会	秋田	会計・労務に関する情報共有
毎月	生活ケア部会	河原崎	利用者・職員・事故・ヒヤリ・その他報告等
4/27 10/28	法人苦情解決委員会	河原崎	各事業所の苦情に関する検討
5/25 11/24	法人事故防止委員会	河原崎	各事業所の事故・ヒヤリに関する検討
年間計画による	法人研修委員会	河原崎	法人の研修に対する検討（特に新年度研修）
7/25	吉田町（あ）運営委員会	河原崎	事業報告・事業計画及び予算説明

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・月の定期的な活動として音楽・書道・クラブ・アート・誕生会・お楽しみ外出の提供に努めた。お楽しみ外出は、リフレッシュに繋がる活動となった。あつまリーナの特徴を活かし、ワークセンターさくらの就労支援体験も継続。大きなイベントとしてコロナ渦ではあるが「あつまリーナ夏祭り」「クリスマス会」も保護者・ボラも参加し開催した。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	サービス提供指針	全職員	職員会議にて第1章から読み合わせと理解

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 「アイデアを否定しない」「アイデアも受け入れる」「質よりも量」「組み合わせと改善」を意識していく。〈ブレインストーミングを意識して〉
- (2) あつまリーナ職員の誕生日を共に祝う。メッセージボードの設置、プレゼントを贈る。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	毎月	サポカレ研修	2	年3回	サポカレ研修3項目受講	11
法人研修	6~2月 年9回	管理者研修	1	6~1月 年6回	主任等研修	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

コロナ感染状況の悪化により、予定されていた交流イベント等は中止となる。あつまリーナ館内への立ち入りを制限せざるを得なかった為、交流はなかった。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
毎月	行事予定 (次月の予定・報告・連絡)	各家庭配布
毎月	マーガレットだより (活動状況の記事・写真入り)	各家庭配布
8/5	あつまリーナ夏祭り	利用者・職員
12/16	あつまリーナクリスマス会	利用者・職員・保護者(5) 清流館高校ボラ (4)

G 苦情とその対応に関する報告

苦情：1件（前年度）・・・濃厚接触者がいたのになぜ受け入れたのか。

ご利用者帰宅後、他利用者コロナ感染を確認。6日後にコロナ陽性になられたご利用者家族より、濃厚接触者がいたのになぜ受け入れをしたとの苦情あり。対応経過や今後についての感染対策等を説明。詳しく経過を説明したことでご理解を得られた。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	8	ヒヤリ	15	虐待	0	身体拘束	373
----	---	-----	----	----	---	------	-----

※事故：他害(3) 転倒(2) 外傷(1) 物損(1) ベルト外れ(1)

※ヒヤリ：よろける(6) 手が触れる(3) ベルト外れ(2) 転倒(2)
挟まる(1) 忘れ物(1)

※身体拘束：同意書あり 拘りによる人や物への突進。手や体で止める(136)
同意書あり 車椅子利用で座位が保てない。ベルト使用(237)

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・「あつまリーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。洪水・津波を想定した訓練では、第一避難所である「はあとふる」2階への避難訓練に加え、初の試みとして外出時「避難タワー」への訓練も実施した。各種災害の最新ハザードマップ及び避難確保計画の確認を行った。

感染症対策として、「感染症マニュアル」に則り、毎月感染症委員会を開催し、基礎知識や

介護等場面での課題や取り組み等の検討、改善等を行った。

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う臨時休業。

12月23日利用者にコロナウイルス感染症陽性者判明。

ご利用者の安全・安心と職員の健康を第一に考え12月26日～12月28日（3日間）休業期間として対応。12月26日県福祉指導課・吉田町福祉課へ報告。

感染者：利用者9名・職員2名が感染。冬季休業明けより事業再開。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など） なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	44,978,340	42,486,368	2,491,972
サービス活動費用計	36,885,784	37,471,765	△585,981
経常増減差額	8,105,094	5,055,863	3,049,231
特別増減差額	3,000,002	3,000,003	△1
当期活動増減差額	5,105,092	2,055,863	3,049,232

※サービス活動収益の内、寄付金収益（49,830円）

2 借入金償還報告 なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

吉田町関係

2022年7月25日、吉田町運営委員会実施。

2021年度事業報告及び2022年度事業計画・予算説明。

2022年12月26日、館内コロナ感染クラスター発生により臨時休館を報告。

2023年3月9日、備品調査。

M 実習生やボランティアに関する報告

吉田特別支援学校からの実習受け入れについての希望はなかった。

静岡県立清流館高等学校1年生4名を10月に介護実習を実施。実習生4名がボランティアとして12月のクリスマス会に参加。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2022年5月4日 会計監査 5月6日 業務監査 指摘事項なし。

創立17年（町単独 地域活動支援センター5年・牧ノ原やまばと学園12年）

2022（令和4）年度事業報告

地域活動支援センター
レタスクラブ

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の目標と事業計画

- (1) ご利用者が安心して利用できる環境を用意する。
いつでも安心して利用できるように明るい挨拶を心掛けた。
限られた空間内、コーナーや寝具等を工夫し静かになれる場所を作った。
- (2) 人との関わりを広げていくためにグループワーク等を通して学ぶ。
毎日のプログラムは決めているが、過ごし方は様々である。
仕事のストレスや自身の病気について言い合える場であり、自然なグループワークが形成されていた。
- (3) 関係機関と連携しながら進めて行く。
ご利用者の体調や行動に対して、関係機関と連携をとりながら対応にあたった。
(受診、金銭問題、ヘルパー利用等)

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

- (1) ご利用者が主体的に生きていくために、人権を尊重し自発的な活動を支援する。
サービス提供指針に基づく支援を実践した。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

- (1) 職員育成・チームワーク
職員会議では互いの支援について良いところを認め合い、思いを共有した。
管理者研修では「福祉人材に対する基本姿勢」を学んだ。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
—	24	—	239	1289	5.3	—

※あつまりーナ館内利用者コロナ感染により 12/26・27・28（3日間）閉館

2 職員状況

	施設長	生活 支援員	事務員	その他	合計
実人数	1	3	1	0	5
常勤換算		2.4			2.4
計画との差	0	0	0	0	0

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	0	最高残業時間	0	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	96.9
-------	---	--------	---	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	施設管理者会	1	月2回	事故報告委員会	1
〃	作業就労部会	1	〃	防災委員会	1
〃	(あ) 全体会議	1	6/27	ピアワーキング	1
〃	(あ) 防災会議	1	8/29	圏域ピアサポWC	1
〃	(あ) 感染症委員会	1	10/7	圏域ピア交流会	1
月2回	経営会議	1	2/22	吉田町福祉推進委員会	1

年2回	苦情解決委員会	1			
-----	---------	---	--	--	--

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

毎月のプログラムは皆の意見を取り入れて作った。
 季節の行事、ランチづくり、畑作業、卓球、脳トレ、今月の作品づくり、映画鑑賞
 外出（喫茶店・かき氷・ラーメン）
 あつまリーナ合同行事への参加（夏まつり・クリスマス会・ハロウィン）

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
毎月	職員会議	4	管理者会報告、利用者状況、次月の計画

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

「あつまリーナ館内職員の誕生日を共に祝った」
 メッセージボードにお祝いの言葉を掲示し、ちょっぴりプレゼントを贈呈した。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
法人研修	4/2	新年度研修	2	6/17	新入職員研修	1
	10/14	防災研修	1	6~2	管理者研修（9回）	1
施設外研修	12/8	ピアサポーター基本研修				

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

湯日川土手のゴミ拾い、吉田海岸清掃
 アクリルたわしを作成し吉田町福祉課窓口で無料配布した。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	次月の行事予定配布	各家庭

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	1	ヒヤリ	2	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：敷地内においてリストカットを図る。
 ヒヤリ：室内に保管してあったハサミを持ち出し情緒不安定な状態。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

「あつまリーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。洪水・津波を想定した訓練では、第一避難所である「はあとふる」2階への避難訓練に加え、広域避難施設「吉田町体育館」への避難訓練も実施した。
 各種災害の最新ハザードマップ及び避難確保計画を備え、避難経路の確認を行った。
 法人訓練では、月1回の携帯電話への安否コールの実施、年1回の法人全体訓練を行った。
 感染症対策として、感染症委員会を設置、委員は研修を受講し、それに基づいた館内設備や備蓄について検証を行った。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検（年4回）、植木剪定（随時）、害虫駆除（毎月）、消防設備点検（年2回）
 館内清掃（年2回）、冷暖房装置点検（年2回）、自動ドア点検（年2回）

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	5,347,738	5,357,715	△9,977
サービス活動費用計	5,588,031	5,554,990	33,041
経常増減差額	△240,285	△197,257	△43,028
特別増減差額	0	0	0
当期活動増減差額	△240,285	△197,257	△43,028

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 50,000 ）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

・吉田町関係

4/1、2022年度 業務委託契約を締結。

5/25、2021年度事業報告書及び決算報告書を提出。

7/25、運営委員会にて2021年度事業報告及び2022年度事業計画・予算を説明した。

12/26～28日、館内コロナ感染クラスター発生により臨時休館を報告。

3/9、備品調査

M 実習生やボランティアに関する報告

井部博美さん（星いきいき財団）、殿村隆夫さん（元職員）

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

5/4 会計監査、5/6 業務監査 指摘事項なし

創立12年6ヶ月

2022（令和4）年度 事業報告

相談支援事業
生活支援センターやまばと

A 2022 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の 2022 年度事業計画に関する報告（総括）
 - (1) 地域生活支援拠点等における事業所の役割を精査し取り組んでいくことについて
24 時間電話体制は継続して行うことが出来ている。運営規定を変更し、地域生活支援拠点等の相談支援としての取り組みは 2023 年度に行っていく。地域生活支援拠点への締結はしていないが、実際の支援は行っている。
 - (2) 質の向上と事業展開を見据えた職員育成の継続をしていくことについて
センター内事例検討、外部講師 OJT は継続して行い、相談支援姿勢について学ぶ機会を設けることが出来ている。2022 年度末の退職者 2 名となり、人材確保・ケース引継ぎを優先とし事業展開を検討する事も 2023 年度に持ち越している。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
『常に利用者の立場に立ったサービスを提供するために取り組んでいく』為に、定期的な事例検討、外部事業所との本人中心支援の学びを重点的に行った。
 - (1) 委託相談支援事業
行政と協働し、協議会の運営・ケースワークを行いながら、役割について精査している。
 - (2) 計画相談支援事業(サービス等利用計画作成)
事例検討等を通し、ご本人中心となる支援に取り組んでいる。権利擁護の視点についても、その都度共有し相談支援の立場からの発言を心掛けた。人事体制により引継ぎを優先し、業務量精査については持ち越し課題となっている。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告(人材確保・職員育成・地域貢献)
地域の実状を法人と共有する機会を、施設管理者会・生活ケア部会等で提起をしている。入所施設の地域移行について意見交換をする機会を持たた。
職員育成について、事例検討、外部講師 OJT 等の継続をしている。必要に応じて、現任研修履修者の同行での育成を行っている。
地域貢献について、計画相談支援給付に関わらない基本相談を必要があれば重要視し取り組んでいる。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

①特定相談支援事業実績(作成件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画	31	23	28	30	27	30	28	21	20	32	25	23	319
モニタリング	72	83	97	79	71	75	83	67	92	74	75	88	915
計	103	106	125	109	98	105	111	88	112	106	100	111	1,274

*前年度比+40 件

②委託相談支援事業実績(支援件数)

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別会議	関係機関	その他	計
牧之原市	105	46	48	458	2	29	1244	215	2,147
島田市	70	88	40	366	388	86	1199	143	2,380

2 職員状況 (人)

	施設長 (相談支援専門員)	相談支援専門員 (計画専任)	相談支援専門員 (兼務)	事務 員	合計
実人数	1	4	3	1	9
常勤換算	委 0.85 計画 0.15	4.0	委託 2.4 計画 0.6	0.3	8.3

専門職：社会福祉士 6名 精神保健福祉士 2名

※委託相談 牧之原市：2人工 島田市：1.25人工 ※特定相談 4.7人工

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	861.9時間	最高残業時間	177.3時間	有給休暇取得率	41.4%
-------	---------	--------	---------	---------	-------

残業時間一人年平均 71.8時間、月平均 12.0時間

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内 容
毎週水曜	センター定例会	全員	ヒヤリ・事故報告 事例共有・検討等
随時	法人内会議	各担当	施設管理者会、苦情解決委員会、ヒヤリ事故委員会、防災委員会、労務委員会
毎月	牧之原市協議会 関係	田村・鈴木 伊藤(石神)	地域実状に応じた体制整備について協議 協議会・各部会の企画運営
毎月	島田市協議会 関係	田村・北 川(大石)	地域実状に応じた体制整備について協議 協議会・各部会の企画運営
毎月	吉田町相談支援 部会	田平・ 太田	相談支援部会に参加。地域課題等を提起。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

地域啓発交流会を企画したが、コロナ感染症状況や、人事体制による引継ぎ業務を優先とする為、実現しなかった。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎朝	理念の継承	全員	朝礼でやまぼと 50年記念誌の読み合わせ
4、2月	実践計画書説明・評価	全員	今年度計画書に基づく事業運営状況の説明・進捗状況の確認及び評価
12月頃 随時	自己評価・施設長面談	全員	

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

お互いストレングス視点で学び合いねぎらう時や交流会の機会をもった。

朝礼時にケース相談に時間を持つこと等、気軽に相談できる環境を継続している。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修		SV研修	8	年8回	事業所事例検討	3~8
法人研修	4月	新年度研修	8		施設長・主任研修	2
施設外 研修	年5 回	メダル配信研修	8	1月 2月	相談支援従事者主任 研修	1
	11月	更生支援Co研修	1	11月	強度行動障害研修	1
	1月	発達障害研修	1	1月	虐待防止(相談窓口)	2
	8月 9月	県重症児者医ケ ア児等Co	1	10月 11月	医療的ケア当事者説 明会	2

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

地域啓発交流会を企画したが、コロナ感染症状況により、実現しなかった。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

特定相談（計画相談）委託相談で常に家族と連携・連絡をしている。
地域啓発交流会を企画したが、実現しなかった。

G 苦情とその対応に関する報告

苦情 1件

相談員の対応、途中退席に対する苦情を受け、余裕を持ち行動する等の改善案を検討した。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	3	ヒヤリ	3	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

センター内でのヒヤリ苦情事故等の検証を行っている。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

防災訓練での反省点より、訪問時の動きの確認、公用車内備品を整備する。
手洗い・手指消毒・うがい・マスク着用など感染症対策をし、自己予防に努めた。
県・市町・法人・支援センター感染症BCP等、感染対策を行い在宅支援に取り組んだ。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）

寄付で頂いた公用車を廃車にし、ミライースをリースで契約をした。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2021年度決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	40,996,200	41,584,150	587,950
サービス活動費用計	42,162,945	43,818,812	1,655,867
経常増減差額	△1,166,604	2,146,461	△979,857
特別増減差額	△2	1	△2
当期活動増減差額	△1,166,606	2,146,460	△979,854

※サービス活動収益の内、寄付金収益（0円）

2 借入金償還報告 特になし

L 主務官庁に関連した報告

常に委託相談支援事業・計画相談支援事業共、市町と連携して行っている。

M 実習生やボランティアに関する報告

垂穂寮 社会福祉士実習生3名期間中の受け入れをする。
社会福祉士実習指導者研修 履修者2名

N その他

職員に新型コロナウイルス感染者が発生したが、利用者様からの感染も含めて、業務内感染はなく、事業運営に支障なく対応が出来た。

2022（令和4）年度 事業報告

介護老人福祉施設
短期入所生活介護
介護予防短期入居生活介護
特別養護老人ホーム 聖ルカホーム
聖ルカショートステイ

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2022年度事業計画に関する報告（総括）

施設目標である「ご利用者、ご家族、職員に笑顔の花を咲かせたい」の実現のため、日々のケアに取り組むことができた。コロナ禍での行動制限や、ご家族との面会が叶わない期間が多く不自由な生活となったが、利用者の希望に沿った行事がたくさん開催できた。今年度も、家族を交えた行事が行えず施設と家族との関係づくりに苦慮した。毎月の“聖ルカだより”の充実、普段から電話等で体調変化などの報告する取り組みをした。施設内感染が2回、家族の感染による自宅待機など多数発生し、幸いにも重篤な状況にはならなかったものの、度重なる勤務変更や連続勤務など大きなストレスの中での就業となった。全職員が協力し合えたことは大変大きなことです。

職員のレベルアップのために、Web研修などに参加。また、ユニットリーダー研修や介護福祉士実習担当者研修にも参加し職員育成ができた。また、ケアの基本を学び深めるための4つの勉強会を開催しそれぞれの課題を見つけ取り組めたことは有意義であった。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

委員会や会議等で「サービス提供指針」の唱和を必ず行った。また、セルフチェックの実施により自分自身を振り返った。朝の礼拝が中止中であるため、聖書の学びはできていない。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

職員の育成については、積極的に研修参加が出来た。研修内容を他の職員に伝えるために報告書の作成回覧と報告会を開催した。

職場環境の整備については、感染防止の観点からも清掃消毒を徹底した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

(1) 長期入所（定員70名）

2023年3月31日現在

現員数	70名	平均介護度	4.10
最年長	103歳	介護1	1名
最年少	63歳	介護2	0名
平均年齢	85.2歳	介護3	19名
稼働率	98.6%	介護4	21名
入居者数	15	介護5	29名
退去者数	14	待機者数	38名

(2) 短期入居者（定員10名）

実利用者数	延利用者数	年間平均稼働率
453名	2,834名	77.6%

2 職員状況

役職・職務	実人員	常勤換算	備考
施設長	1名	1.0	さふらん管理者兼務
事務長	1名	1.0	高齢者事業部

副施設長	(2名)	—	看護主任、事務主任兼務
相談員・ケアマネ	4名	2.73	
介護員	49名	41.963	育休1名、EPA生2名
看護師	5名	4.7	
管理栄養士	1名	1.0	グレイス兼務
事務員	4名	1.725	真菜、さふらん、オリーブ、ぶどうの木兼務
介護補助員	4名	1.36	
宿直員	3名	1.0	
清掃員	2名	0.23	さふらん兼務
嘱託医師	1名	0.1	

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	6,921時間00分	有給休暇取得率	57.8%
-------	------------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催回数	種類	参加者	内容
12回	経営会議	施設長・副施設長・主任・事務長	施設運営全般、職員教育、全体行事、課題解決等
6回	ケア向上委員会	経営会議メンバー・エグゼクティブ・相談員・栄養士	経営会議の決定事項の周知、ユニットの課題や現状報告・業務改善すべき事項・ユニットケアの推進・看取りケア等
2回	事故防止検討委員会	同上	事故・ヒヤリの検討、啓発、研修
2回	虐待防止検討委員会	同上	虐待防止に関する事、研修
5回	身体的拘束適正化委員会	同上	身体拘束に関する事、研修
8回	感染症等対策委員会	同上	感染症、喀痰吸引、口腔ケアに関する事
11回	職員会議	全職員	情報共有・研修等
12回	衛生委員会	産業医・衛生管理者・施設長・他	職員の安全衛生、健康管理、ストレスチェック等
毎月	ユニット会議	各ユニット職員・他職種代表者	ご利用者の処遇検討、業務改善、研修等
毎月	メンテナンス会議	各部署代表者	施設設備、備品、介護用品の整備
毎月	防災対策会議	各部署代表者	防災訓練等の計画・実施
5回	優先入所検討会	外部有識者・施設長・その他職員	入所申込者(待機者)の入居順位を検討し決定する

C 利用者の喜びのために工夫したこと

行事	内容
お茶会開催	参加者の好みの飲み物やお菓子を用意し座談会を開催
展示会への参加	趣味で作成した作品を展示会に出品
花火大会	夏の夜に手持ち花火や、打ち上げ花火を楽しんだ
フラワーアレンジメントコンテスト	ご利用者と職員が協力して作成しユニット対抗のコンテスト
外出	蓮華寺公園、スターバックス、吉田公園、空港、ばらの丘公園、マクドナルド等へ出かけた
キッチンカー	玄関へキッチンカーが来所されさつま芋料理を楽しんだ
ご利用者の夢を叶える	・看取り期の方の自宅への一時外出を他職種で支援 ・テイクアウト料理を食べたい ・宝くじを買いに行く
稲荷寿司パーティー	稲荷寿司を作り、みんなで昼食
移動販売車での買い物	移動スーパーを依頼し買い物を楽しむ

ユニット調理	お寿司作り、お菓子作り、コロッケ 等調理
全体行事	敬老会、クリスマス会

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
各会議	理念の継承	全 員	サービス提供指針の読み合わせ
各会議	職場の倫理	全 員	サービス提供指針の読み合わせ
毎 月	目標管理シート	全 員	施設目標、部署目標、個人目標の達成度を毎月振り返り次月に繋げる
	ケア勉強会	介護員	食事、排泄、入浴に学び、課題を見つけ取り組む
	認知症勉強会	介護員	認知症について学び、
	ユニットケア勉強会	介護員	ユニットケアの基本を学び施設課題に取り組む
	看取りケア勉強会	介護員・看護師	看取りケアについて学び見直しをする

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

①職員会や各種会議では、役職や身分に関わらず誰もが発言できるように“会議の目的”を毎回確認し合った。また、小グループでの話し合いの機会を多く設けた。

②4つの勉強会をユニットや職種を超え開催し、ケアの方向性について共有できた。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	4/28	虐待と身体拘束	34	5/26	事故防止	35
	6/17	採用時研修	2	6/23	看取りケア	35
	6/23	薬との上手なつきあい方	35	7/28	感染予防について	33
	7/28	事故防止	33	7/28	記録の書き方	33
	9/22	サービス提供指針	33	9/27	採用時研修	1
	11/24	採用時研修	1	11/28	適切なオムツ選び	23
	11/28	ユニットケア	23	11/28	元気がでる介護	23
	11/28	動きだしは本人から	23	11/28	事故対策	23
	12/15	同性介護	19	1/18	使用時研修	2
	1/26	感染への備え	35	2/27	感染症対策	35
	2/27	ターミナルケア	35	3/23	勉強会の取組み	29
	※ その他、ユニット会議等にてオンライン研修を受講					
法人研修	4/1	新人オリエンテーション	2	4/2	新年度研修	3
	6/17	新入職員研修	5	6/10	主任等研修	3
	7/8	主任等研修	4	8/12	主任等研修	5
	全8回	管理者研修	2	9/30	新人オリエンテーション	4
	11/11	主任等研修	5	12/9	主任等研修	5
	1/13	主任等研修	3	3/17	新任管理者研修	2
施設外研修	5/17 他	介護福祉士実習指導者	3	5/27 他	認知症介護基礎研修	6
	5/19	EPA生担当者研修	1	6/16 他	日本語読解研修	1
	6/28 他	生活支援技術研修	1	6/6	ケアプラン研修	1
	6/8	感染症対策	6	7/28 他	人事・労務管理	1
	9/30	元気が出る介護	4	8/21	食事ケア研修	5
	8/23	動き出しは本人から	2	9/14	高齢者介護の方法	1
	9/30	EPA生交流研修	1	9/29 他	ユニットケア研修	3
	7/12 他	喀痰吸引研修	2	10/13 他	ユニットケア管理者研修	1
	8/22	人事労務研修	1	11/1	施設入所退所事務手続き	5
	11/1 他	口腔ケアについて	11	1/11	介護ロボット	4

	2/21	介護サービス集団指導	6	2/14 他	外国人交流会	2
	2/17	感染対策セミナー	1	2/8	決算実務講座	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
	サロン送迎	職員 2 名
	社会福祉法人減免実施	—
9/4	地域との防災連携について話し合い	職員 5 名、消防団員 5 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月 20 日	聖ルカだよりの発行	職員全員
9/20	ご家族アンケートの実施	相談員

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
9/19	利用者家族	ショートステイご利用者が帰宅時、他の方のマスクを着用していた。持参していたマスクがあまり使われていないが、毎日新しくしてくれているのか。	相談員
9/22	利用者家族	緊急時連絡先を変更してあるがその情報が徹底されていない。施設からの説明と、家族が把握している状況と違う。	施設長 副施設長 相談員
11/15	利用者家族	面会予約の際の職員との会話で、とても冷たさを感じ面会に行ってはいけないように感じた。	施設長

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	191	ヒヤリ	134	虐待	0	身体拘束	0
----	-----	-----	-----	----	---	------	---

行政報告 14 件（転倒、転落、チューブ抜去、骨折、誤嚥、不明）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

日付	項目	内 容	参加者
毎月	防災訓練	避難訓練、災害時食事提供訓練、消火訓練	職員全員対象
9/4	地域消防団との連携	聖ルカホーム敷地内及び施設内の状況説明を行い、災害発生時の協力体制を話し合った	職員 5 名 消防団 5 名
12/4	地域防災訓練への参加	災害時被害状況報告訓練に参加	職員 2 名 坂部区

J 環境整備に関する報告（100 万円以上の修繕や改装など）

花壇整備、エアコン清掃

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022 年度決算	2021 年度決算	増 減
サービス活動収益計	410,704,221	399,599,151	11,105,070
サービス活動費用計	423,063,935	407,689,670	15,374,265
経常増減差額	△14,633,579	△10,695,009	△3,938,570
特別増減差額	3,444,104	△2,681,622	6,125,726
当期活動増減差額	△11,189,475	△13,376,631	2,187,156

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 302,680 円 ）

※ショートステイユニットでのコロナ感染があったため、12/22～1/3 をサービス中止を行った。

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014. 10. 7	0. 57545	10 年	静岡銀行	95, 000, 000	24, 538, 500	70, 461, 500
2014. 10. 7	0. 695	30 年	島田掛川信用金庫	427, 500, 000	102, 441, 625	325, 058, 375

L 主務官庁に関連した報告

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 実習 ①静岡福祉医療専門学校（介護実習） 2名 ②常葉大学（栄養士実習） 1名
③静岡福祉大学（介護実習） 2名
- 2 ボランティア ①日赤奉仕団（草取り・福祉用具清掃）5回
②J A女性部どんぐり（ウエス切り）10回

N その他

- ① 今年度 15 名の方が新規に入居され、その内 5 名が障害者施設からの入居であった。職員は今までの生活を考慮し、移行がスムーズにできるよう情報収集に努めた。
- ② インドネシアから、二人目の E P A 生を受け入れる事ができた。介護技術の支援については各ユニットで行っている。また、学習時間の確保のために他の職員の理解と協力がされている。事務員などが、花火大会や地域の祭典への参加、年越しの除夜の鐘の体験、振袖を着てご利用者へ披露するなど日本での生活面をサポートすることができた。
- ③ 今年度初めて、静岡福祉大学からの実習生を受け入れた。受入れ前に、学校の実習課程に対する目的や学生の実習への目標を確認し充実した実習となるよう準備し受け入れることができた。施設職員の学びの機会ともなったと感じている。
- ④ 職員の心身の健康維持のため、健康診断（夜勤者は 2 回）とストレスチェックを実施した。検診結果は産業医が確認し、受診が必要な職員への声掛けをおこなった。
- ⑤ 新型コロナワクチンの接種を希望する利用者と職員が接種しやすいよう、嘱託医の協力のもと聖ルカホームを会場として実施した。

2022（令和4）年度 事業報告

地域密着型介護老人福祉施設
入所者生活介護
特別養護老人ホームグレイス

A 2021年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2022年度事業計画に関する報告（総括）

8月に新型コロナウイルス感染クラスターとなりご利用者4名・職員11名が罹患し、必要最低限のサービス継続も困難を極めたが、法人内外の応援職員派遣等の協力を助けられた。年間通じて行事縮小・面会制限をせざるを得なかったが、感染対策を行いながら各ユニットの工夫により季節を感じていただける企画を実施。ご利用者の状態に配慮しながら居室・面会コーナーでの面会を実施。感染対策マニュアルの見直し・研修・シミュレーションを行い、その後の感染予防に努めた。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

職員会議で牧ノ原やまばと学園50年の歩み「それでも一緒に歩いていく」に触れる機会を持ち、各会議において「サービス提供指針」等の読み合せを行って理念の浸透を図った。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

無資格介護職員の研修受講、中堅職員の資格取得（介護支援専門員・実習指導者・ユニットリーダー・喀痰吸引等）の推奨を行った。生活困窮者への食糧支援・地域サロンでの出張レクの実施で地域とのつながりを深めることが出来た。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
29	29	0（退所12 入所12）	365	10585	28.3	97.5%
年平均		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
		1	0	11	8	9

2 職員状況（3月末）

	施設長	相談員 (ケアマネ)	看護師	介護員	事務員	清掃員	合計
実人数	1	2	3	23	2	1	32
常勤換算	0.75	2.0	2.6	19.03	1.07	0.3	25.75
前年増減	0	+1	-0.2	-0.18	-0.58	+0.15	+0.21

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	3167:33	最高残業時間	449:20	有給休暇取得率	60.2%
-------	---------	--------	--------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
年2回	法)防災委員会	2	研修、事業所BCPの検討、本部BCPとの連携
年2回	法)苦情解決委員会	1	苦情解決経緯・対応等の検討、第3者委員
年2回	法)事故防止委員会	1	集計報告、事故の原因究明と再発防止策、評価
年2回	法)虐待防止委員会	1	事例報告、対策について検討、各施設の取組
月1回	恵の丘職員会議	全員	事業所・各部門の報告・課題検討、内部研修
月1回	経営運営会議	8	恵の丘3事業所全体の運営について検討
月1回	リーダー会議	5	各ユニットの報告・ケアの検討、リーダー研修
月1回	ユニット会議	10	利用者のケース検討、業務改善、ケア情報共有
年6回	感染対策委員会	6-7	感染症及び食中毒まん延防止の為の対策検討

年6回	褥瘡予防・ケア連携委員会	6-7	褥瘡発生のリスクの評価、徐褥瘡発生の予防の対策検討。吸引等医療的ケアの安全な実施の検討
年6回	安全対策委員会（リスク・虐待防止・身体拘束適正化）	6-7	介護事故発生の防止、再発防止の対策の検討 虐待等の発生防止・早期発見・再発防止の検討 身体拘束の適正化のための対策を検討
年6回	運営推進会議	11	施設の運営実績の報告、地域との連携等の検討

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・日課：毎夕、新設内や施設周辺の植物を眺め、職員との会話も楽しみながら散歩
- ・行事：クラスターの影響もあり、秋祭りは未実施。年末のお楽しみ会は全体ではなくユニット毎実施。地域の皆様との餅つきは予定通り開催できた。
- ・ご利用者個々の願いに沿った企画を計画、実施した（施設で収穫した季節の野菜で食事作り、屋外で新茶を味わう、希望先への外出、長寿を祝う会、思い出の場所にドライブ、買い物、新米でおにぎり、たい焼き作り等）

D 職員の喜びや成長のために実践したこと ※今までにない視点となる。意識した活動を

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
年12回	理念の継承	全員	毎月50周年記念誌を活用して法人の理念の学びを深めた。サービス提供指針・就業規則の読み合せ実施。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して下記のことを行った。

- ・併設事業所含め施設内全体で協力し、七夕ロード・クリスマスロード等で四季を表現
- ・各委員会の合同開催で情報の共有
- ・年末のお楽しみ会ではユニット職員の企画に事務職員等も参加し盛り上げ、良いチームワークで行事を行えた。
- ・毎月のユニット会議で職員同士、日頃の感謝を伝えあう時を持った。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内	4/21	新年度研修動画視聴 コロナが教えてくれたこと	18	11/17	倫理及び法令遵守、 高齢者虐待防止①	15
	計3回	新人研修				
	5/26	感染症・食中毒蔓延 熱中症、地震～火災	16	12/15	事故発生防止研修、吸引、 高齢者虐待防止②	17
	6/23	食事ケア ハラスメント	19	1/26	認知症ケア、終末ケア 感染症初動訓練	18
	7/21	感染症初動訓練 看取りケア	23	2/23	緊急時対応②、身体拘束 廃止フォーラム	13
	8/25	感染症発生時対応	11	3/23	業務継続訓練、排泄ケア	12
	9/22	個人情報保護、認知症、 安全対策強化	16	毎月	理学療法士によるポジ ショニング指導	1～2
	10/20	身体拘束、緊急時対応①	17			
法人内	年9回	管理者研修	1	年6回	主任等研修	4
	10/14	防災研修	1	4/1	新人オリエンテーション	2
	年2回	新人オリエンテーション	3	計5回	ケアマネOJT研修	1
外部	4/19	広報力向上講座	1	11/8～	喀痰吸引実習	1
	計4回	実習指導者研修	2	12/6	衛生推進者研修	2
	5/16	感染症初級編	1	1/25	人材採用・定着向上	1
	6/8	高齢者施設感染症対策		1/27	精神疾患の理解	1
	6/16	施設ケアプラン書き方	1	1/27	嚥下調整食の提供	1
	6/24	健康診断の事後措置	2	2/8	アンガーマネジメント	2
	6/25	排泄ケア・認知症ケア	1	2/10	相談員支援力UP講座	1
	10/9	認知症介護基礎研修	1	2/13	リスクマネジメント	11

	計4回	ユニットリーダー研修	1	2/14	生産性向上、ICT導入	1
	10/19	課題整理総括表	1	3/6	ストレスマネジメント	2

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
5/30	生活困窮者への食糧支援	全員
年2回	坂部ふれあいサロンにて遊びリテーション	2名
1年間	社会福祉法人等利用者負担軽減での施設サービス提供	2名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
年6回	運営推進会議（書面会議4回、対面会議2回）	職員、家族・地域・行政代表
年1回	家族アンケートの実施	家族全員
毎月	グレイス便りの発送、利用者様状況個別報告	

G 苦情とその対応に関する報告・・・なし

日付	誰から	内容	対応者

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	52	ヒヤリ	91	虐待	0	身体拘束	1
身体拘束：3/29～3/31の夜間にロンパース使用							

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

防災訓練を9回実施。避難訓練、防災機器・備蓄食品の取り扱い等を実施。
台風15号の際、建築時の想定以上の雨量で中庭の排水が滞ったが被災はなかった。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）・・・なし

K 収支状況、並びに、借入金返済状況

1 収支状況（事業活動）

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	162,003,358	156,411,999	5,591,359
サービス活動費用計	173,536,489	165,364,295	8,172,194
経常増減差額	-11,320,345	-8,887,974	-2,432,371
特別増減差額	15,411,935	30,000	15,381,935
当期活動増減差額	4,091,590	-8,857,974	12,949,564

※サービス活動収益の内、寄付金収益（125,000円）

2 借入金償還報告 なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他）

- ・H29年から休止中であったグレイスショートは人材不足の解消が見込めず、静岡県・牧之原市と協議の上、8月14日付で廃止。
- ・3/7 牧之原市運営指導で利用料についての改善事項があり修正を行った。

M 実習生やボランティアに関する報告

2023年度、法人就職予定の大学生2名の実習受け入れ
利用者との交流ボランティア：1件（里山の会による餅つき・門松の設置）
日赤奉仕団・牧之原市社協等：環境整備（草取り・布バック作り・清拭縫い・車椅子掃除・ウエス作り）

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等） なし

2022（令和4）年度 事業報告

養護老人ホーム
相寿園

A 2022 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2022年度事業計画に関する報告（総括）
「利用者の立場に立ったサービス提供」の活動方針は、まだ不十分な点はあるものの、おおむね職員の意思統一がなされ、具体的な支援に生かされてきた。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
 - (1) 「利用者自身の思いが反映された生活を送ることができるように、意思決定支援に努める」計画に関しては、意思決定支援の研修を受講した職員が、その内容を職員会議で丁寧に説明し、具体的事例で検証をした。言語や動作で意思表示することが困難な利用者の思いを確認する作業は簡単なことではないが、知りたいという職員自身の気持ち（意志）が試される結果となった。
 - (2) 「個別支援計画（ケアプラン）の充実」に関する計画はコロナのクラスターの対応に追われた時期（11月～12月）を除き、おおむね計画通り進み、内容も担当職員が真剣に利用者に向き合った結果がケアプランに表われていた。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
オンライン研修が主流であったため新入職員だけではなく中堅、ベテラン職員にとっても研修のチャンスを得ることができた。また、支援会議や職員会議等の様々な場において、まだまだ不十分ではあるが、忌憚のない話し合いが少しずつできるようになった。

B 利用者と職員の状況報告（実績）

1 利用実績

措置入所定員	3月措置者数	契約入所定員	3月契約者数	延利用者数	月平均	利用率
50	33	5	1	961	31.0	62.0%
介護区分なし	要支援	要介護1～2	要介護3～5	知的障害	身体障害	精神障害
22	1	7	3	1	6	6

2 職員状況

	施設長	副施設長	主任	支援員	生活相談員	看護師	合計
実人数	1	(1)	1	8	1	1	
常勤換算	1	(1)	1	5.94	1.75	1	
	栄養士	事務員	夜勤専門員	宿直補助員			
実人数	1	2	4	4			24
常勤換算	1	1.4	1.72	2.52			17.33

※副施設長は主任を兼務

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	1794.4	最高残業時間	344.6	有給休暇取得率	74.4%
-------	--------	--------	-------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
毎月1回	職員会議	全員	施設管理者会及び高齢者部会報告、法人理念の確認、研修報告等。
毎月1回	支援会議	全員	行事の計画、利用者の支援についての話し合い等。
毎月1回	ケアプラン会議	全員	年1回の利用者個別ケアプラン作成のための検討。
毎月1回	給食・献立会議	栄養士、主任、委託業者等	給食や献立に関するトラブルや問題点、課題の検討。また、食事に関するアンケートの取りまとめと考察。
毎月1回	防災委員会	副施設長、支援員	毎月1回開催する防災訓練（避難訓練）の計画立案。
年6回	感染症予防対策委員会	施設長、主任、看護師等	感染症の予防と対策、新型コロナ感染症の現状確認、ワクチン接種の予定と段取り等の検討。
年6回	事故防止対策委員	施設長、主任、	ヒヤリハット、事故の振り返り及び対策の確認。

	会	看護師等	
年3回及び随時	身体拘束廃止委員会、虐待対応委員会	施設長、主任、看護師等	身体拘束が必要かどうかの検討。虐待防止のチェックリストの実施等。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

- ・「誕生月外出」を実施。誕生月に利用者と担当職員が話し合って外出計画を立て実施するもので、利用者にとって大変楽しみな行事になっている。
- ・利用者が中心に花の苗を育てたり、野菜を育て、そして収穫するという積極的な園芸活動が行われている。今では利用者、職員と一緒にその成長を楽しみにしている。園の周囲の散歩の時間には多くの利用者が参加するようになり、その時々には咲き誇る花や植木に癒されている。
- ・「上肢・下肢のリハビリからトレーニングに最適」「無理なく筋力・動作向上に役立つ」という「アッパーローバイク」を購入。昨年度の「平行棒」に続き、利用者の健康維持、足腰の機能回復のための機器。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
月1回	ケアプラン会議	全員	ケース検討を丁寧に行い、アセスメントする力を養う。同時に、愚痴や弱音も吐ける場となるよう工夫した
不定期	職員会議	全員	法人の理念と現実の仕事との関連を考える機会とし、特に「心理的安全性」に配慮した時間とした。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

毎朝の引継ぎの時間、職員会議、ケアプラン会議等々においては、具体的支援の際の苦勞を共有できる時間になりたいと考えている。利用者との関係において、うまくいかない例や失敗例の中での職員の焦りや怒り、悲しみを共有し、同時にささやかな喜びも共有できる場になりたいと考え実践してきた。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	種別	日付	内容	人数
県老協及び中部地区連絡協議会	5月～3月	施設長、相談員、支援員、栄養士、看護師対象の各課題検討会	合計10	外部研修	5月～3月	【静岡県社協】 ・感染症講座 ・高齢者虐待の予防等々	
	4/2	新年度研修	4		7月～1月	【全老協】 ・全国老人福祉施設大会参加 ・リーダー研修会 ・その他	9
	6月～1月	主任等研修 柴田主任、森下相談員	2				
法人研修	6月～2月	施設長研修	1				
外部研修	7月	日本キリスト教社会福祉学会	1				

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
随時	自主短期宿泊制度	毎月平均2名～3名利用
12月	地域防災訓練の集合場所として駐車場の提供	約60名の地域の親子が参集

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
毎月1回	相寿園だよりを発行し、家族や関係機関に発送	約100部

G 苦情とその対応に関する報告

日付 誰から 内容 対応者 なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	35	ヒヤリ	76	虐待	0	身体拘束	3
----	----	-----	----	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

防災訓練は毎月1回、地震想定、火災想定、夜間想定など様々な想定の上で実施している。また建物が浜岡原子力発電所から直線距離で10km未満の場所に立地しているため、原子力災害を想定した訓練を行政関係者や設備関係の業者と共に年2回実施してきた。

J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告 (事業活動)

科目	2023年決算	2022年度決算	増減
サービス活動収益計	118,968,812	112,795,798	6,173,014
サービス活動費用計	112,488,675	103,784,915	8,703,760
経常増減差額	6,889,823	9,519,966	△2,630,143
特別増減差額	△395,600	△1,997,000	1,601,400
当期活動増減差額	6,494,223	7,522,966	△1,028,743

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (43,300円)

2 借入金償還報告

契約年月日 利率 期間 金融機関 借入額 償還額 残額 なし

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

特になし

M 実習生やボランティアに関する報告

- ・実習生…なし
- ・ボランティア1件…毎年4月に牧之原市人権擁護委員会のメンバーがひまわりの種の植付けに訪問されている。
- ・相良高校インターンシップ…相良高校、受け入れ先の相寿園ともに初めての試みであったが、2年生女子で「将来は介護の仕事に就きたい」という希望を持った生徒を。3日間の短い期間ではあったが、生徒にとっても施設にとっても貴重な経験となった。来年も打診があれば受入れたい。

N その他

退職者数	3月	常勤1名	累計数：常勤1名
------	----	------	----------

2022（令和4）年度 事業報告

養護老人ホーム
島田市立養護老人ホームぎんもくせい

A 当年度目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2022年度事業計画に関する報告(総括)
 - ・施設目標は、「①利用者の立場に立ち、②根拠のある支援、処遇を行う。」
 - ・・・訴えがあったら3日反応-1週間方針出しを伝えてきたが、大筋はこの通りに進んできた。しかし、やはり難しい案件は時間が掛かり、解決出来ないことが多い。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
 - ・職員会にて、「それでも一緒に歩いてゆく」輪読した。ほぼ毎月1ページから1ページ半2冊の冊子を用いて、輪読した。感想意見の交換は時間なく不実施。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
 - ① 法人-事業所との連携強化と作業の簡素化：客観的にデータ・根拠を示しつつ、かつ簡単な手続きでと、伝えてきたが、容易には出来なかった。次年度も継続。
 - ② 理念の浸透と実践：職員会冒頭に、『それでも一緒に歩いてゆく』を一段落ずつ読む。
 - ③ 職員育成：個別面談を実施。面接を行う。1業務のマニュアル 2緊急時のマニュアル(済) 3教え方のマニュアル 4働き方のマニュアル(済)の4標準化を進めた。3教え方MNは道半ば。個別面談は、1回少ししかできず。育成とは程遠いものだった。また、年齢の高い職員には変化を期待・要請すると、退職を仄めかされた。
 - ④ 職員の確保：ようやく、夜勤専門員が確保できた。今後は、支援員の常勤実人数向上が目標。収支とのバランスもあるが、常勤職員を中心に現場を固めて行きたい。

B 利用者と職員の状況報告（3月末の状況）

- 1 利用実績 *本入所のみ*の数字とする。市短期、契約入所含まず。

措置入所定員*	先月初の措置者実人数*	先月生活指導短期実人数	先月契約入所実人数	年延利用者*	月平均*	利用率*
50	38	0	6	12,560	13,725	76.2%
区分なし	要支援	要介護1~2	要介護3~5	知的障害	身体障害	精神障害
12	3	9	2	5	6	3

※3障害については、手帳の有無を根拠とする。区分には重複があり得る。

※年延利用者数は延入院者数を減じた本入所の施設利用者延べ総数。利用率はその割合。

- 2 職員状況

	施設長	副施設長	主任	支援員	生活相談員	看護師	小計
実人数	1	(1)	2	11(1)	1(2)	1	16(4)
常勤換算	1.0	(0.5)	1.5	7.4	1.0	1.0	12.4
	栄養士	事務員	宿直員	その他			合計
実人数	1	1	3	2		7	23
常勤換算	1.0	0.4	2.3	0.7		4.4	16.8

※先月月初配置数。主任職(主任支援員、主任相談員)は主任にのみ計上。()は兼務。その他は清掃員と看護師補助員。

- 3 残業、有給休暇取得状況(年間累計)

総残業時間	991.5 h	最高残業時間	293 h	有休取得率	63.6%
-------	---------	--------	-------	-------	-------

- 4 職員会議、委員会、外部委員会開催

開催日	種類	毎参加者	内容
月末	職員会	1名	懸案検討、連絡事項、事故等報告、法人報告等。
職員会前	主任会議	3名	施設長、主任相談員、主任支援員による検討会。
随時	各部との会議	5名	支援員の会議。
月中	給食会議	2名+業3名	委託事業者と懸案、連絡、相談。
月中	市連絡会	3名+市3名	島田市担当課に定期報告、相談。入所判定会。
第3水曜	施設管理者会	1名	法人一施設間で懸案の共有、連絡、相談。
第2水曜	高齢者部会	1名	部会内にて懸案共有、連絡、相談。

月中	リスク会議	4名	事故、ヒヤリ、苦情について報告、検討(施設内)
月中	拘束虐待会議	3名	身体拘束適正化、虐待について報告と計画
第1・3月曜	法人経営会議	1名	法人の主要懸案への意見具申。
随時	法人委員会	1名	栄養士会、研修委員会、看護師会。
月末	事務系会議	1名	部門事務連絡会、法人連絡会、月次監査。
随時	外部団体	1名	県老施協。県老施協中部支部。大津地区自治会。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

- ・座談会（意見表名の場）毎月初 ・5/19 運動会 ・8/18 夕涼み会 ・9/15 敬老会
- ・12/11 人形劇（エンママニュアル教会）・12/12 Xmas 会 ・1/12 新年会 ・2/2 豆撒き
- ・3/27. 31 花見外出

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 法人職員として、あるいは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
 - ・A2 と同じ。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して
 - ・親睦会会則を策定。2022 年度は結婚・出産・退職・異動等の事案 9 件に対応した。
- 3 研修

種別	回数	内 容（開催数）	人数
法人	19	オリエン T (1)、新年度研修 (1)、主任等研修 (5)、中長期計画研修 (10)、防災委員会研修 (1) 新入職員研修 (1)	29
中公養護研修	3	施設長研修 (1)、相談員研修等 (1) 事務職員研修 (1)	7
内部研修	2	食中毒研修 (1)、虐待防止研修 (1)	18
その他	1	簿記入門研修 (1)	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

- ・2月より大津買い物支援について車の準備開始した。実績なし。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告 ・10/15 保証人会

G 苦情とその対応に関する報告（前月分） ・苦情 0 要望意見 9

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 対象：1 年間

事故	69	ヒヤリ	284	虐待懸念	2	身体拘束	2
----	----	-----	-----	------	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・12/30 2 階入所者から出火。スプリンクラー作動により、大事には至らず。隣の永福荘デイドのホールにて休息させていただいた。感謝。

J 環境整備に関する報告（100 万円以上の修繕や改装など） ・施設による整備は無し

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

- 1 収支報告（事業活動） ※サービス活動収益の内、寄付金収益（100,000 円）

科目	2022 年度決算	2021 年決算	増減
サービス活動収益計(累計)	115,191,819	111,737,149	3,454,670
サービス活動費用計(累計)	121,147,210	111,880,793	9,266,417
経常増減差額	△5,954,712	△32,171	△5,922,541
特別増減差額	130,600	12,399	118,201
当期活動増減差額	△5,824,112	△19,772	△5,804,340

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	借入機関	借入額	償還額	残額
2023/3		年	法人本部	8,000,000	0	8,000,000

- ・入所者の減少等による収支状況の悪化のため、年度末に運転資金として法人本部から借入を行った。

L 主務官庁に関連した報告 ・島田市に要望書を昨年度に続いて提出。3/29 物価高騰対策援金 125 万。事務費の補填 4 月に遡って 50 人定員分頂けることに。合計 416 万。市長、副市長、担当課から①不合理な入所制限②同早期退所ないように。③経費削減によるサービスの低下ないように④火災復旧までの間の火事への警戒を強めるように、との申入れあり。

M 実習生やボランティアに関する報告 ・延 19 名来所。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等） ・なし

2022（令和4）年度 事業報告

通所介護
介護予防・日常生活支援総合事業
デイサービスセンター真菜

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

5月に新施設に移転し新たな歩みを始めることができました。移転後の利用者の稼働率が思うように伸びず、新型コロナウイルスの感染もあり、更に利用者減となってしまいました。職員のチームワーク作りに力を注ぎ、協力し合える職場環境は少しずつ整った。

2 事業報告

(1) 新施設でのスタート

5月1日に引っ越しを行い、2日から新施設での受け入れ態勢を整え、スムーズに移行できた。自立支援を継続して行い、安心・安全に過ごせるよう支援した。

(2) LIFEに関連する加算の取得

基本情報の入力のみで終わってしまい、加算算定は次年度に行う。

(3) 職場環境を整える

協力し合える職場環境は少しずつ整ってきたが、情報共有に課題あり。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

ひとりひとりの思いに寄り添い、利用者とともに行う活動を増やし、社会参加に繋がった。心を込めた支援を行う事で、気づきも増えて利用者の意欲向上や喜びも増えた。

4 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

(1) 職員の専門性とスキルアップ

介護福祉士を目指し、3名の職員が実務者研修を受講し、2名合格した。

主任等研修に職員2名参加し、学びをとおしてリーダーとしての成長が見られた。

(2) 地域との連携

生活困窮者への食糧支援を法人で1回、真菜で9月と3月に行った。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	登録者数 一月平均	利用者数	目標利用者 数一日平均	開所日数	一日平均	利用率
35	60.6	7,162	26.5	307	23.4	64.5%

区分による利用者数

(実人数)

事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
57	37	60	249	155	97	58	15

(延べ人数)

事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
268	140	441	2,626	1,891	992	632	172

2 職員状況

	施設長	生活相談員	介護員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1	11	3	1	3	20
常勤換算	1.0	1.2	6.7	1.9	0.5	0.9	12.2
計画との差	0	0	△0.8	0.2	0	△1.0	△1.6

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	668.5	最高残業時間	89.5	有給義務取得率	100	有給休暇取得率	75%
-------	-------	--------	------	---------	-----	---------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催数	種類	参加者数
毎月	職員会議	16名	10/14・3/28	法人防災委員会	2名
毎月	くもん月次検討会	8名	5/25・11/24	法人事故防止委員会	1名
毎月	DS会議	2名	毎月	業務改善委員会	5名
毎月	高齢者部会	1名	偶数月	ケース検討会	4名
毎月	施設管理者会	1名	3回	安全対策委員会	2名
4/27・10/28	法人苦情解決委員会	1名	奇数月	給食会議	1名

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 日課については、歩行訓練や午後の入浴、下肢筋力維持のための体操、手芸や書道等、ご利用者のやりたいことに取り組めるよう支援した。書道は書道展へ出展した。
- 2 行事については、季節の行事やご利用者の希望を叶える外出、手作り昼食やおやつ作りを行った。ケアセンター花もとと合同でハロウィンパーティも行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	理念の継承	全員	職員会議でサービス提供指針を読み合わせる
毎月	理念の継承	全員	それでも一緒に歩いて行くを読む

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- 1 毎月の職員会議でグループワークを行い、みんなで意見を出し合え、チームワーク良く働けるよう改善に取り組んだ。
- 2 行事担当を計画、実行することで、職員の気づきが増え、心を込めた支援も増えてきた。職員同士の褒める・認める・感謝する姿勢も増えてきた。ありがとうカードを作成し感謝の気持ちを伝えた。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	5/26	新人オリエンテーション	1	8/25	不適切なケアについて	15
	5/26	接遇・マナー・気づき	15	9/26	虐待防止について	15
	6/23	感じの良い挨拶	15	9/15	DS合同リスク研修	12
	7/19～	安全運転講習会 3回	17	11/10	DS合同感染症研修	12
	7/21	自立支援	15	3/16	虐待防止について	15
法人研修	4/2	新年度研修	4	6/17	新人職員研修	2
	4/1	新人オリエンテーション	2	10/14	防災研修会	3
	6/10～	主任等研修 6回	2	6/28～	管理者研修会 9回	1
施設外研修	9/9	安全運転管理者講習	1	2/7	認知症フォーラム	1
	11/2	セルフリーダーシップのススメ	1	1/17	くもんマスター	3
				1/25	指定研修	
	11/22	レク作りのポイント	1	2/20	虐待事故防止	1
	8/3～	実務者研修 11回	1	3/9	くもんマスター研修	2
	12/6～	実務者研修 11回	2	3/22	認知症基礎研修	1
			3/17	BCP策定研修	1	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
4月～	サロンの送迎	職員1名

8/9	小・中学生福祉体験	4名
9/8	ジョブシャドウウイング	相良高校 2名
9/28	ドリームフロンティア(職業体験)	榛原中学 2名
9/29	生活困窮者のための食糧支援 相良社協へ届ける	職員2名 利用者3名
10/27	平井農園収穫手伝い	職員2名 利用者3名
10/21	オリーブ摘み	職員2名 利用者5名
3/10	生活困窮者のための食糧支援 相良社協へ届ける	職員2名 利用者3名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
2月	介護者の集い	コロナ感染拡大の為、中止
毎月	真菜だより発行	利用者家族
3/11	満足度調査	利用者家族

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内容	対応者
8/19	利用者家族	連絡帳の記載内容について	主任生活相談員
3/11	老人福祉センター	FAXの誤送信について	主任生活相談員

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	23	ヒヤリ	58	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

事故：車輛事故8件 転倒8件 労災1件

ヒヤリ：送迎時の荷物の返し忘れ、転倒しそうになる、トロミ剤付け忘れなど。

※行政へ報告した事故1件（新聞配達のパイクと接触）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

日付	内容	参加者
毎月	施設防災訓練	職員・利用者
11/25	法人全体防災訓練	職員・利用者
11/10	DS合同 感染症机上訓練	職員15名

J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

新施設の建設、5月1日開所 9/26 防虫点検 10/7 給茶機点検 2/27 消防設備点検

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告 (事業活動)

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	65,179,592	76,895,663	△11,716,071
サービス活動費用計	76,954,222	68,872,413	8,081,809
経常増減差額	△11,549,975	8,184,630	△19,734,605
特別増減差額	△62,822,901	27,425,264	△90,248,165
当期活動増減差額	△74,372,876	35,609,894	△109,982,770

※サービス活動収益の内、寄付金収益 ()

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	借入機関	借入額	償還額	残額
2022/3		20年	法人本部	30,000,000	0	30,000,000

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

移転に伴い、住所変更等の申請を行った。

2/20 介護予防・日常生活支援総合事業の指定更新手続きを行った。

3/10 サービス提供体制強化加算の変更の届出を行った。

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生なし。コロナ禍でボランティアも受け入れを中止した。

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

1 創立 24 年

2 11/20、2/25 牧之原市介護者のつどいを開催した。

3 新型コロナウイルス感染 利用者 11 名 職員 10 名。

2022（令和4）年度 事業報告

認知症対応型通所介護 デイサービスセンターすずらん

A 2022 度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の 2022 年度事業計画に関する報告（総括）

利用者 1 人に対し、週の平均利用日数が 3～4 日、多い方では 6 日と増えている。その分、入院や長期ショートステイになる事で、利用人数が低下することもあったが、臨時利用やショートステイの休止もあり、稼働率は昨年より若干向上した。

入所を検討しているご家族が増えてはいたが、在宅での継続ができるようにケアマネジャーとの情報共有を密にとることで、体調の変化に対するケアの見直しや重度化した方の介護技術の勉強会等を開き、職員個人の技術アップに努めた。

8 月初旬に併設事業所でのコロナ感染症クラスターが発生し、休業期間があった。休業中は、電話で利用者の体調確認等をするとともに、クラスターの拡大を防ぐために、施設内の清掃消毒を徹底し、協力体制で感染拡大防止につとめた。営業再開してから併設事業所との同線区分けと感染対策を徹底することで、利用者様や職員への感染はなかった。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

50 周年記念誌の内容について職員同士が意見を出し合うことで、やまばとの歴史を理解し、利用者一人ひとりに合わせた接し方や職員とのコミュニケーションを図るようにした。その一方で、職員とご家族との信頼関係を築くことが難しい場面もあり、言葉遣いや記録の乏しさの課題が残りました。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

外部研修はお茶の水学院のネット配信を活用し、ミーティングや個人研修に活用することで、個人の学びの場を増やし、スキルアップを図りました。

地域貢献として、生活困窮者への食糧支援や地域サロンの出張レクに継続的に参加して、地域も高齢化の問題を抱えていることが分かった。高校生のインターンシップの受入れを行うことで、感謝の言葉の大切さを再確認することができた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
12	18	0	299	2684	8.9	74.8%
要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0	0	13	1	2	1	1

2 職員状況

	施設長	認知デイ管理者	相談員	介護員	看護師	運転手	事務員	合計
実人数	1	1	1	4	1	1	1	10
常勤換算	0.2	1.0	1.0	3.3	0.025	0.15	0.2	5.875
前年増減	0	0	0	-0.64	0	0	0	-0.64

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	583 時間 26 分	最高残業時間	435 時間 45 分	有給休暇取得率	72.5%
-------	-------------	--------	-------------	---------	-------

産休前の有休消化(2名)があり、高い取得率となった。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
月 1 回	恵の丘職員会議	1 名	各事業所・部門からの報告、業務改善提案、研修
月 1 回	すずらんミーティング	全員	業務等、利用者状況の共有、各委員会報告、研修
年 11 回	DS 真菜との合同会議	米山	通所の BCP/感染症対策の検討・訓練、介護技術等
年 2 回	法)事故防止委員会	小池	事故集計報告、各施設の取組、グループ事例検討他
年 1 回	法)防災委員会	米山	防災研修会、各事業所の BCP の共有等

年1回	法)虐待防止委員会	山脇	予防の為の取組報告、事例の報告・今後の対策
年2回	法)苦情解決委員会	小池	苦情解決経緯・対応等の検討、第3者委員講評
年3回	感染対策等委員会	米山	感染症及び食中毒まん延防止のための対策検討等
年3回	安全対策等委員会	米山	介護事故・虐待防止、身体拘束廃止の対策の検討
年6回	食事レク委員会	1名	献立・形態の検討、要望等、全体レク打ち合わせ等
年2回	運営推進会議	2名	施設運営実績の報告、意見交換、

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

電動ムーブサイクル2台を導入し、下肢筋力の維持を図った。座ったままで足の運動ができるため、歩行に不安のある方にも好評で、続けることができた。

外出は感染症による制限があり提供することがかなわなかったが、送迎時に外の景色の話題に触れ、目で楽しんでもらった。入浴の際には、湯舟につかりながら血圧の高めの方には、ご自身で足のもみほぐしを実施してもらったり、レク中の体操も自宅で行うような体操を行うように取り組んだ。

食事作りは、材料の選定からご利用者様と実施した。家族に作っていた頃を思い出しながらの作業で回想法にもつながった。自分たちが作った食事だったこともあり、いつも以上の食欲だった。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認知式するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月	理念の継承	全員	ミーティングでサービス提供指針の読み合せ 50周年記念誌の読み合わせ
		1～2名	50周年記念誌を黙読し、グループで感想を述べ発表

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して

ミーティングのクールダウンの際に、個人を知るためのゲームをし個々の価値観の違い等を知ることができた。又、事業所の課題抽出のため、アンケートを実施し、職員が不安に思っている事等を皆が共有し、改善にむけての話し合いができた。

3 研修報告

種別	日付	内容			人数	
施設内研修	毎月	感染症・認知症・身体拘束廃止・虐待・リスク・個人情報等			1	
DS内研修	年10回	業務改善・認知症・アセスメント・不適切ケア・嘔吐処理 身体拘束虐待・事故報告書の書き方・防災訓練シュミレーション・若年性認知症・ハラスメント・メンタルヘルス			全員	
法人研修	年6回	主任等研修	2	3/17	新人施設長・次期R研修	1
	6/17	新人中堅研修	1	10/14	防災研修	
真菜合同研修	年2回	リスク研修(シュミレーション) 感染症研修(シュミレーション)			全員	
施設外研修	8/3	認知症の人と寄り添う(ネット配信)			1	
	8/12	認知症高齢者とのコミュニケーション(ネット配信)			1	
	8/26	相談員の為の支援力アップ			1	
	11/22	利益を生み出す相談員の仕事(ネット配信)			1	
	11/22	アルツハイマー型認知症の理解(ネット配信)			1	
	1/21	心理学研修(ネット配信)			1	
	1/25	認知症ケアの理解(ネット配信)			1	
	2/14	介護業界の現状と介護ICTの必要性			1	
	2/16	生産性向上実や処遇改善の見直し 訪問相談			1	
3/28	法的根拠に基づく施設ケアマネジメント			1		

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
年 1 回	生活困窮者への食糧支援	全員
年 3 回	坂部ふれあいサロンにて遊びりテーション等	2 名
6 月	ウクライナ希望のつばさへの寄付	全員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
年 8 回	すずらん便りの発行	全利用者・家族
年 2 回	運営推進会議	

G 苦情とその対応に関する報告

危険道路の使用及び、速度がでていて、危険な運転をしているとの指摘あり。危険道路に関しては、その道路にご利用者様宅があるため、その時以外は使用しないことと、速度制限や交通ルールを守る事を職員全員に指導した。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	1	ヒヤリ	22	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	----	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

グレイスの防災訓練に参加、避難経路等、入所とは別ルートでの検証を実施。
9/18の突風の影響で、PCでのケース記録が不可能になった。9/20に復旧した。
9/23の台風15号、近隣では軽度な土砂崩れ等が発生していた。
ご利用者及び職員自宅の被害なく、施設にも被害はなかった。

J 環境整備 (100万円以上の修繕や改装など)

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況 (事業活動)

科目	2022 年度決算	2021 年度決算	増減
サービス活動収益計	33,569,747	31,512,453	2,057,294
サービス活動費用計	30,299,428	28,108,940	2,190,488
経常増減差額	3,281,639	3,407,723	△126,084
特別増減差額	△5,409,000	△2,192,000	△3,217,000
当期活動増減差額	△2,127,361	1,215,723	△3,343,084

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (なし)

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他)

事業者の指定更新申請手続きの実施(7月)

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア 4月～6月にかけて月3回ずつ、さくら会V0あり。
9月 敬老会余興にて 石神様V0
職業体験 3月22日～24日 インターンシップ 相良高校生 1名

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

大きな指摘事項なし。

2022（令和4）年度 事業報告

訪問介護事業
介護予防・日常生活支援総合事業
ライフサポートさふらん

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の2022年度事業計画に関する報告（総括）
事業所の活動方針である「可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けられる支援」をするため、利用者それぞれの状況や課題などの情報を職員で共有する事ができた。ご家族やケアマネジャーとの情報共有を行うことで、適切なケアに繋げることができた。全体のケア件数は前年度に比べ大幅に減少している。ホームヘルパーの確保に苦慮している状況です。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
職員会議等で「サービス提供指針」の唱和を必ず行なった。法人50周年記念誌の『それでも一緒に歩いていく』を読み、法人の歩みを知り自分たちのこれからについて考える研修を実施。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
理念の浸透と実践は、上記2のとおりです。聖書の学びは実施できませんでした。
職員の育成については、外部研修への参加が難しい状況の中オンライン研修を取り入れ、全員が受講できるようにした。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

介 護			総合事業		自費	合計
身 体	身体生活	生 活	訪問型	緩和型		
3,999	1,135	5	2,016	175	74	7,404

2 職員状況

役職・職務	実人員	常勤換算	備 考
施設長	1名	1.0	聖ルカホーム管理者兼務
ホームヘルパー	11名	—	正職員2名、パート1名 登録ヘルパー8名（他事業所兼務2名）
事務員	1名	0.5	聖ルカホーム事務兼務

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	938時間10分	有給休暇取得率	83.27%
-------	----------	---------	--------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内 容
毎 月	職員ミーティング	全 員	ヒヤリ、事故、苦情報告 ご利用者状況の共有 研修報告、事務連絡、研修会

C 利用者の喜びのために工夫したこと

- ① 介護保険外サービスで、お墓参り、受診付添、自宅の片付けなど利用者の希望を支援
- ② 利用者の趣味や興味のある事を事前に情報収集し、訪問時の会話を楽しんでもらった
- ③ 買い物支援では旬の食材などを提案し、食事で季節を感じられるようにしたところとても喜んでいただいた

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内容
各会議	理念の継承	全 員	サービス提供指針の読み合わせ
各会議	職場の倫理	全 員	服務心得の読み合わせ
毎 月	目標管理シート	全 員	施設目標、部署目標、個人目標の達成度を毎月振り返り次月に繋げる

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

職員会や各種会議では、全てのスタッフが発言できるように“会議の目的”を毎回確認した。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	5/9	感染予防策	9	6/23	薬との上手なつきあい方	1
	9/15	法人理念の研修	11	9/15	低栄養	11
	9/15	皮膚疾患	11	9/15	高血圧症	11
	10/20	健康体操	10			
法人研修	6/17	新人研修	1			
施設外研修	9/20	サービス提供責任者研修	1	9/28	特定加算研修	1
	10/26	自立に向けた訪問介護計画書作成	1	11 月	介護保険サービス提供事業者集団指導	1
	12 月	メンタルヘルス	1	2/9. 16. 20	訪問介護適正実施等研修	1
	2/13	認知症研修	3	2/21	牧之原市 介護保険サービス提供事業者集団指導	3

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

- ①介護保険サービス以外のサービスを実施
- ②社会福祉法人減免

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
10 月	ご家族アンケートの実施	ご利用者及びご家族

G 苦情とその対応に関する報告

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	23	ヒヤリ	5	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	---	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

ご利用者宅の自然災害などの予想状況を調査し、訪問時に災害があった場合のヘルパーの取るべき行動について話し合いを行った。

J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告 (事業活動)

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	28,125,251	32,485,344	△4,360,093
サービス活動費用計	26,426,667	32,170,996	△5,744,329
経常増減差額	1,555,098	166,347	1,388,751
特別増減差額	△216,425	0	△216,425
当期活動増減差額	1,338,673	166,347	1,172,326

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (0円)

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014.10.7	0.57545	10年	静岡銀行	5,000,000	1,291,500	3,708,500
2014.10.7	0.695	30年	島田掛川信用金庫	22,500,000	5,391,618	17,108,382

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

指定更新・・・自立支援型訪問サービス (事業所一体型) 事業

(指定期間 2023年4月1日～2026年10月31日)

M 実習生やボランティアに関する報告

なし

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

なし

2022（令和4）年度 事業報告

居宅介護支援事業所
シャローム

A 2022 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の目標と事業計画
 - ・基本理念を意識して、利用者・職員・地域とともに、その人に喜びを与え、その人を活かす支援と事業運営を常に心がけ、実践した。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - ・毎月の職員会で法人記念誌「それでも一緒に歩いていく」を読み合わせ、理念の浸透が図れるよう、グループワークを行う事で共に分かち合う時間を持った。
 - ・利用者、家族と円滑なコミュニケーションを図ることに努め、常に感謝の気持ちを言葉にして伝えるよう心掛けた。
 - ・地域との繋がりを深め、インフォーマルな支援を組み入れたサービス計画を作成した。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
 - ・介護支援専門員実務研修者に対しOJTにて指導を行い、当事業所に異動後も丁寧な助言、指導を行い、理念に基づいた支援ができるよう育成している。また、法人内の他事業所ケアマネに対しても相談や助言、丁寧なフォローを行った。
 - ・生活困窮者への食糧支援、地域サロンへの出張レク等で地域とのつながりを深めた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

2023.3月末現在

定員	契約者数	昨年比	開所日数	延利用者数	月平均	利用率
59	26	+15	251	423	35	72.9%
総合事業	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0	2	12	11	5	4	2

※2023.11月～介護請求常勤換算が1⇒1.7に変更。

2 職員状況

	施設長	主任介護支援専門員	介護支援専門員	事務員	合計
実人数	1	1	1	1	3
常勤換算	0.05	1.0	0.7	0.05	1.8
前年増減	0	0	0.7	0	0.7

※2023.11月～介護支援専門員1名（パート職）増員。

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	325時間 0分	最高残業時間	324時間 0分	有給休暇取得率	31.7%
-------	----------	--------	----------	---------	-------

・毎週月曜日をノー残業デイとしたが実施できなかった。また、リフレッシュ休暇として有給休暇を有効的に活用することができなかった。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内容
月1回	経営運営会議	栗林	恵の丘3施設全体の運営について検討
月1回	恵の丘職員会議	全員	各事業所・部門からの報告、業務改善提案、研修
年2回	感染対策委員会	栗林	感染症の予防・まん延防止のための対策を検討
年2回	虐待防止委員会	栗林	組織・指針の整備、研修、体制整備、防止策等
月1回	市主任ケアマネ会議	栗林	ケアマネ育成・資質向上のための研修企画・講師
年3回	市ケアプラン点検	栗林	給付適正化事業・ケアプラン検証・事例提供者への助言等
年1回	市介護予防ケアプラン会議	栗林	ケアプラン、地域課題の検証・事例提供者への助言等
年2回	法)事故防止委員会	栗林	事故集計報告、各施設の取組、グループ事例検討他
年2回	法)防災委員会	栗林	防災研修会、各事業所のBCPの共有等
年1回	法)虐待防止委員会	山脇	予防の為の取組報告、事例の報告・今後の対策、
年2回	法)苦情解決委員会	栗林	苦情事例の解決経緯・対応等検討、第3者委員講評

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・末期癌の支援等、日毎にプラン変更となったが、最後まで本人の望む生活が実現できるよう支援した。また、本人のみならず家族の心のケアにも配慮し、場合によっては支援終了後であっても利用者家族に対して思いを聴く等、グリーフケアを行った。
- ・給付実績に繋がらないケースであっても、不安や思いに寄り添いながら相談にのり、安心して頂けるような支援を行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
月 1 回	理念の継承	全員	職員会で法人記念誌の読み合わせとGW

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ・新人ケアマネに対しプリセプター制度を導入し、1ヶ月間はケースを持たず同行にて学び、常に報告・相談しやすい環境を心掛け、ケース理解を深める時間を設けた。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容				人数
施設内研修	年 7 回	感染症・認知症・身体拘束廃止、虐待、リスク、個人情報等				全員
法人研修	4/2	新年度研修	1	11/25	法人防災訓練	1
	年 3 回	主任等研修	1	3/17	新施設長・次期リーダー研修	1
施設外研修	7/29	床ずれ対策セミナー	1	8/12	精神障害の基礎知識とCSWの進め方	1
	8/20	発達障害の基礎知識と理解	1	8/22	高齢者の薬の特徴・注意点	1
	8/31	権利擁護研修	1	9/16	発達障害と認知症・精神障害について	1
	10/8	適切なマネジメント手法の概略と使用方法	1	10/25	居宅介護支援のためのBCP作成セミナー	1
	11/9	適切なケアマネジメント手法の手引き	1	11/10	介護予防ケアマネジメントオンデマンド研修	1
	11/15	事例検討会	1	1/31	認知症の人が安心する事例	1
	1/31	自立支援型ケアプラン作成セミナー①	2	2/2	自立支援型ケアプラン作成セミナー②	2
	2/21	牧之原市集団指導	2	2/23	R4 年度 身体拘束廃止フォーラム	1
2/28	課題整理総括表勉強会	2	3/28	法的根拠に基づく施設ケアプラン作成セミナー	1	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
年 1 回	生活困窮者への食糧支援	全員
9/8	牧之原市医療介護連携、基幹病院との情報交換会	栗林
10/21	榛原地区民生委員との交流会	栗林
年 2 回	坂部ふれあいサロンにて遊びりテーション	栗林

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
月 1 回	利用者宅訪問（状況に応じ月 1 回以上）	ケアマネ 2 名 全利用者宅

G 苦情とその対応に関する報告

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	0	ヒヤリ	0	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・恵の丘の防災訓練に参加。今年度は11月よりケアマネ2人体制になったことで防災訓練において机上訓練を実施することができた。また、地域民生委員とも災害時台帳作成にあたり協力しながらあたりたい等の意見交換の場を持つ事ができた。

J 環境整備に関する報告 (100万円以上の修繕や改装など)

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告**1 収支報告 (事業活動)**

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	5,237,808	4,614,416	623,392
サービス活動費用計	8,904,248	6,925,911	1,978,337
経常増減差額	△3,526,357	△2,311,495	△1,214,862
特別増減差額	3,468,000	2,192,000	1,276,000
当期活動増減差額	△58,357	△119,495	61,138

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (なし)

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他)

令和5年3月7日、介護保険施設等の運営指導を受け、実施結果は指摘事項なし。

M 実習生やボランティアに関する報告

- ・令和3年度介護支援専門員実務研修OJTの実習を受入れ、主任ケアマネによる3日間の実習指導と模擬面接から課題分析、プラン作成までの実施を指導した。
- ・恵の丘へのボランティア受け入れ時の対応に協力。
- ・ケアマネジメントにおいて、地域のボランティアとも連携しインフォーマルな支援と位置付けて支援した。

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

なし

2022（令和4）年度 事業報告

牧之原市包括支援センター
オリーブ

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について
適切な職員配置・確保ができず、職員育成まで至らなかった。
- 2 事業報告
 - (1) 適切な介護予防ケアマネジメントで自立支援、重度化防止に努力した。
 - (2) 地域ケア会議を開催し、利用者のネットワークができ、生活しやすい環境作りに努めた。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) ひとりひとりが人としての尊厳を保ち、その人らしい生活が送れるよう、「個人を尊重する支援」を目指しました。相談対応に当たっては礼儀を失わないように努めましたが時々慣れた対応をしてしまい苦情につながるケースがあった。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 地域貢献：地域高齢者に対し健康になるような啓発事業に取り組みました。
 - (2) 職員育成：高齢者と障がい者のケース会議を通してその人らしい生活が送れるように相談支援に力を入れ、スキルアップに努めました。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	合計
給付	79	78	80	77	74	77	77	74	71	73	69	75	904
総合	83	79	75	74	78	72	70	71	70	60	53	60	845
実態把握	22	32	24	29	31	22	29	19	23	24	50	15	320

2 職員配置予定

	施設長	社会福祉士	保健師(準 ずる者)	主任ケアマネ	ケアマネ	主事	事務員	合計
実人数	1	2	2	2	0	2	1	10
常勤換算	1.0	1.75	2.0	1.75	0	2	0.47	8.97
退職者数	0	0	0	0	0	0	0	0

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	119.33	最高残業時間	44.83	義務有休取得率	100%	有休取得率	90.48%
-------	--------	--------	-------	---------	------	-------	--------

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月第1火	職員会	11	毎月第2水	(法)高齢者部会	1
毎月第1火	権利擁護検討会	2	毎月第3水	(法)管理者会	1
10日前後	主マネ連絡会	2	毎月第2火	(法)研修部会	1
4/21. 11/29	策定懇話会	1	年2回	(法)事故防止委員会	1
年2～3回	ケアマネ連絡会	2～4	年2回	(法)苦情解決委員会	1
	事業所連絡会	2	年3回	(法)防災委員会	1
第2・4水	支援センター連絡会	2	2/15	(法)虐待防止委員会	1
奇数月木	高齢者障害者連絡会	2	年3回	民協での研修会	2～8

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 利用者さん個々にあった自立支援のプランを作成し事業所と連携して支援した。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
第1火	理念の継承	全員	職員会で理念とサービス提供指針を讀合せた

月1回	課題整理総括表作成	プランナー	個々のケースで作成、生活の見通しを立てる
-----	-----------	-------	----------------------

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記の事を行った。

(1) 同じ事務所にいる生活支援センターと常々情報を共有した。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	第2火	虐待・感染症・防災・個人情報管理・事故・苦情・全方位	8			
法人研修	4/2	新年度研修	8	4回	主任等研修	2
	6/17	キャリアアップ研修	3	4回	管理者研修	1
施設外研修	2/21	牧之原市集団指導	2	9/8	介護・医療連携研修	6
	3/3	地域ケア会議研修	3	5回	認知症関連研修	3

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

	日付	内容	参加者
啓発	年間 合計 20回	サロン等高齢者集まり	高齢者・職員
支援	年間 合計 3回	事業がサロンに行く時支援をした	事業所・職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

1 毎月1回「ええあんばい」の機関誌を発行し、市内在住の高齢者から俳句の投稿を募った。作品を掲載することで自立支援促進をはかった。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

日付	誰から	内容	対応者
4/6. 6/20. 7/30 9/26. 9/29. 11/11	窓口相談者	面談時職員が少し笑ってしまい相談者にきちんと向き合えなかった。	職員
	在宅利用者家族	予定時間に来なかった等	職員

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の報告

事故	3件	ヒヤリ	0件	虐待(ケアマネ支援)	3件	身体拘束	0件
----	----	-----	----	------------	----	------	----

虐待事案については市と協働して対応し、ケアマネ・在宅支援にあたる。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 1 法人のBCPを確認する。包括のBCP作成中、3包括と市で共有していく。
- 2 法人の安否コールによる情報伝達訓練と市の伝達訓練に参加した。
- 3 牧之原市総合防災訓練や法人合同防災訓練に参加した。

J 環境整備に関する報告

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	47,744,089	40,256,874	7,487,213
サービス活動費用計	48,200,351	40,748,028	7,452,323
経常増減差額	△420,875	△490,094	69,219
特別増減差額	0	0	0
当期活動増減差額	△420,875	△490,094	69,219

ケアマネジメント業務、総合事業、介護予防事業、啓発事業、任意事業、など市からの委託業務を受けて実績を上げたがすべての任意事業が100%は出来なかった。

2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

1 4月に市へ包括体制の届け出をする。

M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 受診時の送り出し支援の為にボランティアさんに依頼。
- 2 実習生 なし

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

1 公益的な機関として健康福祉センターさざんかに事業所がある為、公正中立性の高い事業運営に留意して事業に携わり、運営協議会に報告説明第3者評価を受けた。

2022（令和4）年度事業報告

介護予防拠点施設
コミュニティセンターぶどうの木

A 2022年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について
整備環境を整え安全で安心して利用できるよう配慮しながら、各人の目標を目指した支援を行った。
- 2 事業報告
 - (1) 自信を持って生活できる支援
自立体力は低下しているが笑顔を引き出しプランを目指し支援を行った。
 - (2) リスク対策
高齢者虐待・感染防止・事故防止・備蓄品・災害対策等チェックリストを活用した。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
「それでも一緒に歩いていく」「サービス提供指針」「わたしたちの願い」を読み合わせをして確認した。毎月の職員会、日々のミーティング時を活用した。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) 職員の育成
 - ① 研修参加後、内部で報告会を行い質の向上に努める
法人防災研修 外部感染症 施設内感染症、事故防止、法令遵守、防災等研修実施。
 - ② 各種マニュアルの見直しを行い責任を持って業務を遂行する事はできなかった。
 - (2) 地域福祉への貢献
 - ① 在宅高齢者の健康維持に関する支援を行う
サロンへ出向き「ポイント啓発」を実施した。(12回 延べ147名)
 - ② ふれあいサロン等へ参加協力する。
各地域サロンで予防教室を開催した。回数は上記と同様。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

種別/定員	延登録者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
短時間デイ/15	592	-7	199	1908	9.6	63.9
短時間リハ/10	168	138	94	377	4.0	40.1
ほっとサロン/15	133	-20	24	222	9.25	61.67

要支援区分

一般	事業対象者	要支援1	要支援2
133	560	94	106

2 職員状況

	施設長	常勤専任	パート支援員	事務員	合計
実人数	1	1	4	3	9
常勤換算	0.4	1.0	2.2	0.4	4.0
計画との差	0.07	0	-0.48	0.01	-0.4

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	40	最高残業時間	29	有休義務取得率	60	有給休暇取得率	88.1
-------	----	--------	----	---------	----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	5	隔月	合同カンファレンス	3
毎月	S C居場所づくり検討	3	隔月	法人編集委員会	1
年3回	法人防災委員会	1	年2回	法人苦情解決委員会	1
年2回	法人事故防止委員会	1	2/15	法人全体虐待防止委員会	1

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 毎月初に誕生者の紹介と写真にメッセージを添えてプレゼントした。
- 2 特別行事として「納涼祭」「敬老会」「クリスマス会」を実施した。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	理念の継承	全員	・ミーティング時サービス提供指針を読み合わせた ・職員会議に6つの願い唱和し 「それでも一緒に歩いていく」を読み合わせた

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ① 職員会議等1時間以上の場合はコーヒータ임을設けた。
② 施設内で昼食時にお寿司を取り寄せて頂いた。

- 3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	8/9	感染症(熱中症・食中毒・新型コロナウイルス)	全員	9/13	防災(災害対策チェックシートから)	全員
	10/11	事故防止(救急・交通事故・KYT)	全員	11/8	法令遵守・人権の尊重	全員
法人研修	4/2	新年度研修	全員	7/26～11/29	管理者研修	1名
	6/10	主任等研修	1名	10/14	災害時事例・防災知識	2名
施設外研修	4/25	認知症 二段階方式	1名	11/10	感染症濃厚接触者リスト・ゾーニングの考え	2名
	2/21	牧之原市集団指導	1名			

コロナ禍で家族対応などがあり職員が施設外研修に参加できなかった。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内容	参加者
12/4	地域防災訓練に参加した	職員1名
年12回	地域ポイント啓発(坂部サロン含む)実施	延べ職員16名 延べ利用者147名
月1回	お茶飲み会(中地区)10回実施	延べ利用者42名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

毎月1回お便りを発行した。

アンケートを実施し事業所への不満はなかったが、利用者の歩行、認知面を心配しているご家族が増えていた。結果は書面で報告した。

G 苦情について対策(前年度を振り返って考えること)

なし。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	3	ヒヤリ	0	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：転倒1件・・・リハ終了後上着を着る際にバランスを崩し転倒した。

痛み1件・・・リハ提供中膝の痛みが生じた。

怪我1件・・・脱衣所のドアに指が当たって皮がむけた。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

10/11～17 施設防災訓練実施 11/25 法人防災訓練実施

12/4 地域防災訓練に参加

J 環境整備に関する報告 (施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など)

5/13・11/10 消防用設備等点検

6/2/・9/15・12/12・3/2 浄化槽保守点検 (法定検査9/2 清掃3/16)

8/1/・8/18 空調整備修理 1/19 エレベーター定期点検 1/11 自動ドア保守点検

3/8 電気設備定期調査

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

- 1 収支報告(事業活動)

科目	2022年度決算	2021年度決算	増減
サービス活動収益計	15,782,300	15,653,600	128,700
サービス活動費用計	16,194,108	15,660,251	533,857
経常増減差額	△401,291	△2,809	△398,482
特別増減差額	0	0	0
当期活動増減差額	△401,291	△2,809	△398,482

2 借入金償還報告

なし。

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし。

M 実習生やボランティアに関する報告

なし。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

2009年4月から受託し14年目となる。

5年ごと指定管理者制度により更新していく必要がある。

1回目 2009年4月→2014年3月末 2回目 2014年4月→2019年3月末

3回目 2019年4月→2024年3月末

付属明細書

該当なし